

■ 前提条件および注意事項

- 移行元に展開したミドルウェア、アプリケーション等は移行先に新規にインストールする必要があります。ミドルウェア、アプリケーション等の移行手順は、提供元のベンダーにお問合せください。
- 本手順では、データ移行にデータボリュームを利用します。
- 移行作業にかかる時間は、データの容量やネットワーク環境によって異なります。

1.1.7 仮想サーバーインスタンス新環境移行 (Windows Server+RDS SAL) データ移行手順

つながり。驚きを。幸せを。



- 移行作業内容 (Windows Server)
 1. 移行元環境での移行準備
 2. 移行先のサーバーを作成
 3. 移行元のドメインに移行先環境を参加
 4. 移行元から移行先へFSMOの移管
 5. 新環境のRDSの構築
 6. 移行元からのユーザーデータの移行
 7. 旧環境の削除

※本手順書にて登場するサーバの役割は以下の通りです

<移行元環境>

ya-RDS-dc-w2012	192.168.10.3	ドメインコントローラー
ya-RDS-sh-w2012	192.168.10.4	セッションホスト
ya-RDS-sal-win2012	192.168.10.5	ライセンスサーバー

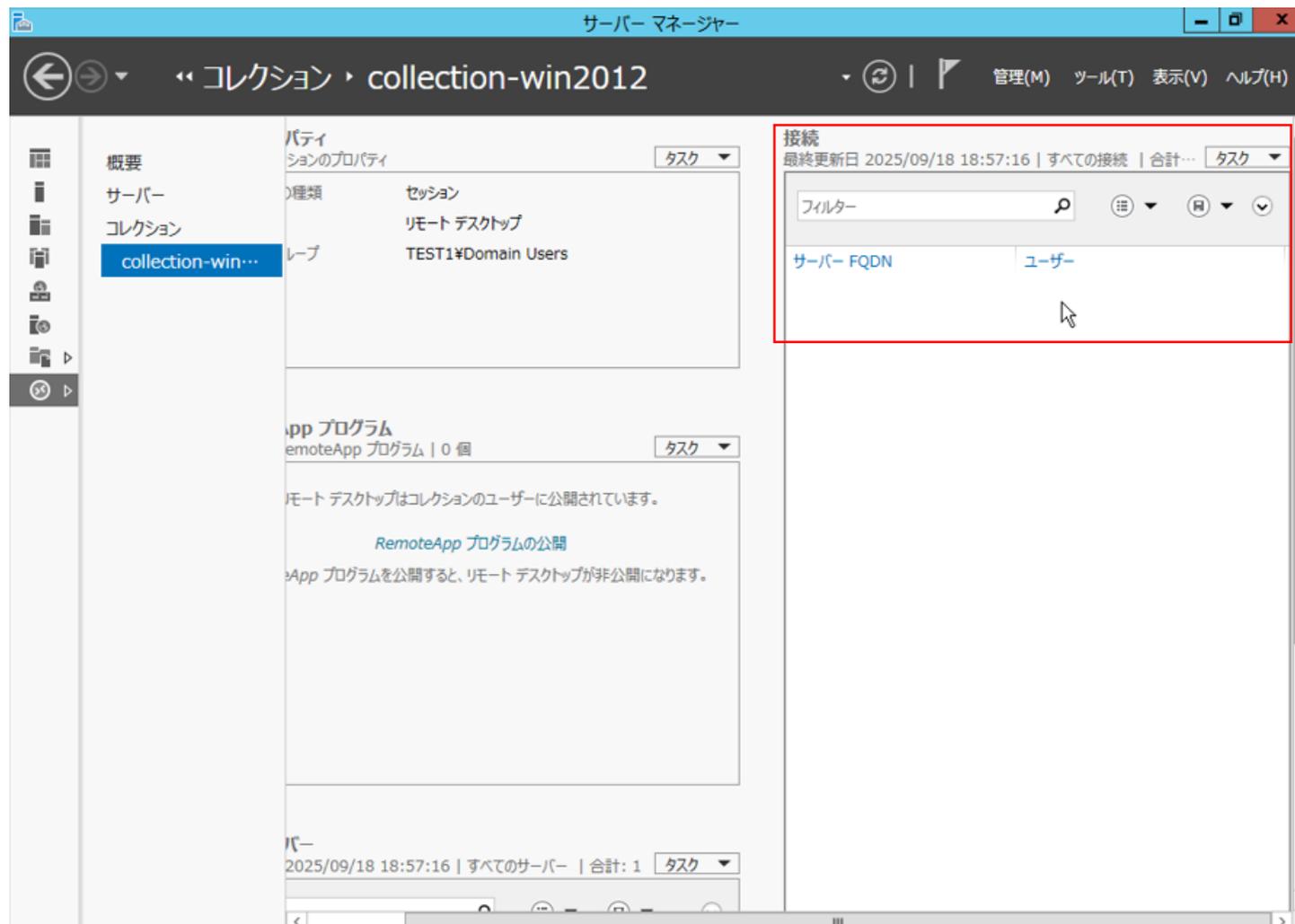
<移行先環境>

ya-RDS-dc-w2022	192.168.10.6	ドメインコントローラー
ya-RDS-sh-w2022	192.168.10.7	セッションホスト
ya-RDS-sal-w2022	192.168.10.8	ライセンスサーバー

1. 移行元環境での準備

接続しているリモートデスクトップユーザーをログアウトしておきます。

※接続の欄にリモートデスクトップユーザーが表示されていないことをご確認ください。



1. 移行元環境での準備

以下リンクを参照して、バックアップデータ保存用のボリュームを作成します。

[データボリュームの新規作成](#)

作成するデータボリュームは、以下の通りです

- ・ボリュームソース : ソースの指定なし(空のボリューム)
- ・サイズ : 移行元インスタンス作成時のデータボリュームの容量
- ・ボリューム種別 : Type-A

以下リンクを参照して、バックアップデータ保存用のボリュームを移行元サーバのインスタンスへ接続します。

[インスタンスへのデータボリュームのアタッチ](#)

1. 移行元環境での準備

SDPFポータルへログインし、[仮想サーバー]>[サーバーインスタンス]>[インスタンス]メニューを開きます。



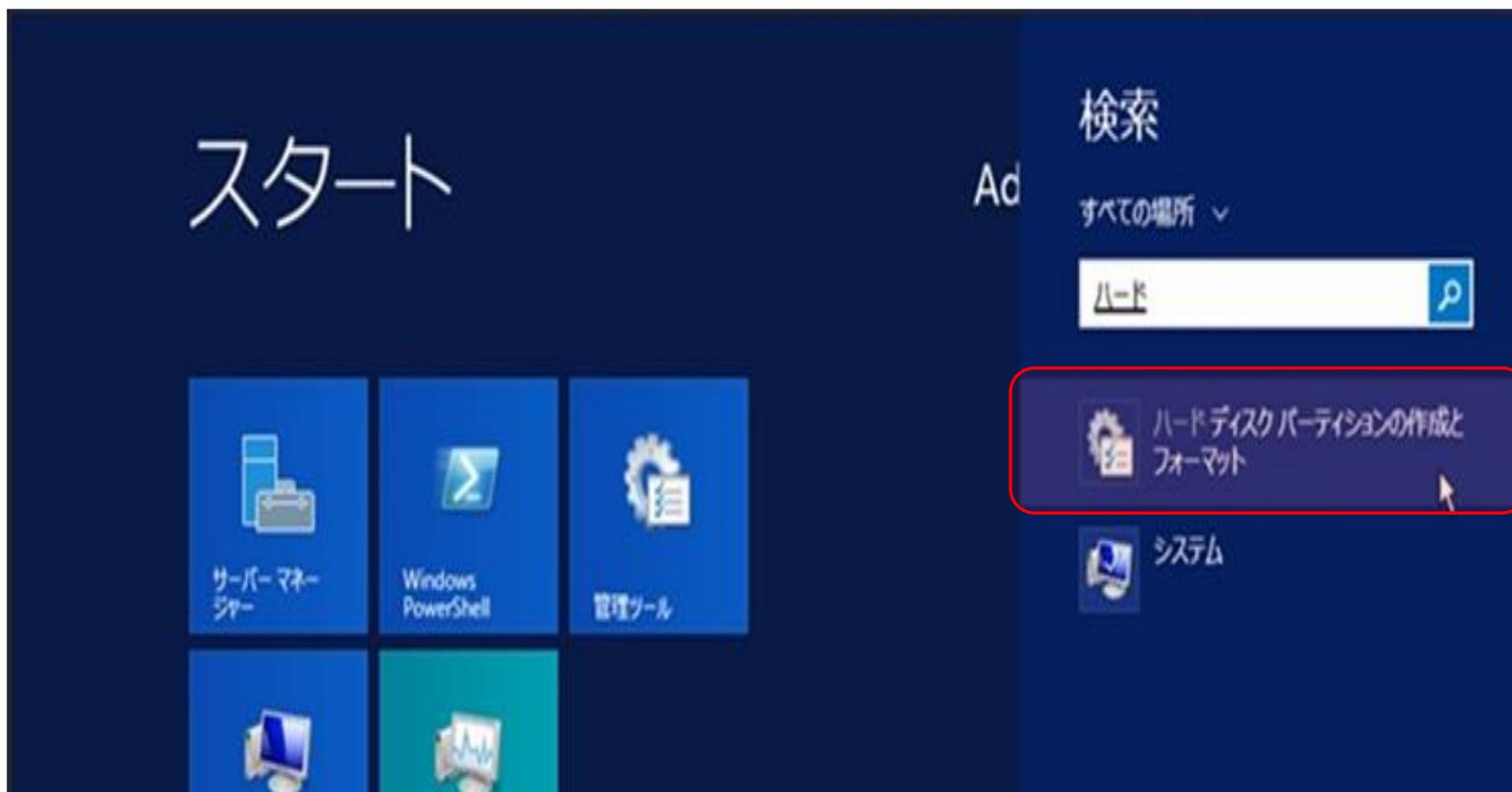
1. 移行元環境での準備

移行元サーバを選択し、詳細画面を開き、[コンソール]タブを選択します。

The screenshot displays the user interface of the Smart Data Platform. At the top, there is a navigation bar with the 'Smart Data Platform' logo, the 'NTT docomo Business' logo, and a 'メニュー' (Menu) dropdown. Below the navigation bar, a sidebar on the left contains a list of navigation items: 'テナント情報' (Tenant Information), '仮想サーバー' (Virtual Server), '物理サーバー' (Physical Server), and 'ハイパーバイザー' (Hypervisor). The main content area is titled 'インスタンスの詳細:' (Instance Details:). Below this title, there are three tabs: '概要' (Overview), 'セキュリティグループ' (Security Group), and 'コンソール' (Console). The 'コンソール' tab is highlighted with a red rectangular border, indicating it is the selected view.

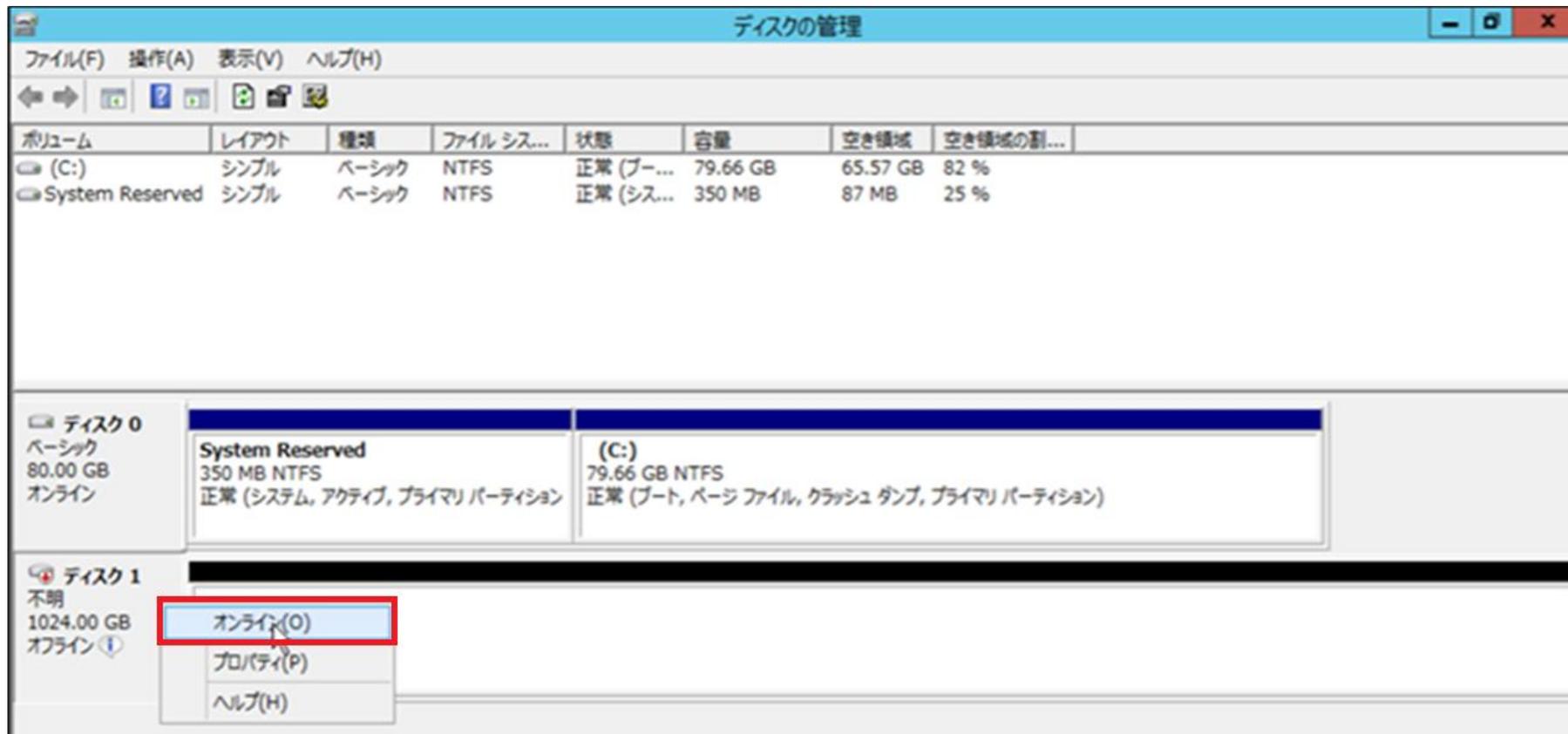
1. 移行元環境での準備

移行元サーバーにログインして、「検索」ボックスから「ハード ディスク パーティションの作成とフォーマット」を検索し、結果の一覧で、「ハード ディスク パーティションの作成とフォーマット」を開きます。



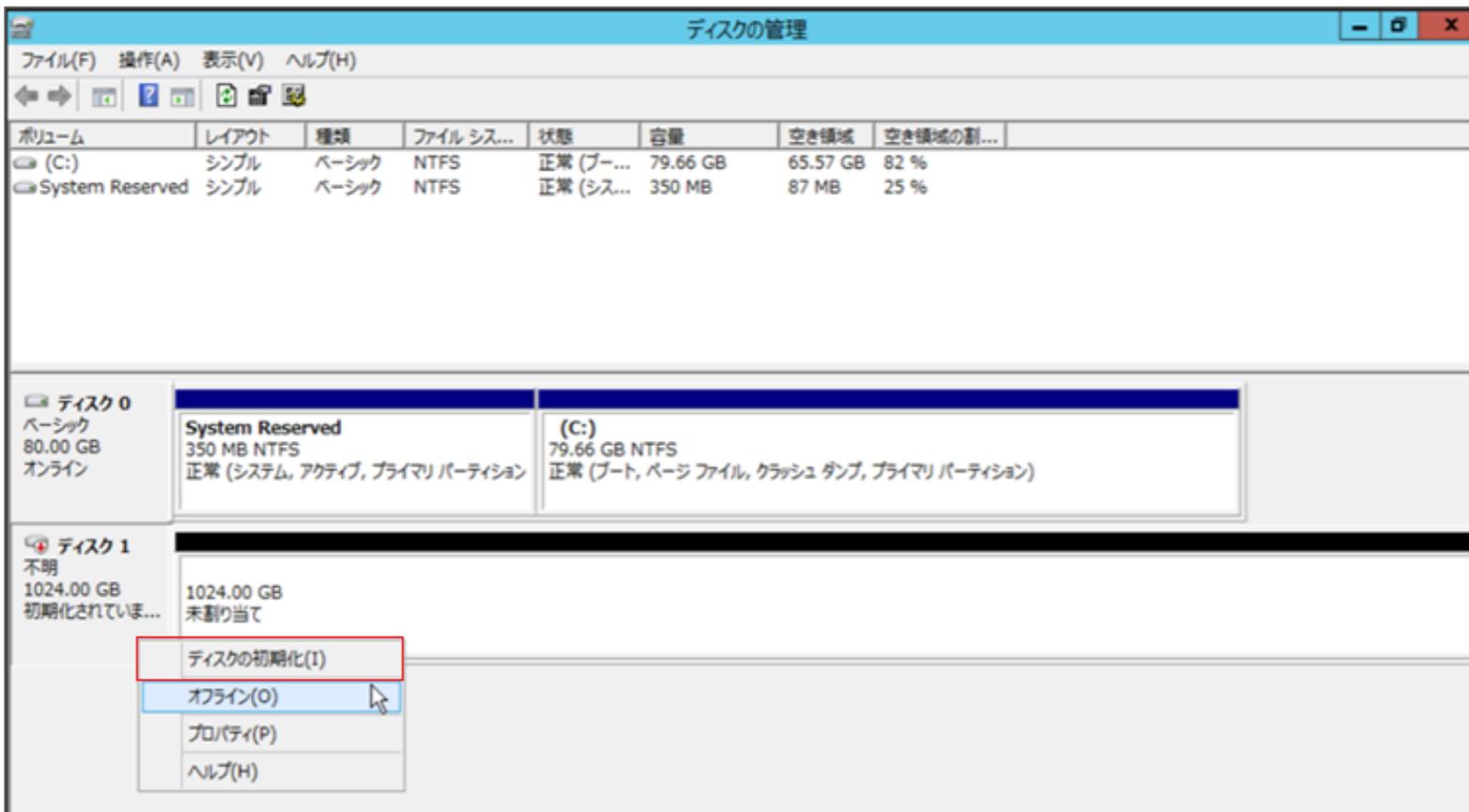
1. 移行元環境での準備

「ディスクの管理」が開くので、初期化するディスク上で右クリックをし、「オンライン」を押下します。



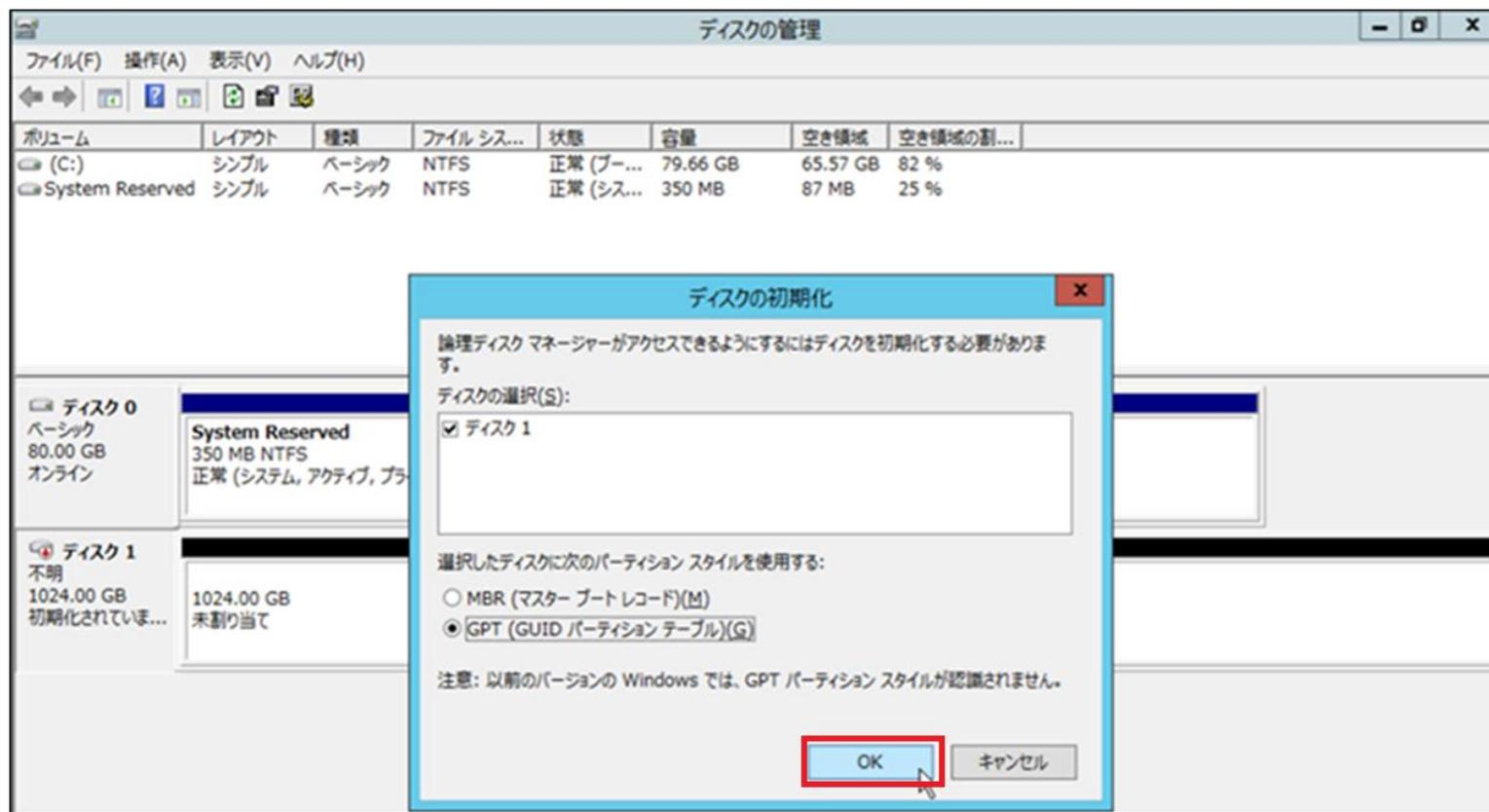
1. 移行元環境での準備

「オンライン」押下後、再度、初期化するディスク上で右クリックをし、「ディスクの初期化」を押下します。



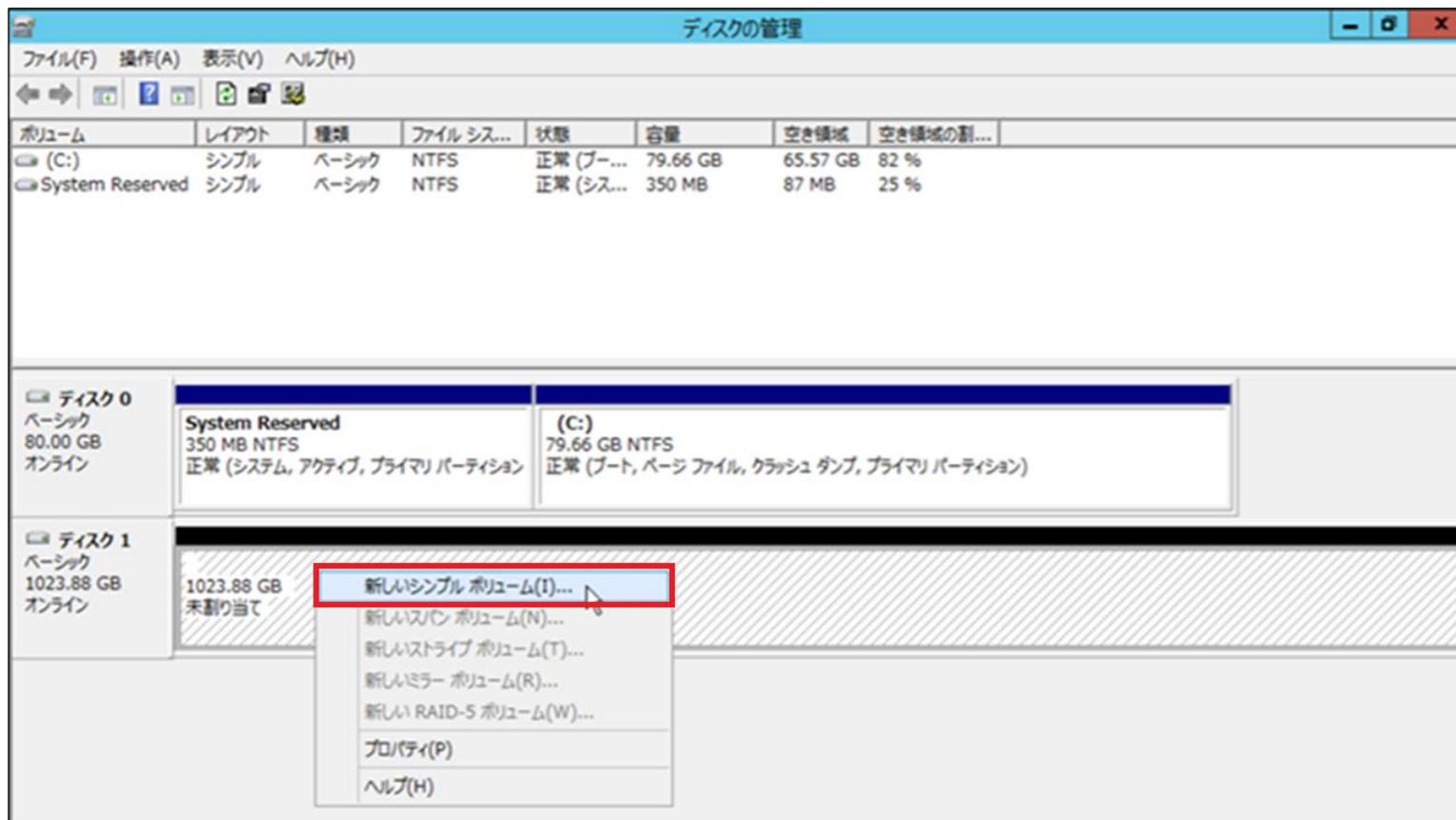
1. 移行元環境での準備

「ディスクの初期化」画面が表示されるので、「GPT (GUID パーティション テーブル)」を選択して、「OK」を押下します。



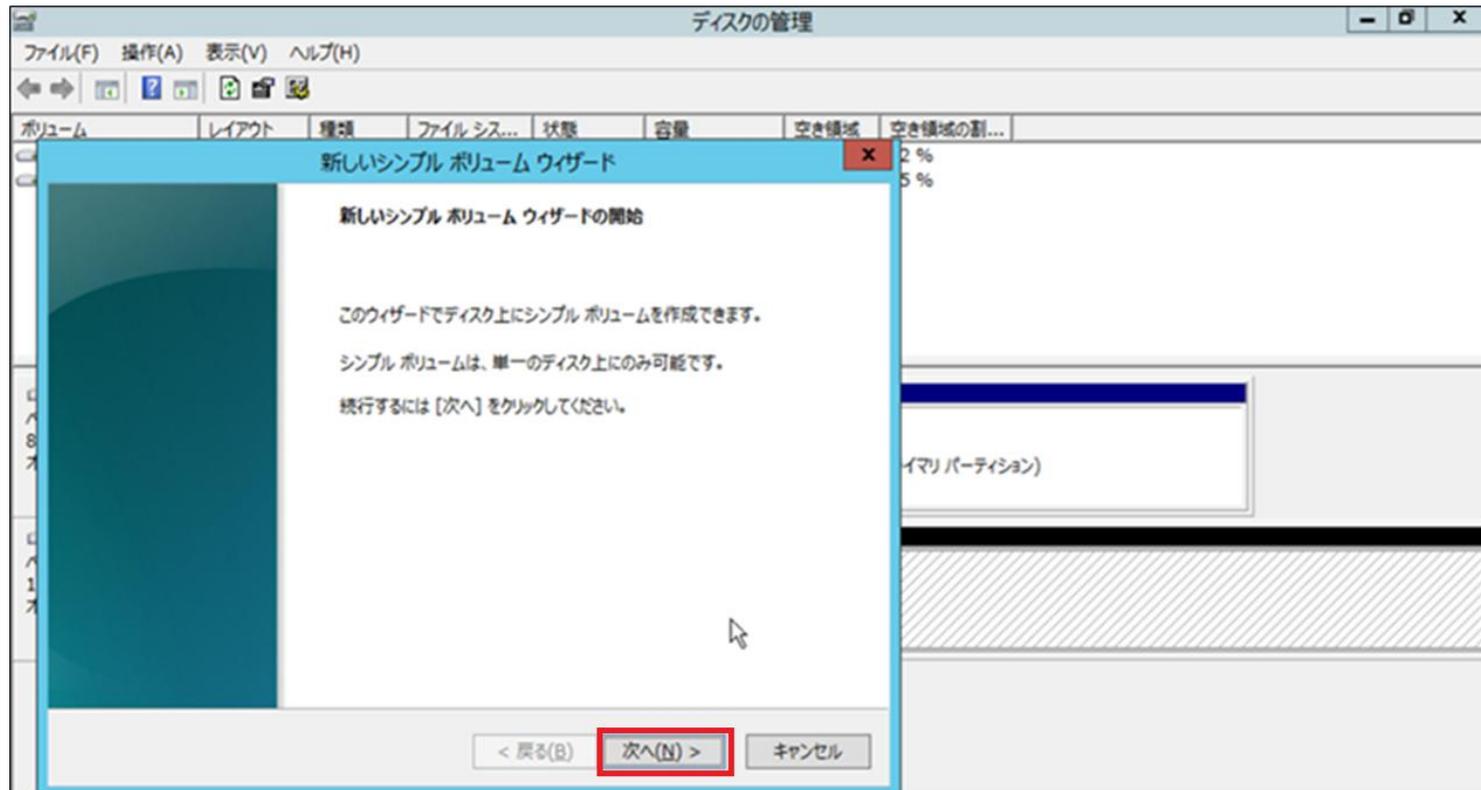
1. 移行元環境での準備

初期化したディスク上で右クリックをし、「新しいシンプルボリューム」を押下します。



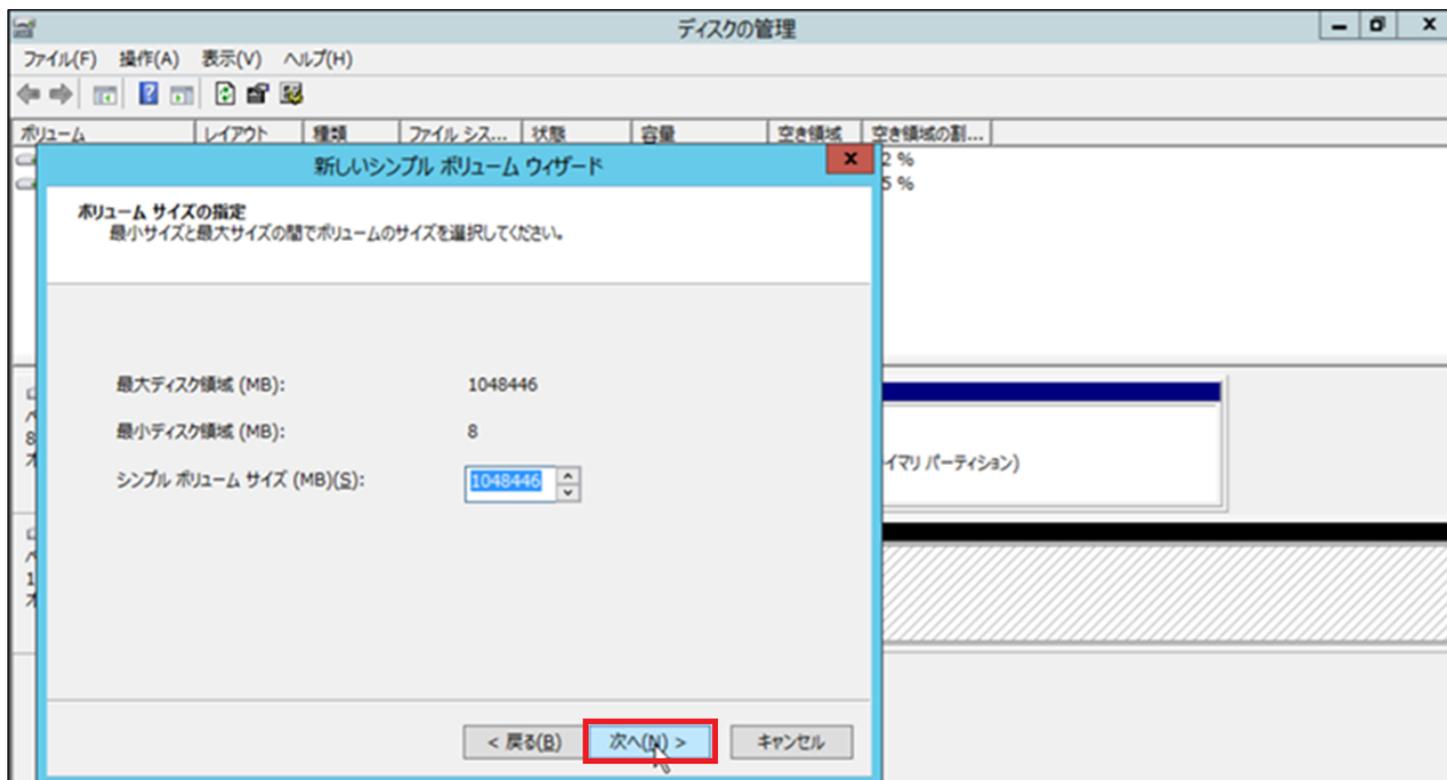
1. 移行元環境での準備

「新しいシンプル ボリューム ウィザード」画面が表示されるので、「次へ」を押下します。



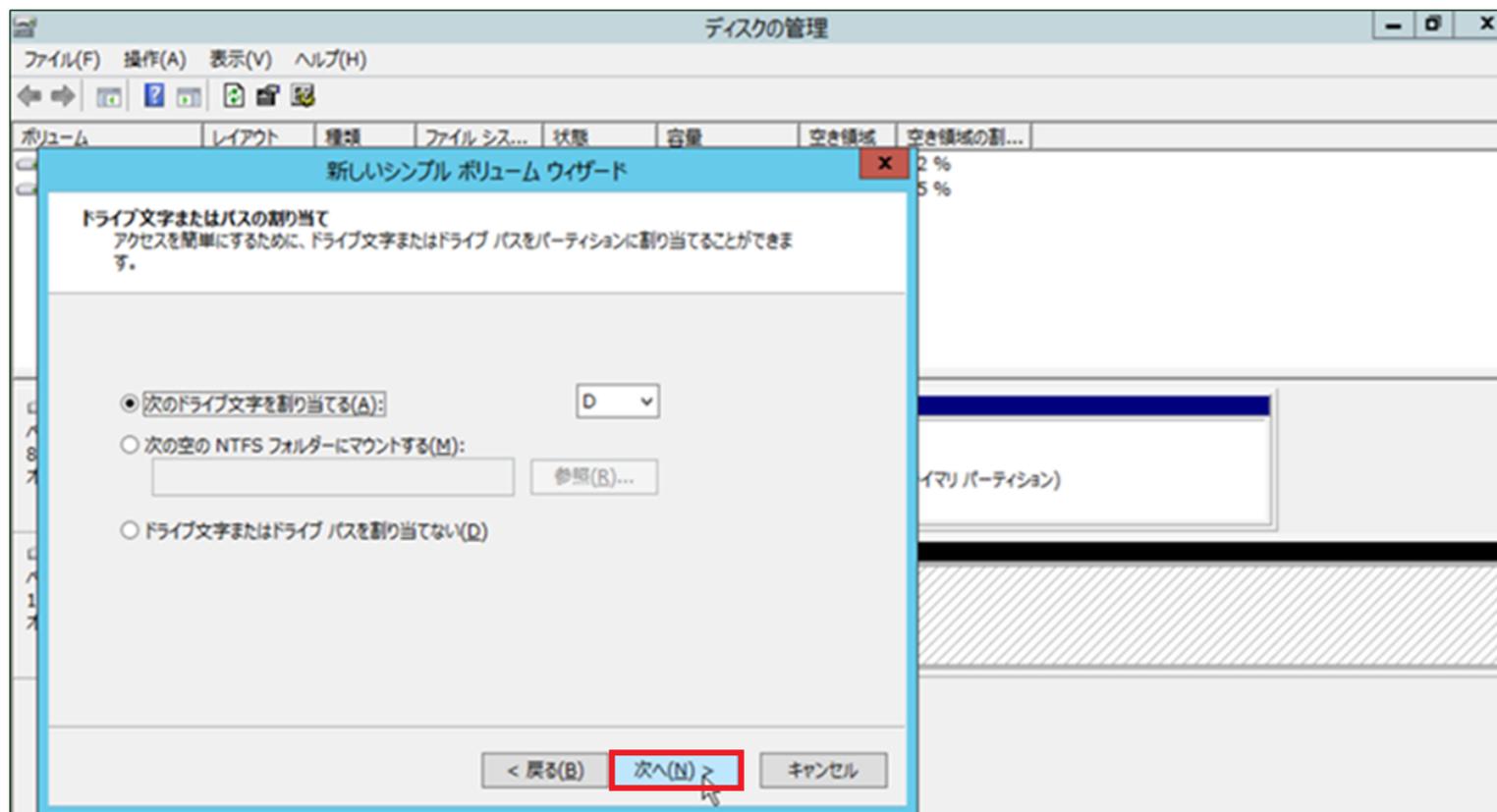
1. 移行元環境での準備

「シンプルボリューム サイズ」を確認して、「次へ」を押下します。



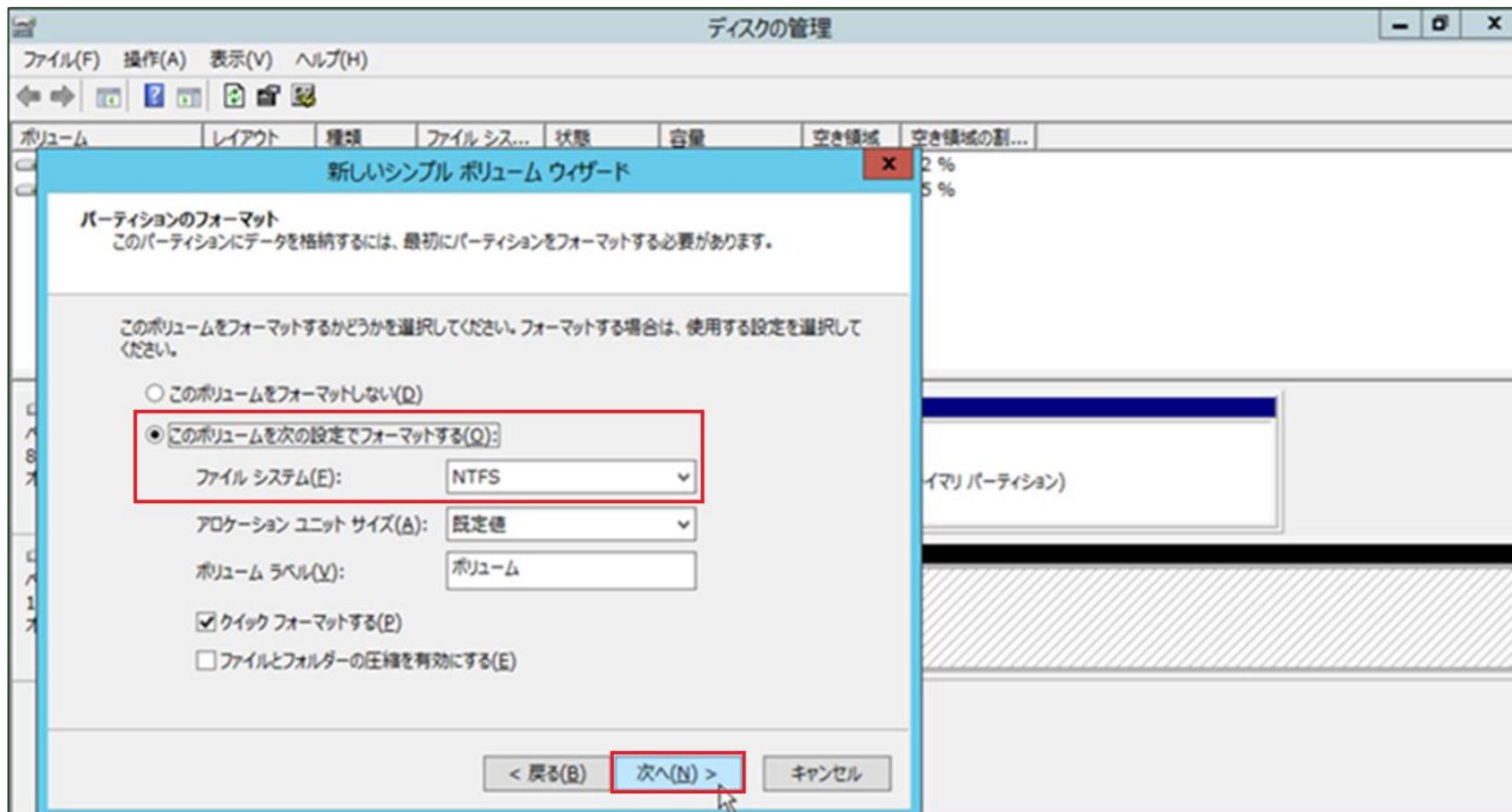
1. 移行元環境での準備

「次のドライブ文字を割り当てる」でドライブ文字を指定して「次へ」を押下します。



1. 移行元環境での準備

「このボリュームを次の設定でフォーマットする」で任意のファイルシステムを選択し、「次へ」を押下します。
※手順では、NTFSを選択しています。



1. 移行元環境での準備

一覧にフォーマット済のボリュームが追加された事を確認します。

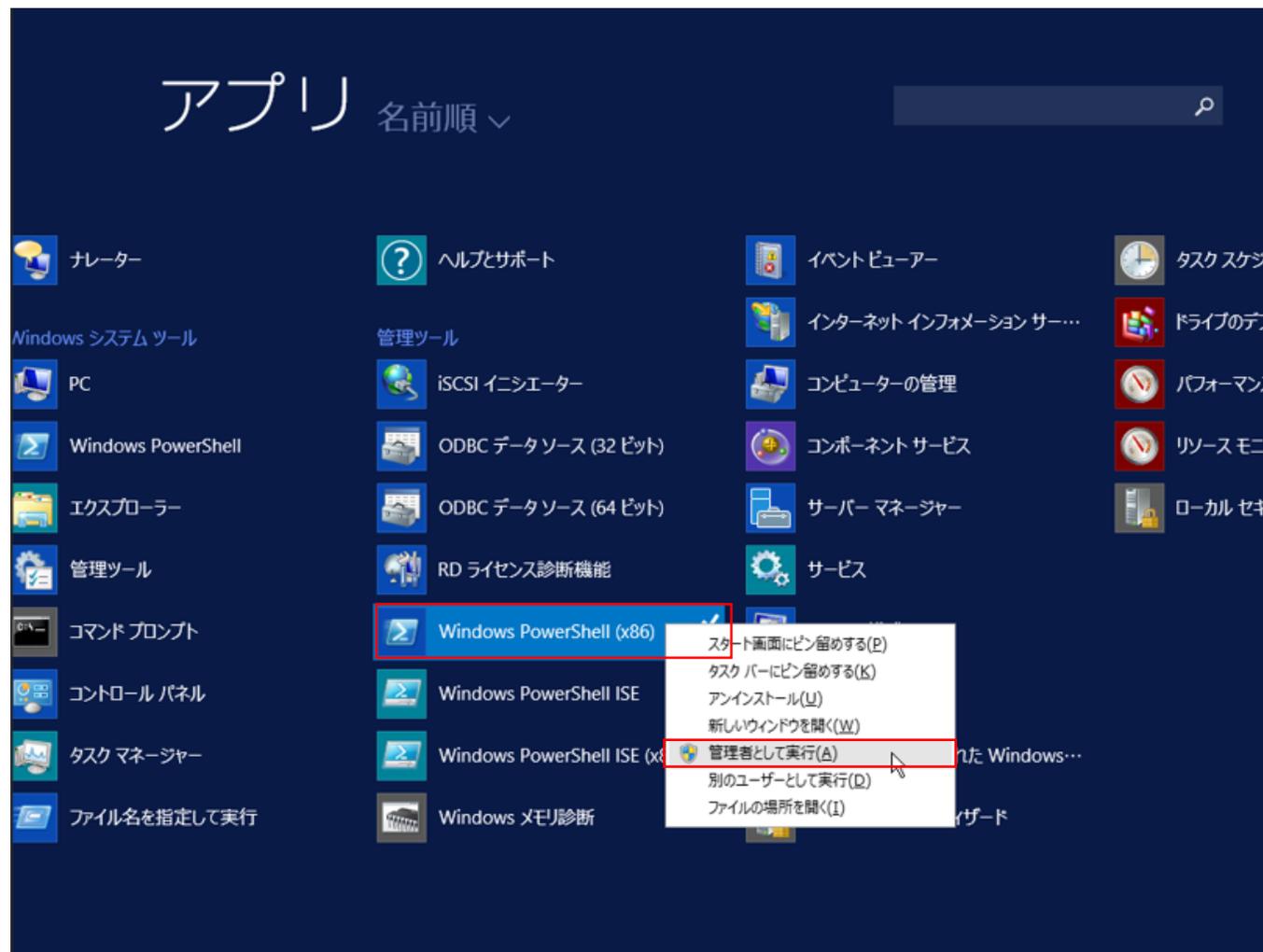
The screenshot shows the Windows Disk Management console. The top table lists the partitions on the disks. The 'ボリューム (D:)' row is highlighted with a red border. Below the table, the details for 'ディスク 1' are shown, also with a red border around the details area.

ボリューム	レイアウト	種類	ファイル シス...	状態	容量	空き領域	空き領域の割...
(C:)	シンプル	ベーシック	NTFS	正常 (ブー...	79.66 GB	65.57 GB	82 %
System Reserved	シンプル	ベーシック	NTFS	正常 (シス...	350 MB	87 MB	25 %
ボリューム (D:)	シンプル	ベーシック	NTFS	正常 (プラ...	1023.87 GB	1023.6...	100 %

ディスク	パーティション	容量	ファイルシステム	状態
ディスク 0 ベーシック 80.00 GB オンライン	System Reserved	350 MB	NTFS	正常 (システム, アクティブ, プライマリパーティション)
	(C:)	79.66 GB	NTFS	正常 (ブート, パージファイル, クラッシュ ダンプ, プライマリパーティション)
ディスク 1 ベーシック 1023.88 GB オンライン	ボリューム (D:)	1023.87 GB	NTFS	正常 (プライマリパーティション)

1. 移行元環境での準備

移行元サーバーにログインして、アプリ一覧から「Windows PowerShell」を検索し、結果の一覧で、「Windows PowerShell」を右クリックし、「管理者として実行」を選択します。



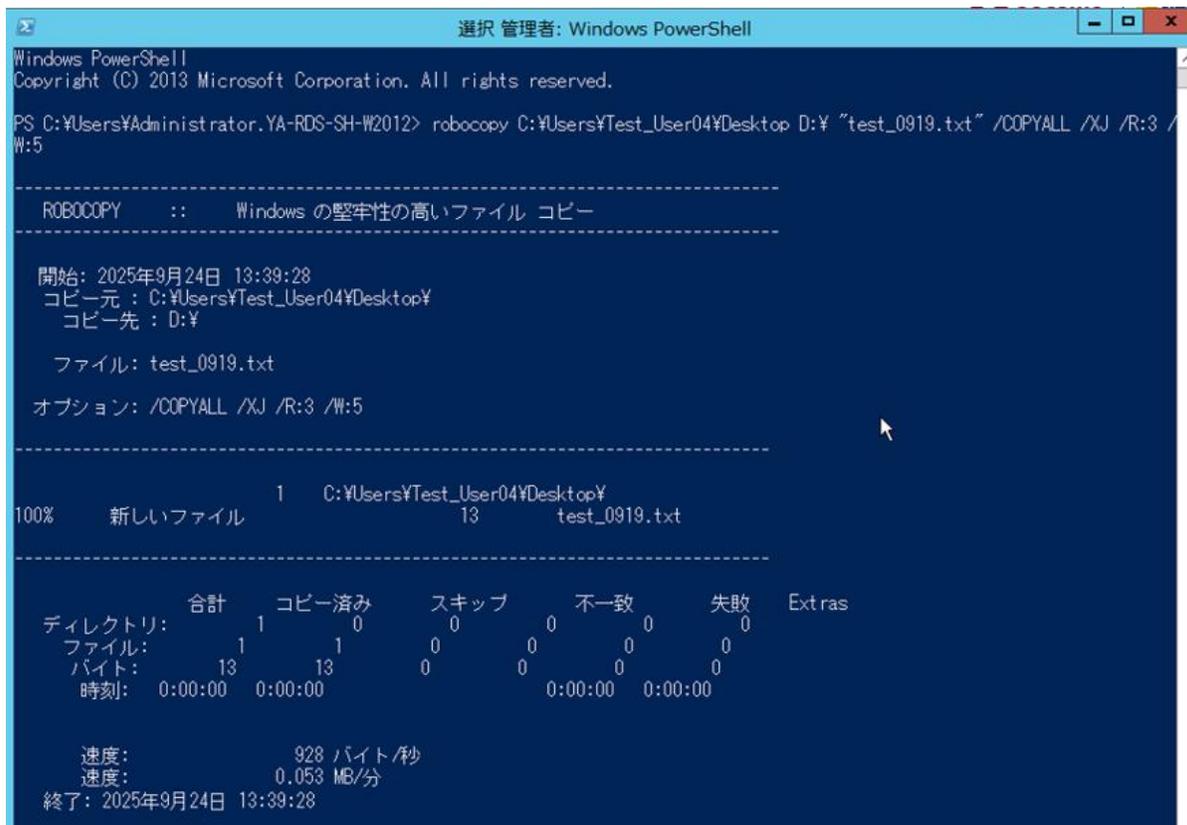
1. 移行元環境での準備

「このアプリがデバイスに変更を加えることを許可しますか？」と表示された場合、「はい」を選択します。



1. 移行元環境での準備

起動した「Windows PowerShell」で、以下のコマンドを実行し、バックアップデータを作成します。
Robocopy 移行元サーバー バックアップデータ保存用ストレージ “対象ファイル” /COPYALL /XJ /R:数字 /W:数字



```

Windows PowerShell
Copyright (C) 2013 Microsoft Corporation. All rights reserved.

PS C:\Users\Administrator.YA-RDS-SH-W2012> robocopy C:\Users\Test_User04\Desktop D:\ "test_0919.txt" /COPYALL /XJ /R:3 /W:5

-----
ROBOCOPY    ::    Windows の堅牢性の高いファイル コピー
-----

開始: 2025年9月24日 13:39:28
コピー元  : C:\Users\Test_User04\Desktop\
コピー先  : D:\

ファイル: test_0919.txt
オプション: /COPYALL /XJ /R:3 /W:5

-----
100%   新しいファイル           1   C:\Users\Test_User04\Desktop\
                                             13   test_0919.txt
-----

ディレクトリ:   合計   コピー済み   スキップ   不一致   失敗   Extras
ファイル:      1       1           0         0         0
バイト:        13      13           0         0         0
時刻:   0:00:00  0:00:00           0:00:00  0:00:00

速度:           928 バイト/秒
速度:           0.053 MB/分
終了: 2025年9月24日 13:39:28
  
```

/COPY:コピーフラグ
コピーフラグ
/R:数字
/W:数字

ファイルにコピーする情報を指定します。
ALL=ファイルのデータ本体、属性、タイムスタンプ、アクセス権、所有者情報、監査情報
ファイルコピー失敗時、（数字）回まで再試行（Retry）します。
再試行する際に（数字）秒待機（Wait）します。

1. 移行元環境での準備

以下のコマンドで、データが正しくコピーされたかを確認します。仕様上ファイル数の数字の列と合計などの項目名の行の表記が少しずれてしまいますが、失敗の行に数字がなければデータの移行は完了です。

Robocopy 移行元サーバー バックアップデータ保存用ストレージ "対象ファイル" /COPYALL /XJ /L /NP

```

選択 管理者: Windows PowerShell
PS C:\Users\Administrator.YA-RDS-SH-W2012> robocopy C:\Users\Test_User04\Desktop D:\test_0919.txt /COPYALL /XJ /L /NP

-----
ROBOCOPY      ::      Windows の堅牢性の高いファイル コピー
-----

開始: 2025年9月24日 13:46:10
コピー元   : C:\Users\Test_User04\Desktop
コピー先   : D:\

ファイル: test_0919.txt
オプション: /L /COPYALL /NP /XJ /R:1000000 /W:30

-----

1      C:\Users\Test_User04\Desktop

-----

          合計      コピー済み      スキップ      不一致      失敗      Extras
ディレクトリ:      1      0      0      0      0
ファイル:      1      0      1      0      0
バイト:      13      0      13      0      0
時刻:      0:00:00      0:00:00      0:00:00      0:00:00
終了: 2025年9月24日 13:46:10

PS C:\Users\Administrator.YA-RDS-SH-W2012>

```

/COPY: コピーフラグ
 コピーフラグ
 /XJ
 /L
 /NP

ファイルにコピーする情報を指定します。
 ALL=ファイルのデータ本体、属性、タイムスタンプ、アクセス権、所有者情報、監査情報
 無限ループを防ぐため、ジャンクションポイントを除外します。
 差分があるかを確認するだけのテストモードです。
 結果のサマリーを見やすくするために進捗表示を省略します。

2.移行先のサーバーを作成

サーバーインスタンスの作成方法、利用方法については、[サーバーインスタンスのご利用方法](#) を参照してください。

RDSを構成するのに必要となるサーバーインスタンスは以下のページをご参照ください。

[Remote Desktop環境作成手順に関する構成情報](#)

■ 3. 移行元のドメインに移行先環境を参加

ネットワーク設定にてDNSサーバーの項目に移行元のドメインコントローラーのIPアドレスを設定します。
※この操作はドメインコントローラーサーバーにて実施します。

インターネット プロトコル バージョン 4 (TCP/IPv4) のプロパティ

全般

ネットワークでこの機能がサポートされている場合は、IP 設定を自動的に取得することができます。サポートされていない場合は、ネットワーク管理者に適切な IP 設定を問い合わせてください。

IP アドレスを自動的に取得する(O)

次の IP アドレスを使う(S):

IP アドレス(I): 192 . 168 . 10 . 6

サブネット マスク(U): 255 . 255 . 255 . 0

デフォルト ゲートウェイ(D): . . .

DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する(B)

次の DNS サーバーのアドレスを使う(E):

優先 DNS サーバー(P): 192 . 168 . 10 . 3

代替 DNS サーバー(A): . . .

終了時に設定を検証する(L)

詳細設定(V)...

OK キャンセル

■ 3. 移行元のドメインに移行先環境に参加

ワークグループの[WORKGROUP]をクリックします。

※この操作はドメインコントローラーサーバーにて実施します。



The screenshot shows the Windows Server Manager interface. The left-hand navigation pane is open to 'ローカルサーバー' (Local Servers). The main area displays the 'プロパティ' (Properties) for the server 'ya-RDS-sh-w2022'. The 'ワークグループ' (Workgroup) property is highlighted with a red box, and a mouse cursor is pointing at the 'WORKGROUP' value. The 'コンピュータ名' (Computer name) is 'ya-RDS-dc-2022'. The right-hand pane shows system updates and security settings.

プロパティ	値	タスク
コンピュータ名	ya-RDS-dc-2022	更新プログラムの最終インストール日時 なし
ワークグループ	WORKGROUP	Windows Update Windows Upd.
		更新プログラムの最終確認日時 2024/08/22 13
Microsoft Defender ファイアウォール	パブリック: 有効	Microsoft Defender ウイルス対策 リアルタイム保護
リモート管理	有効	フィードバックと診断 設定
リモート デスクトップ	有効	IE セキュリティ強化の構成 無効
NIC チューニング	無効	タイムゾーン (UTC+09:00) プ
イーサネット インスタンス 0	IPv4 アドレス (DHCP により割り当て)、IPv6 (有効)	プロダクト ID 00454-60000-1
イーサネット インスタンス 0 2	192.168.10.7、IPv6 (有効)	
オペレーティング システムのバージョン	Microsoft Windows Server 2022 Datacenter	プロセッサ Intel Xeon Pro
ハードウェアの情報	OpenStack Foundation OpenStack Nova	実装メモリ (RAM) 4 GB
		合計ディスク領域 70.70 GB

■ 3. 移行元のドメインに移行先環境に参加

システムのプロパティのコンピューター名タブの[変更]をクリックします。

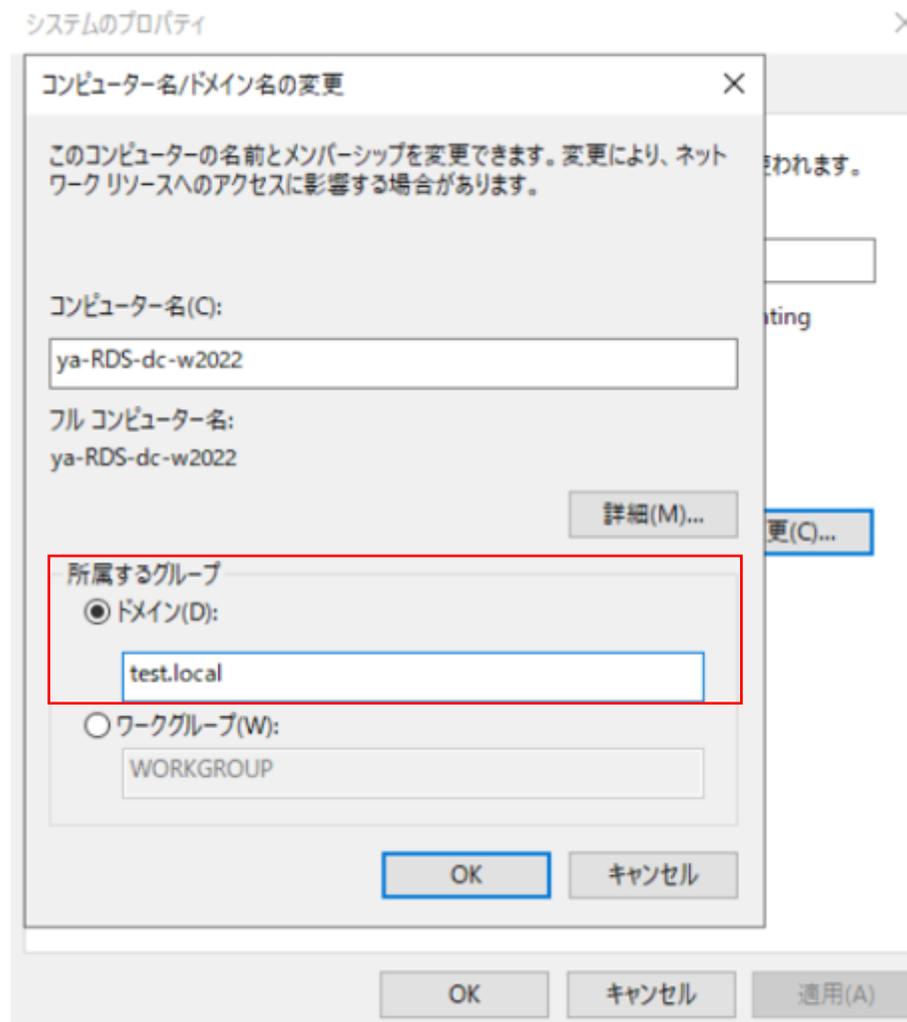
※この操作はドメインコントローラーサーバーにて実施します。



■ 3. 移行元のドメインに移行先環境に参加

所属するグループのドメインにチェックを入れて移行元のドメインを入力して参加し、再起動実施します。

※この操作はドメインコントローラーサーバーにて実施します。



■ 3. 移行元のドメインに移行先環境を参加

サーバーマネージャーの管理から役割と機能の追加を選択します。
※この操作はドメインコントローラーサーバーにて実施します。



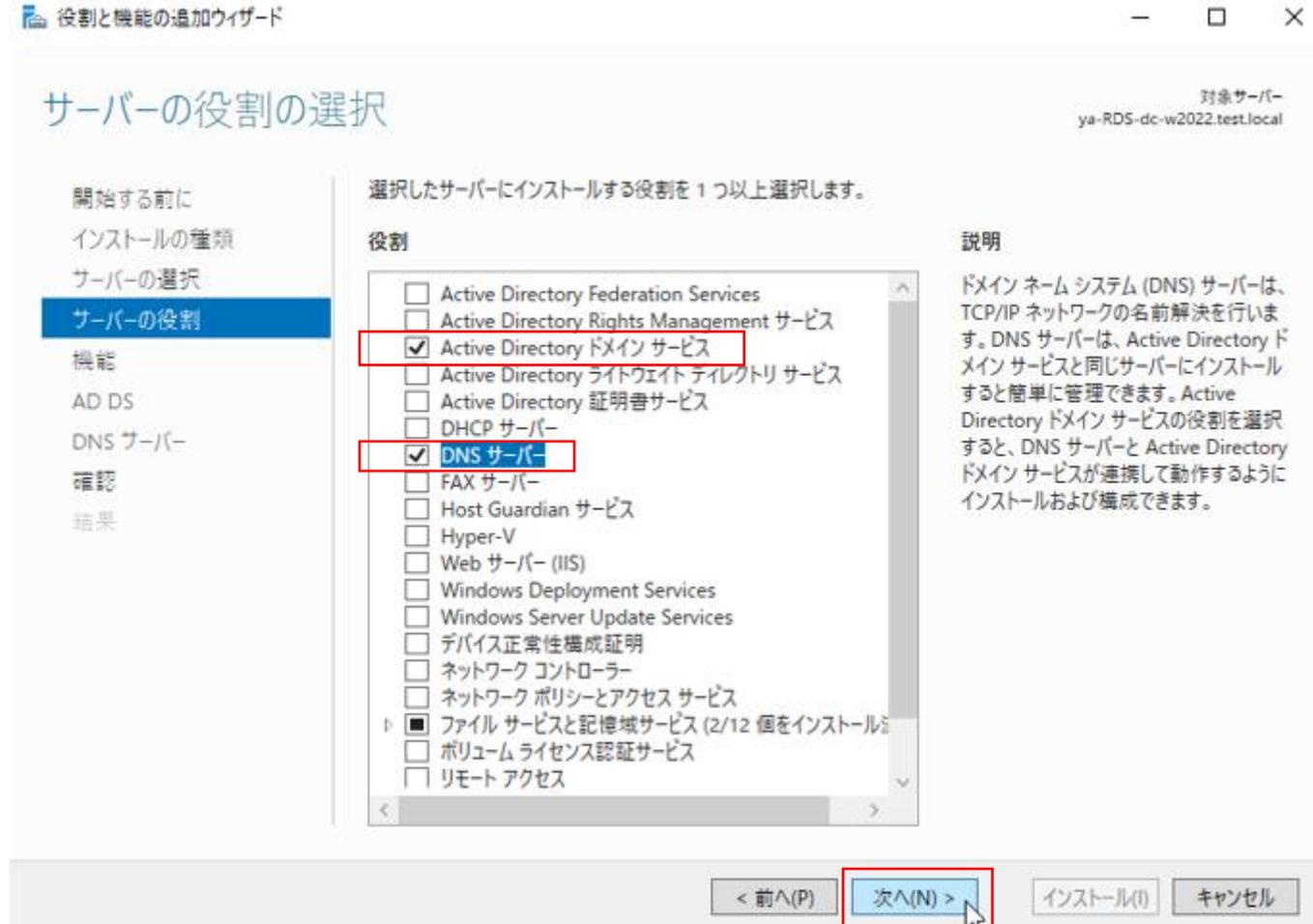
The screenshot shows the Windows Server Manager interface. The left-hand navigation pane is open to 'ローカルサーバー' (Local Servers). The main area displays the properties for a server named 'ya-RDS-dc-2022' in the 'test.local' domain. A context menu is open over the '管理(M)' (Management) tab, with the '役割と機能の追加' (Add Roles and Features) option highlighted by a red box. Other options in the menu include '役割と機能の削除' (Remove Roles and Features), 'サーバーの追加' (Add Servers), 'サーバーグループの作成' (Create Server Groups), and 'サーバーマネージャーのプロパティ' (Server Manager Properties).

プロパティ	ya-RDS-dc-2022
コンピューター名	ya-RDS-dc-2022
ドメイン	test.local
更新プログラムの最新状況	Windows Update
更新プログラムの最終確認日時	2024/08/22 13:11
Microsoft Defender ファイアウォール	ドメイン: 有効、パブリック: 有効
リモート管理	有効
リモート デスクトップ	有効
NIC チューニング	無効
イーサネット インスタンス 0	169.254.0.47、IPv6 (有効)
イーサネット インスタンス 0 2	192.168.10.6、IPv6 (有効)
Microsoft Defender ウィルス対策	リアルタイム保護: 設定
フィードバックと診断	有効
IE セキュリティ強化の構成	(UTC+09:00) 大塚
タイムゾーン	00454-60000-00
プロダクト ID	
オペレーティング システムのバージョン	Microsoft Windows Server 2022 Datacenter
ハードウェアの情報	OpenStack Foundation OpenStack Nova
プロセッサ	Intel Xeon Process
実装メモリ (RAM)	4 GB
合計ディスク領域	70 20 GB

■ 3. 移行元のドメインに移行先環境に参加

Active Directory ドメインサービスとDNSサーバーにチェックを入れて[次へ]をクリックします。

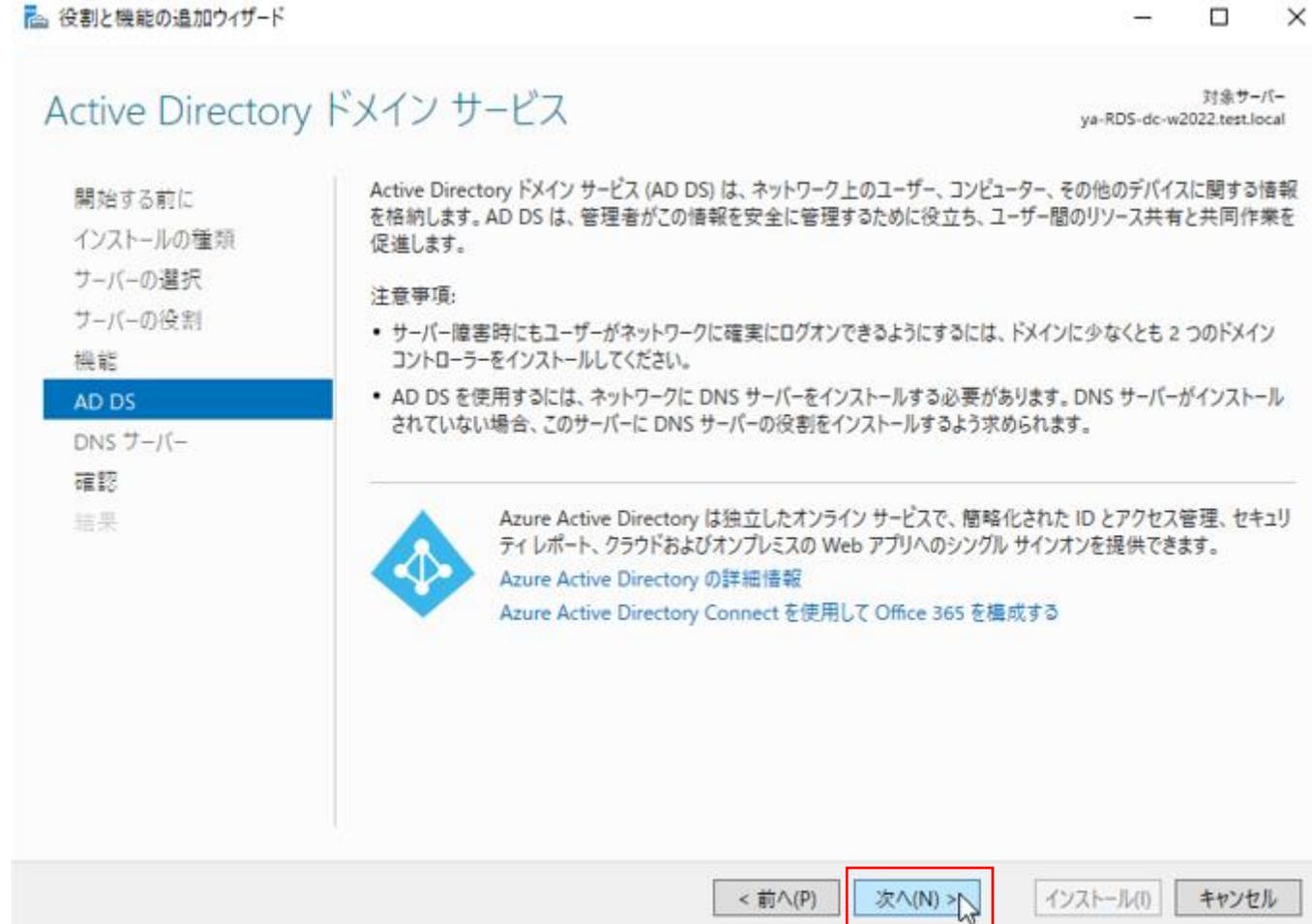
※この操作はドメインコントローラーサーバーにて実施します。



■ 3. 移行元のドメインに移行先環境に参加

Active Directory ドメインサービスの内容を確認して[次へ]をクリックします。

※この操作はドメインコントローラーサーバーにて実施します。



役割と機能の追加ウィザード

Active Directory ドメイン サービス

対象サーバー
ya-RDS-dc-w2022.test.local

開始する前に
インストールの種類
サーバーの選択
サーバーの役割
機能
AD DS
DNS サーバー
確認
結果

Active Directory ドメイン サービス (AD DS) は、ネットワーク上のユーザー、コンピューター、その他のデバイスに関する情報を格納します。AD DS は、管理者がこの情報を安全に管理するために役立ち、ユーザー間のリソース共有と共同作業を促進します。

注意事項:

- サーバー障害時にもユーザーがネットワークに確実にログオンできるようにするには、ドメインに少なくとも 2 つのドメインコントローラーをインストールしてください。
- AD DS を使用するには、ネットワークに DNS サーバーをインストールする必要があります。DNS サーバーがインストールされていない場合、このサーバーに DNS サーバーの役割をインストールするよう求められます。

 Azure Active Directory は独立したオンライン サービスで、簡略化された ID とアクセス管理、セキュリティレポート、クラウドおよびオンプレミスの Web アプリへのシングル サインオンを提供できます。
[Azure Active Directory の詳細情報](#)
[Azure Active Directory Connect を使用して Office 365 を構成する](#)

< 前へ(P) **次へ(N) >** インストール(I) キャンセル

■ 3. 移行元のドメインに移行先環境に参加

DNSサーバーの内容を確認して[次へ]をクリックします。

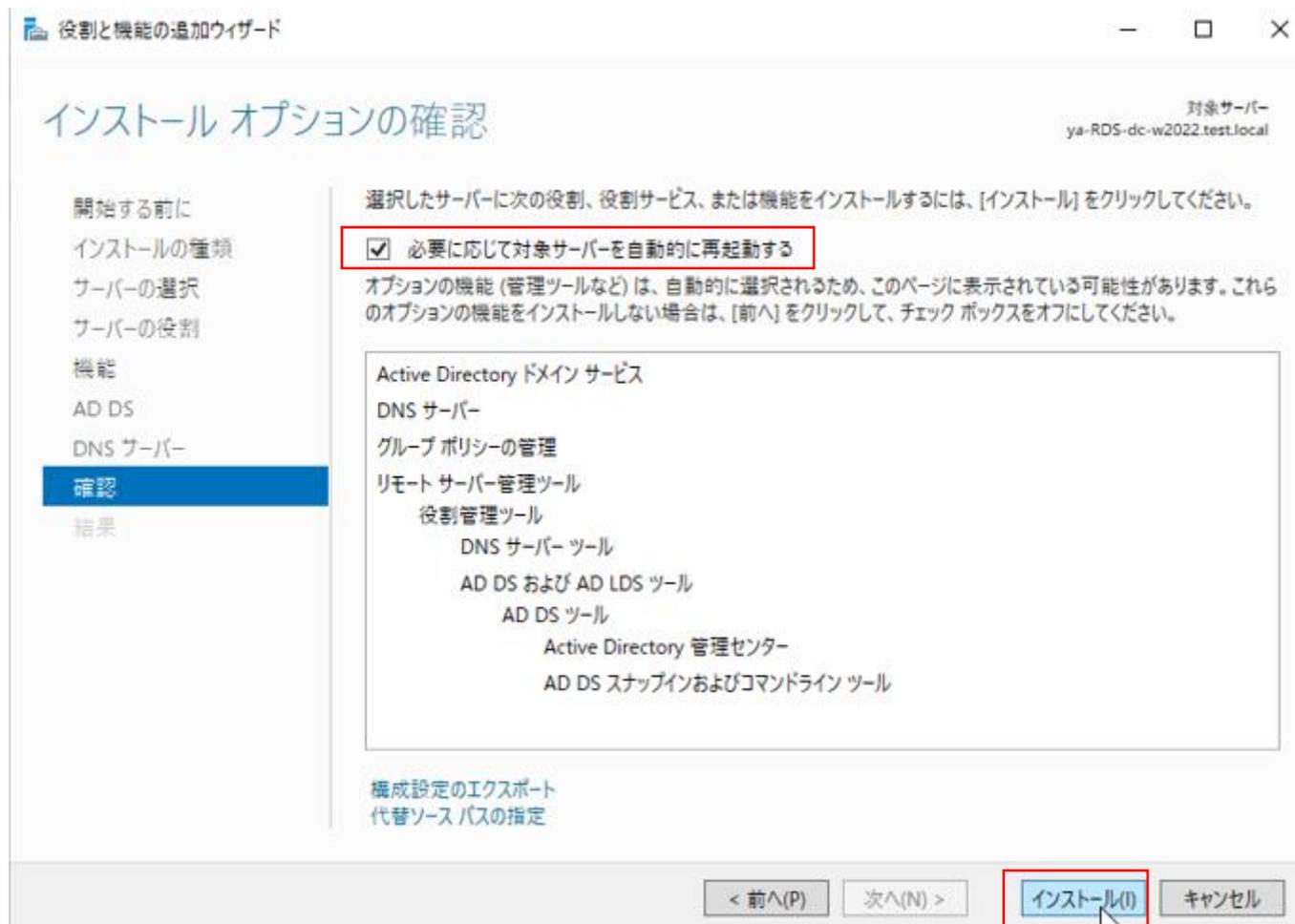
※この操作はドメインコントローラーサーバーにて実施します。



■ 3. 移行元のドメインに移行先環境に参加

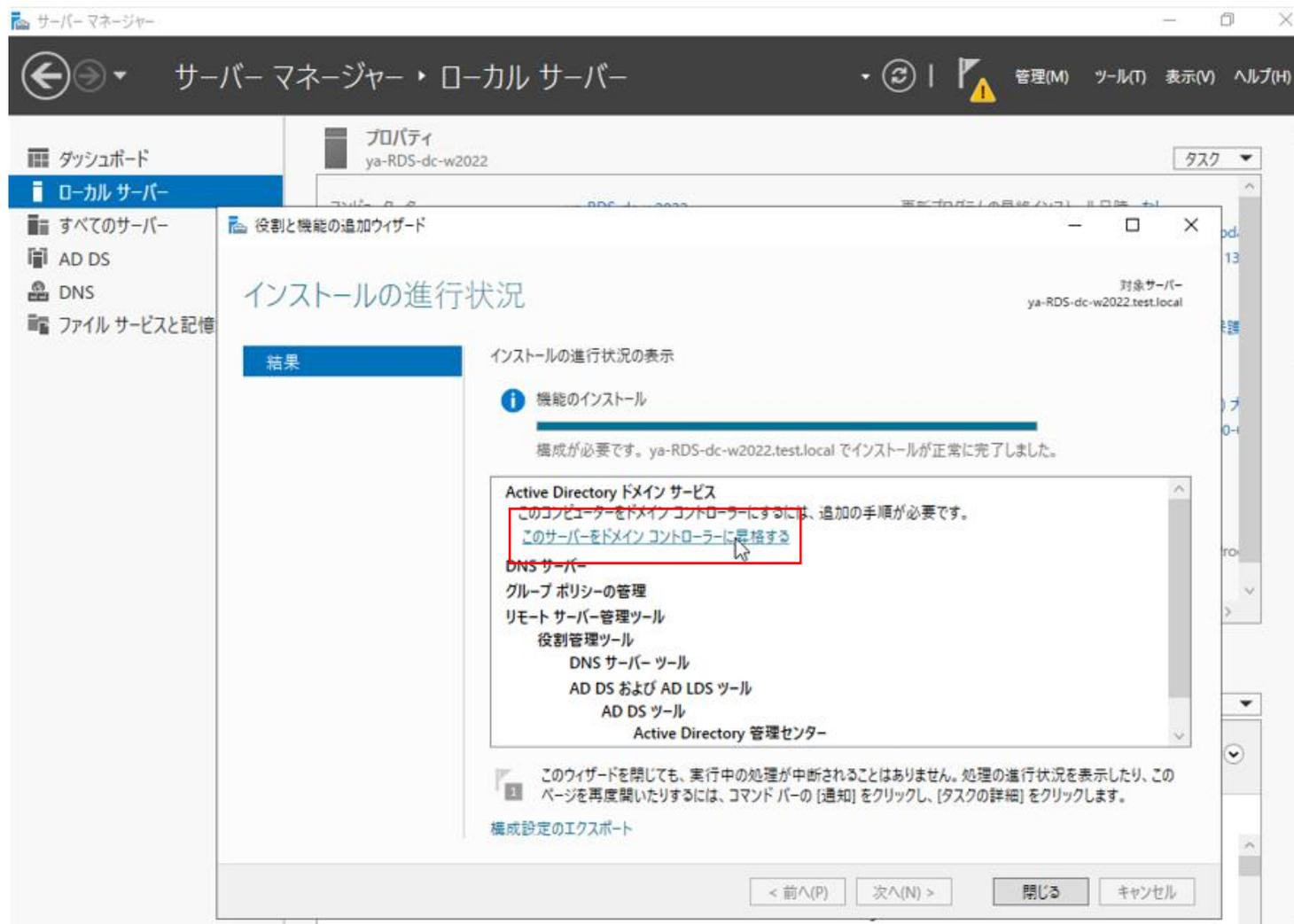
[必要に応じて対象サーバーを自動的に再起動する]にクリックを入れて[インストール]をクリックします。

※この操作はドメインコントローラーサーバーにて実施します。



■ 3. 移行元のドメインに移行先環境に参加

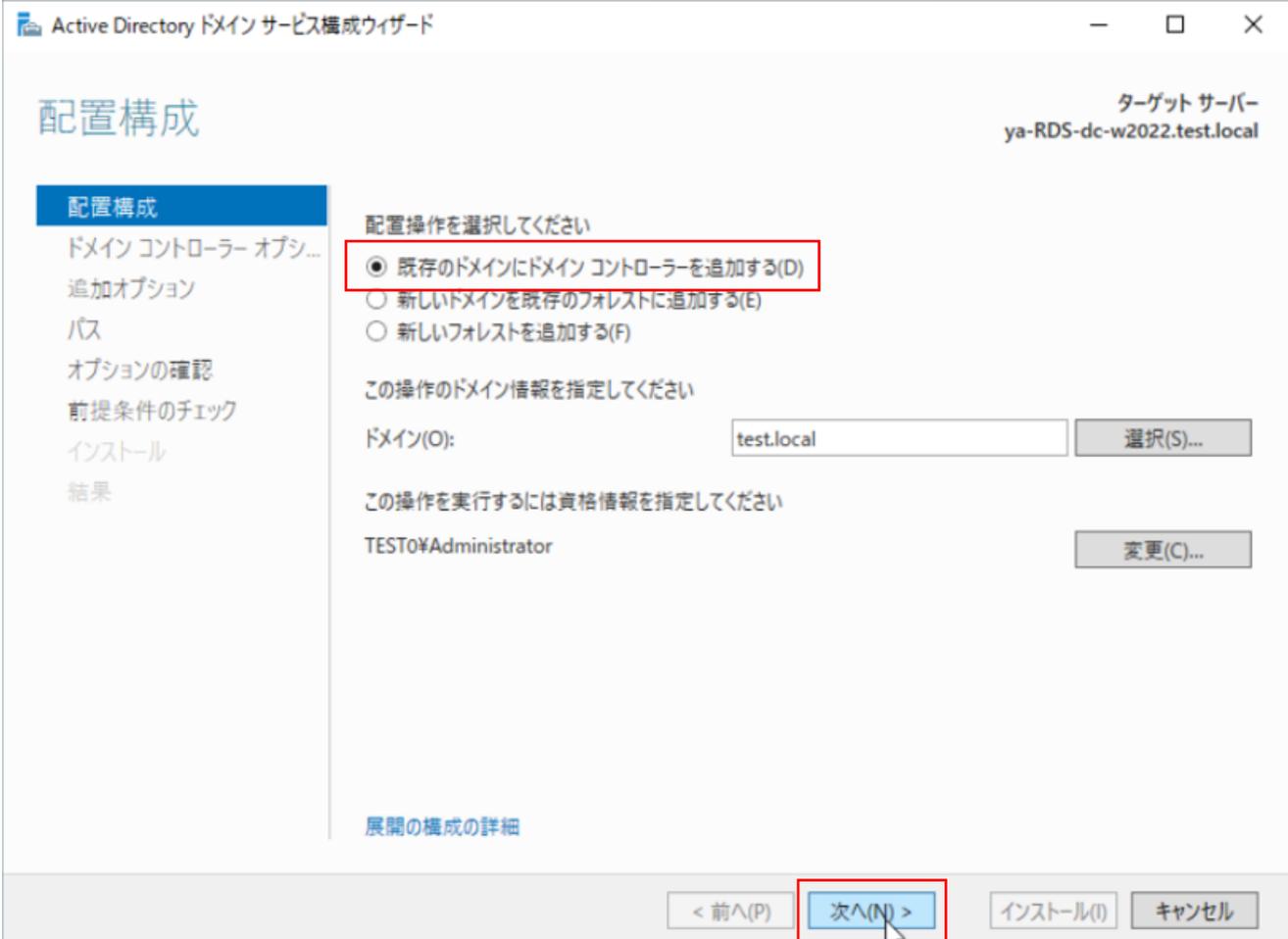
インストールが完了したら[このサーバーをドメインコントローラーに昇格する]をクリックします。
※この操作はドメインコントローラーサーバーにて実施します。



■ 3. 移行元のドメインに移行先環境に参加

[既存のドメインにドメインコントローラーを追加する]にチェックを入れ、参加するドメイン名を入力し、[次へ]をクリックします。

※この操作はドメインコントローラーサーバーにて実施します。



Active Directory ドメイン サービス 構成 ウィザード

ターゲット サーバー
ya-RDS-dc-w2022.test.local

配置構成

配置構成

ドメイン コントローラー オプション

追加オプション

パス

オプションの確認

前提条件のチェック

インストール

結果

配置操作を選択してください

既存のドメインにドメイン コントローラーを追加する(D)

新しいドメインを既存のフォレストに追加する(E)

新しいフォレストを追加する(F)

この操作のドメイン情報を指定してください

ドメイン(O): test.local 選択(S)...

この操作を実行するには資格情報を指定してください

TESTO¥Administrator 変更(C)...

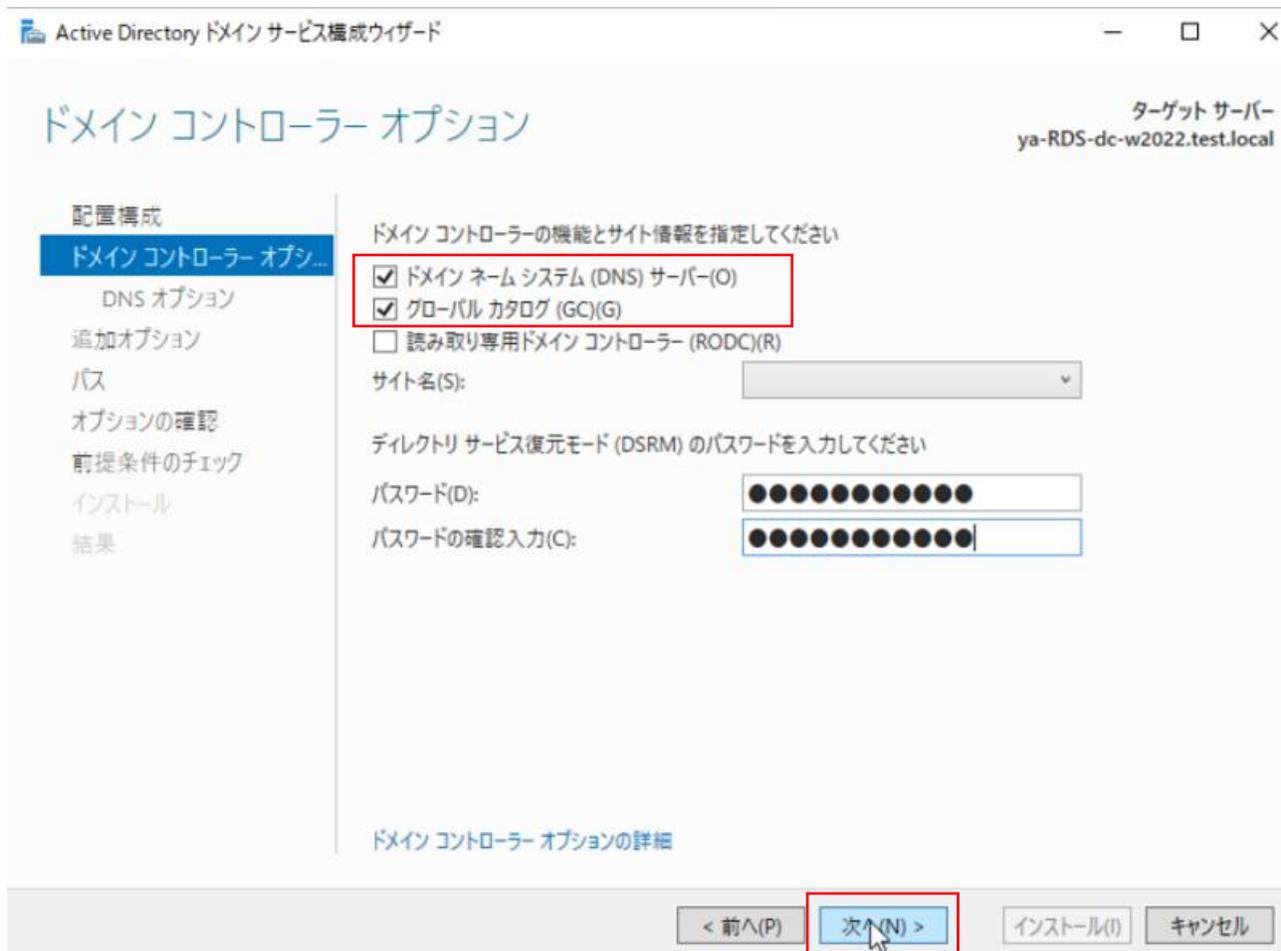
展開の構成の詳細

< 前へ(P) 次へ(N) > インストール(I) キャンセル

■ 3. 移行元のドメインに移行先環境に参加

ドメインネームシステムサーバーとグローバルカタログにチェックを入れ、パスワードを入力し、[次ぐ]へをクリックします。

※この操作はドメインコントローラーサーバーにて実施します。



Active Directory ドメイン サービス 構成 ウィザード

ドメイン コントローラー オプション

ターゲット サーバー
ya-RDS-dc-w2022.test.local

配置構成

- ドメイン コントローラー オプション
- DNS オプション
- 追加オプション
- パス
- オプションの確認
- 前提条件のチェック
- インストール
- 結果

ドメイン コントローラーの機能とサイト情報を指定してください

- ドメイン ネーム システム (DNS) サーバー(O)
- グローバル カタログ (GC)(G)
- 読み取り専用ドメイン コントローラー (RODC)(R)

サイト名(S):

ディレクトリ サービス 復元モード (DSRM) のパスワードを入力してください

パスワード(D):

パスワードの確認入力(C):

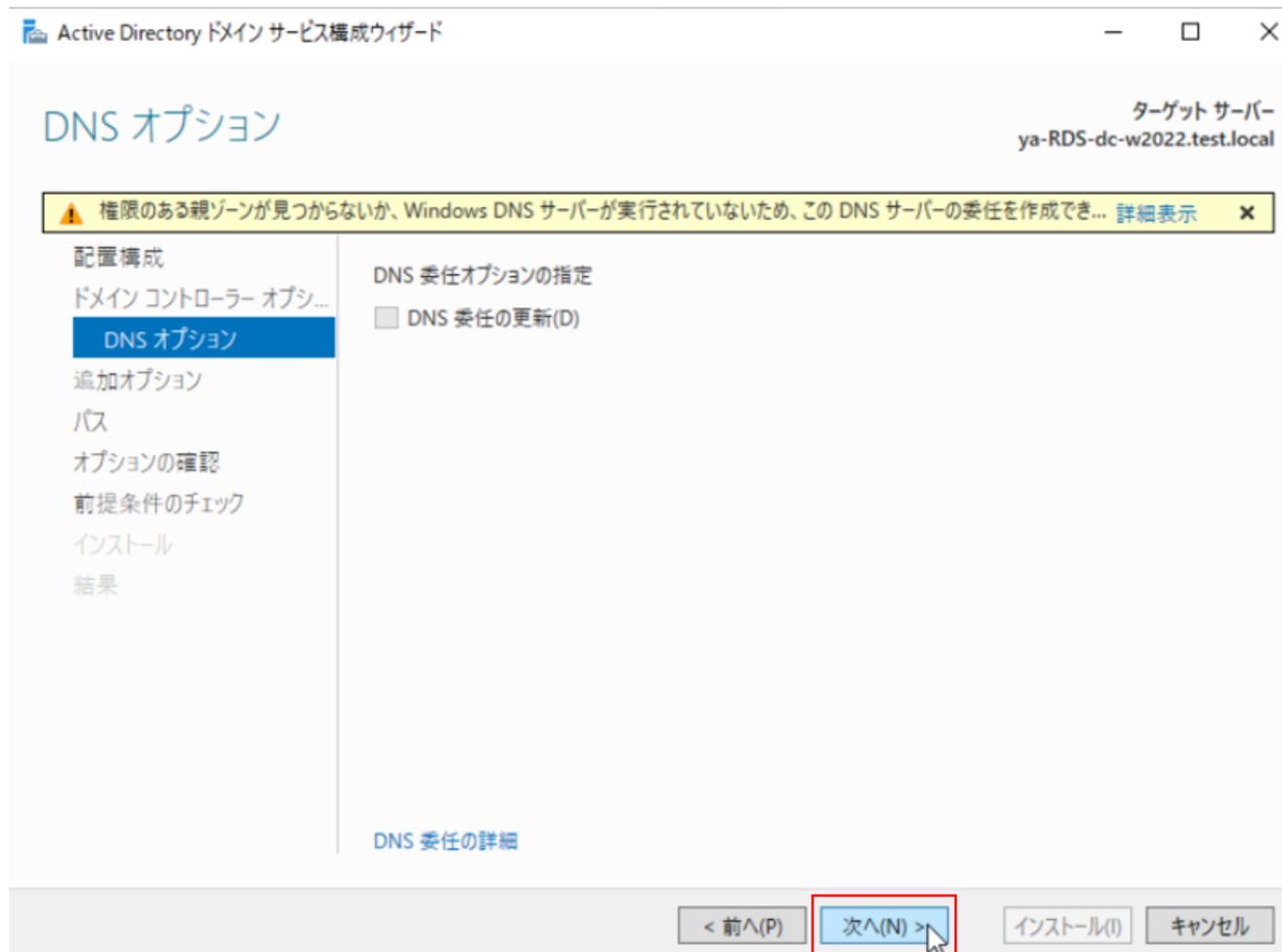
ドメイン コントローラー オプションの詳細

< 前へ(P) **次 (N) >** インストール(I) キャンセル

■ 3. 移行元のドメインに移行先環境に参加

チェックは入れずに[次へ]をクリックします。

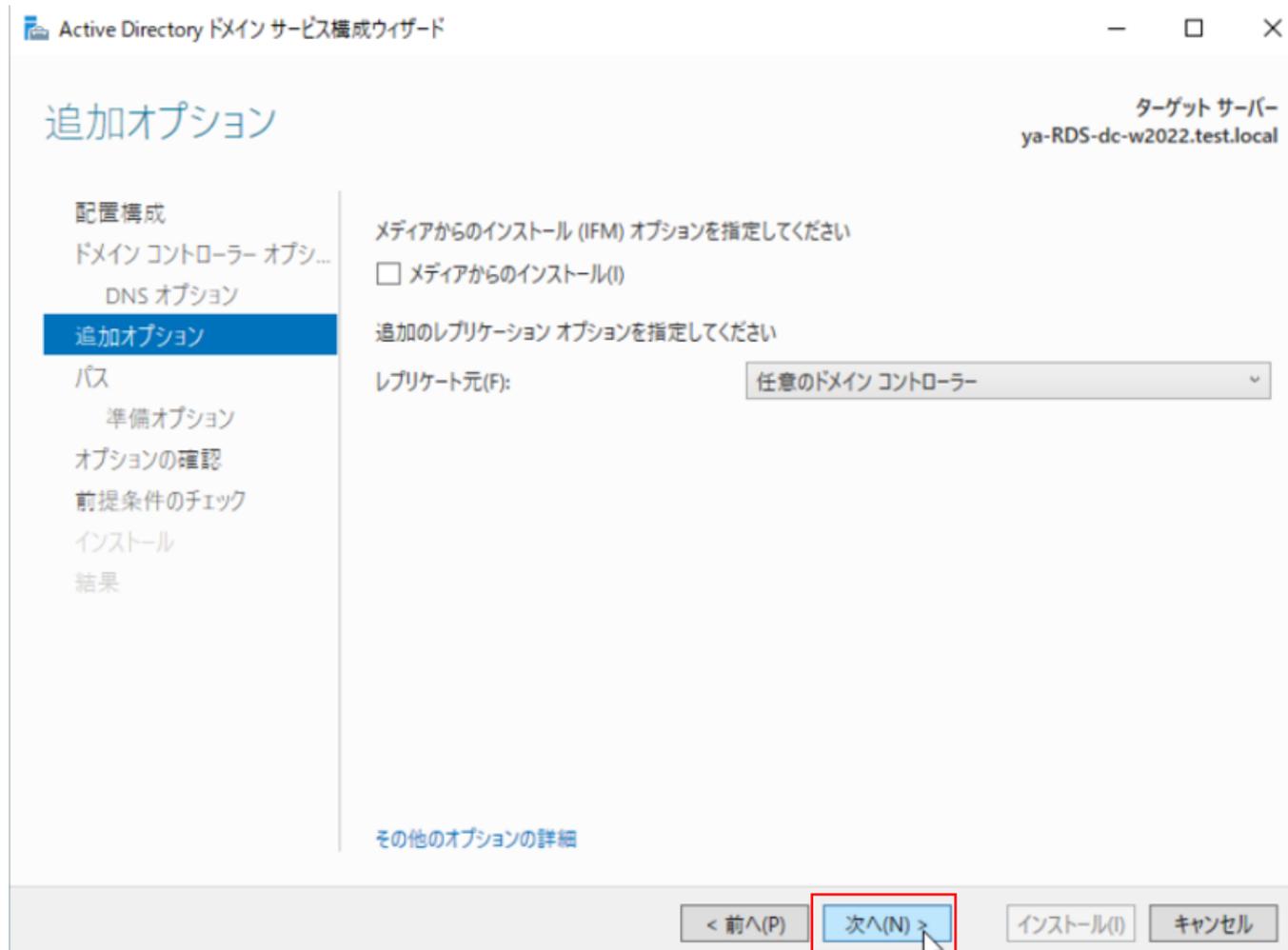
※この操作はドメインコントローラーサーバーにて実施します。



■ 3. 移行元のドメインに移行先環境に参加

チェックは入れずにそのまま[次へ]をクリックします。

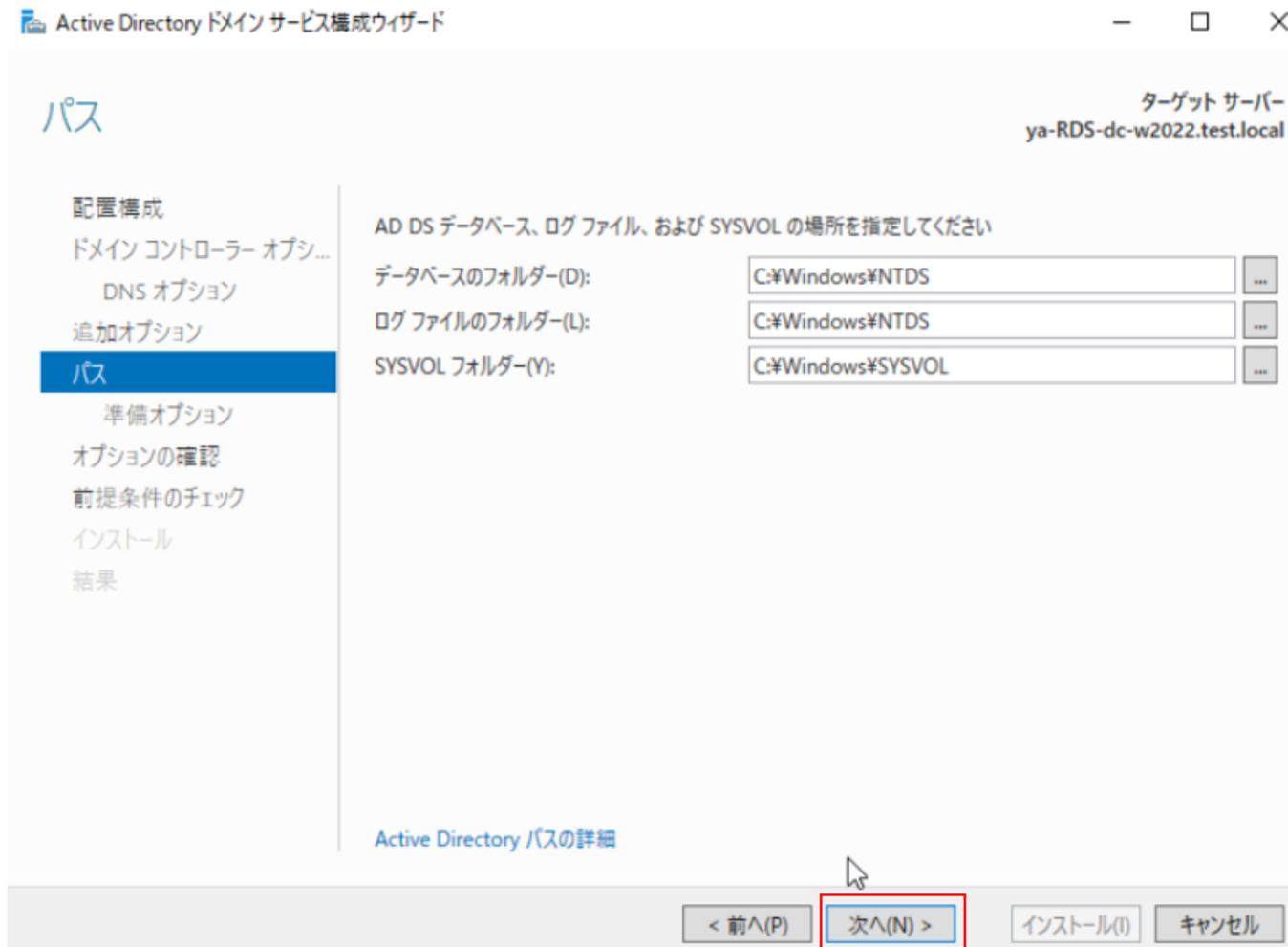
※この操作はドメインコントローラーサーバーにて実施します。



■ 3. 移行元のドメインに移行先環境に参加

設定は変更せず、[次へ]をクリックします。

※この操作はドメインコントローラーサーバーにて実施します。



■ 3. 移行元のドメインに移行先環境に参加

インストールをクリックします。

※この操作はドメインコントローラーサーバーにて実施します。

Active Directory ドメイン サービス構成ウィザード

ターゲット サーバー
ya-RDS-dc-w2022.test.local

前提条件のチェック

すべての前提条件のチェックに合格しました。[インストール] をクリックしてインストールを開始してください。 [詳細表示](#) ×

配置構成
ドメイン コントローラー オプシ...
DNS オプション
追加オプション
パス
準備オプション
オプションの確認
前提条件のチェック
インストール
結果

Active Directory ドメイン サービスをこのコンピューターにインストールする前に、前提条件を確認する必要があります
[前提条件のチェックを再実行](#)

結果の表示(V)

⚠ Windows Server 2022 ドメイン コントローラーには、セキュリティ設定 "Windows NT 4.0 と互換性のある暗号化アルゴリズムを許可する" の既定値が設定されています。これにより、セキュリティ チャネル セッションを確立するときに、セキュリティの弱い暗号化アルゴリズムの使用は許可されなくなります。

この設定の詳細については、サポート技術情報 (KB) の記事 942564 (<http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=104751>) を参照してください。

⚠ このコンピューターには、IP プロパティに静的 IP アドレスが割り当てられていない物理ネットワーク アダプターが、少なくとも 1 つあります。ネットワーク アダプターで IPv4 と IPv6 の両方が有効にされている場合、そのネットワーク アダプターの IPv4 および IPv6 プロパティの両方に、IPv4 と IPv6 の両方の静的 IP アドレスを割り当てる必要があります。ドメイン ネーム システム (DNS) 動作を信頼できるものにするために、このような静的 IP アドレスの割り当てを、すべての物理ネットワーク アダプターに対して行う必要

⚠ [インストール] をクリックすると、昇格処理の最後にサーバーが自動的に再起動されます。

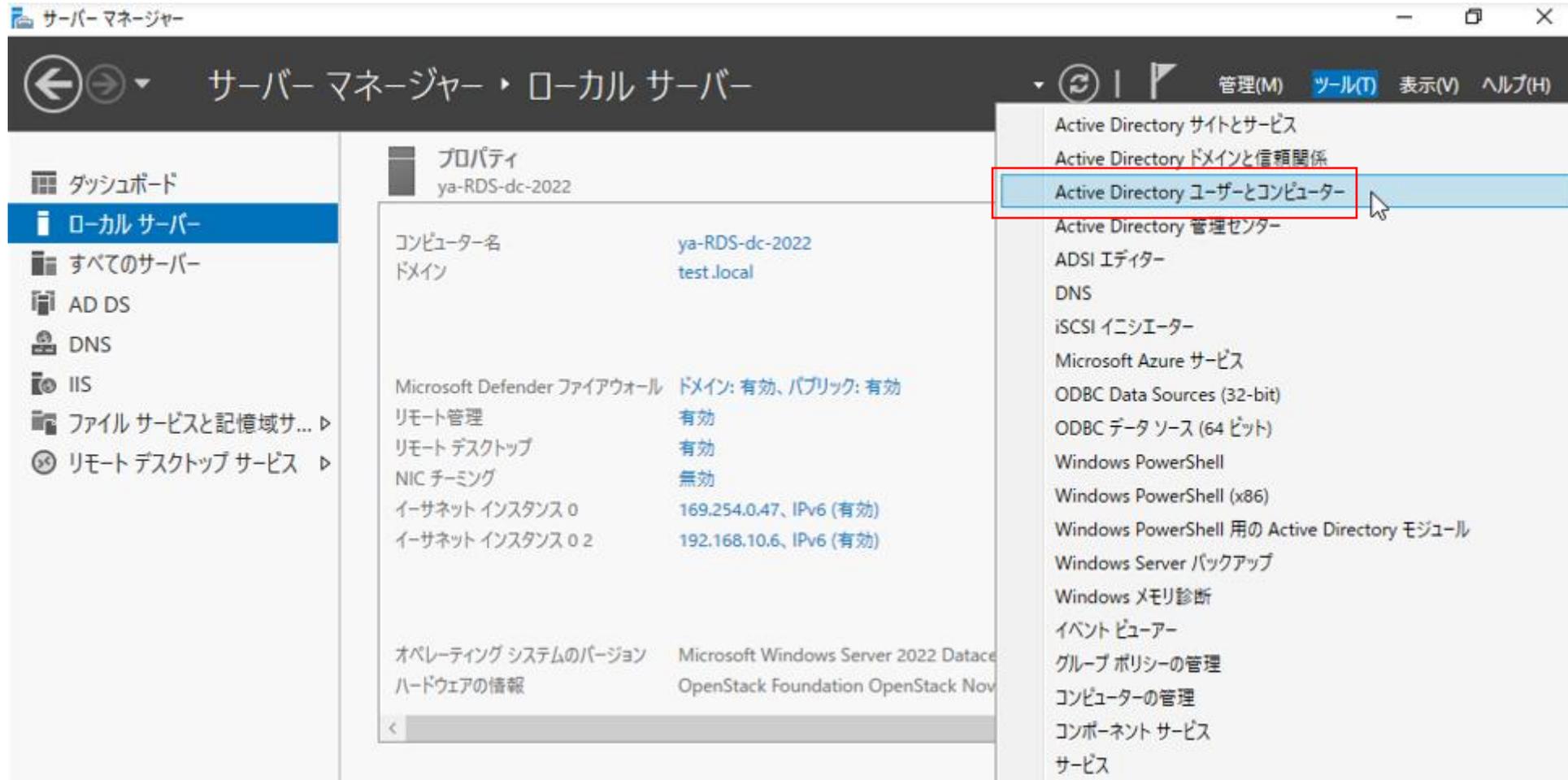
[前提条件の詳細](#)

< 前へ(P) 次へ(N) > **インストール(I)** キャンセル

■ 3. 移行元のドメインに移行先環境に参加

Active Directory ユーザーとコンピューターを選択します。

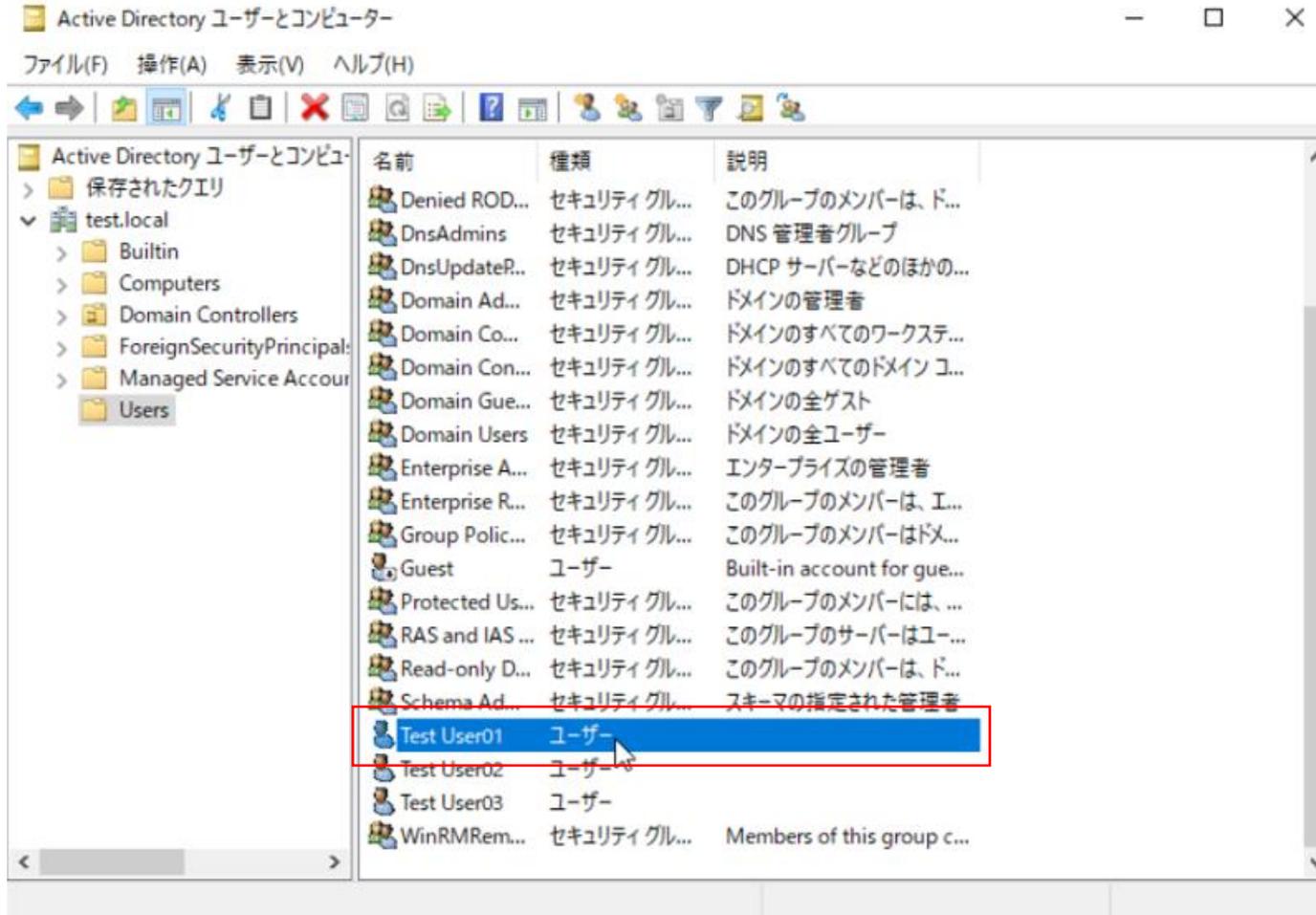
※この操作はドメインコントローラーサーバーにて実施します。



■ 3. 移行元のドメインに移行先環境に参加

参加した移行元で作成したユーザーが参照できることを確認します。

※この操作はドメインコントローラーサーバーにて実施します。



■ 3. 移行元のドメインに移行先環境を参加

他のサーバーもドメインに参加させます。

ネットワーク設定にてDNSに先ほど構築した移行先ドメインコントローラーのIPアドレスを設定します。

※この操作はセッションホストサーバーにて実施します。

インターネットプロトコルバージョン4 (TCP/IPv4)のプロパティ

全般

ネットワークでこの機能がサポートされている場合は、IP 設定を自動的に取得することができます。サポートされていない場合は、ネットワーク管理者に適切な IP 設定を問い合わせてください。

IP アドレスを自動的に取得する(O)

次の IP アドレスを使う(S):

IP アドレス(I): 192 . 168 . 10 . 7

サブネット マスク(U): 255 . 255 . 255 . 0

デフォルトゲートウェイ(D): . . .

DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する(B)

次の DNS サーバーのアドレスを使う(E):

優先 DNS サーバー(P): 192 . 168 . 10 . 6

代替 DNS サーバー(A): . . .

終了時に設定を検証する(L)

詳細設定(V)...

OK キャンセル

■ 3. 移行元のドメインに移行先環境に参加

ワークグループの[WORKGROUP]をクリックします。
※この操作はセッションホストサーバーにて実施します。



■ 3. 移行元のドメインに移行先環境に参加

システムのプロパティのコンピューター名タブの[変更]をクリックします。

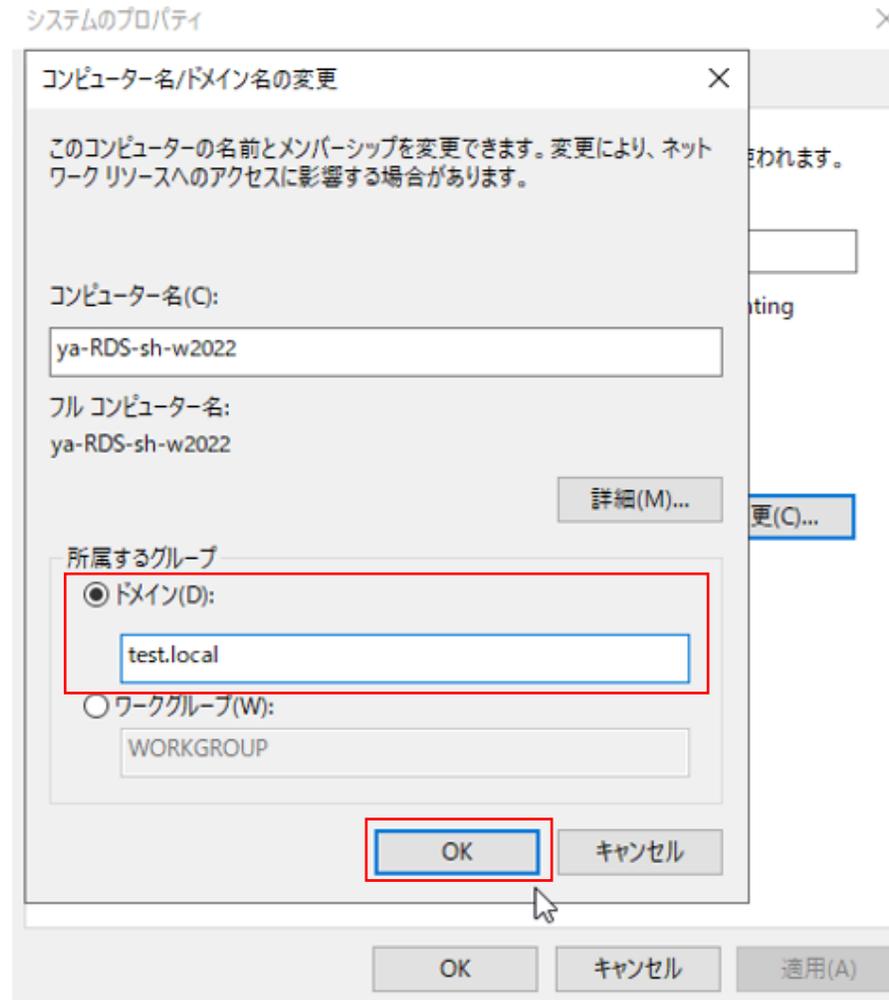
※この操作はセッションホストサーバーにて実施します。



■ 3. 移行元のドメインに移行先環境に参加

所属するグループのドメインにチェックを入れて移行元のドメインを入力し、参加します。

※この操作はセッションホストサーバーにて実施します。



■ 3. 移行元のドメインに移行先環境を参加

他のサーバーもドメインに参加させます。

ネットワーク設定にてDNSに先ほど構築した移行先ドメインコントローラーのIPアドレスを設定します。

※この操作はライセンスサーバーにて実施します。

インターネット プロトコル バージョン 4 (TCP/IPv4) のプロパティ

全般

ネットワークでこの機能がサポートされている場合は、IP 設定を自動的に取得することができます。サポートされていない場合は、ネットワーク管理者に適切な IP 設定を問い合わせてください。

IP アドレスを自動的に取得する(O)

次の IP アドレスを使う(S):

IP アドレス(I): 192 . 168 . 10 . 8

サブネット マスク(U): 255 . 255 . 255 . 0

デフォルト ゲートウェイ(D): . . .

DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する(B)

次の DNS サーバーのアドレスを使う(E):

優先 DNS サーバー(P): 192 . 168 . 10 . 6

代替 DNS サーバー(A): . . .

終了時に設定を検証する(L)

詳細設定(V)...

OK キャンセル

■ 3. 移行元のドメインに移行先環境に参加

ワークグループの[WORKGROUP]をクリックします。

※この操作はライセンスサーバーにて実施します。

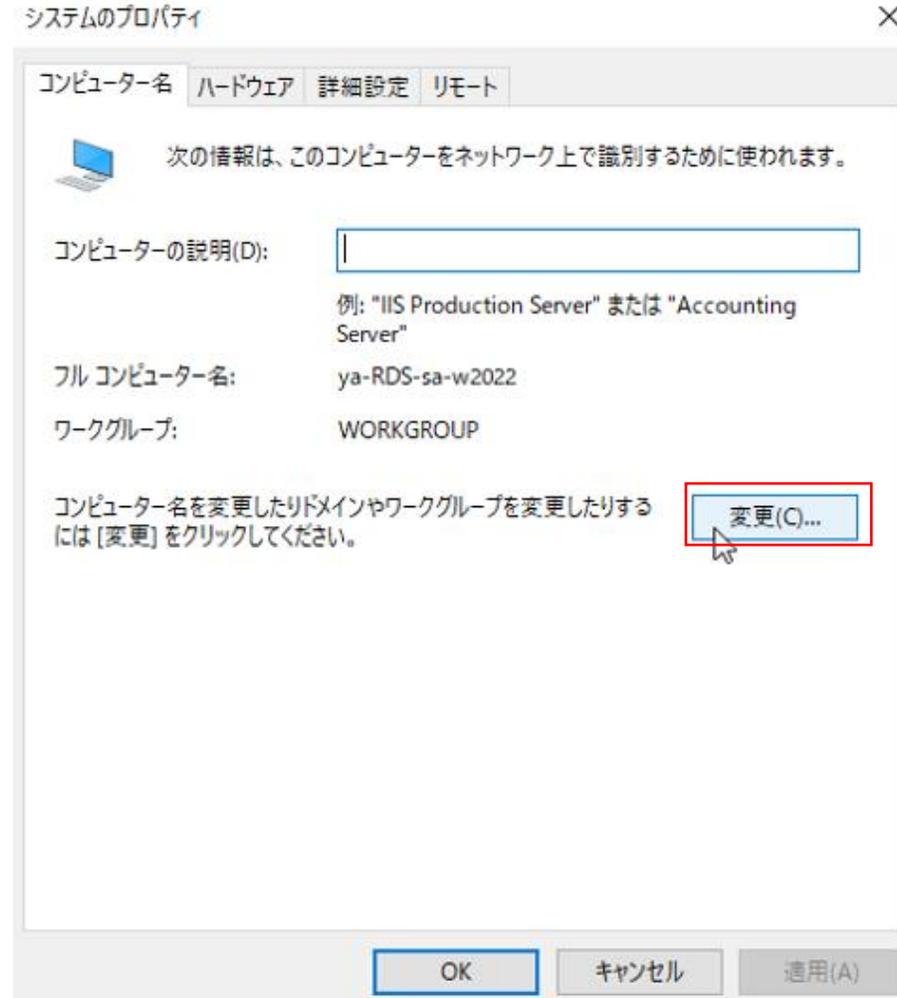
The screenshot shows the Windows Server Manager interface. The left-hand navigation pane is open to 'ローカルサーバー' (Local Servers). The main area displays the 'プロパティ' (Properties) for the server 'ya-RDS-sa-w2022'. The 'ワークグループ' (Workgroup) property is highlighted with a red box and a mouse cursor, showing the value 'WORKGROUP'. Other properties like 'コンピュータ名' (Computer name) and '更新プログラムの最終インストール日時' (Last installed update) are also visible.

プロパティ	値	更新プログラムの最終インストール日時	値
コンピュータ名	ya-RDS-sa-w2022	更新プログラムの最終インストール日時	なし
ワークグループ	WORKGROUP	Windows Update	Windows Upd.
Microsoft Defender ファイアウォール	パブリック: 有効	更新プログラムの最終確認日時	2024/08/22 13
リモート管理	有効	Microsoft Defender ウイルス対策	リアルタイム保護
リモート デスクトップ	有効	フィードバックと診断	設定
NIC チューニング	無効	IE セキュリティ強化の構成	有効
イーサネット インスタンス 0	IPv4 アドレス (DHCP により割り当て)、IPv6 (有効)	タイムゾーン	(UTC+09:00) プ
イーサネット インスタンス 0 2	192.168.10.8、IPv6 (有効)	プロダクト ID	00454-60000-4
オペレーティング システムのバージョン	Microsoft Windows Server 2022 Datacenter	プロセッサ	Intel Xeon Pro
ハードウェアの情報	OpenStack Foundation OpenStack Nova	実装メモリ (RAM)	4 GB
		全ディスク領域	70 70 GB

■ 3. 移行元のドメインに移行先環境を参加

システムのプロパティのコンピューター名タブの[変更]をクリックします。

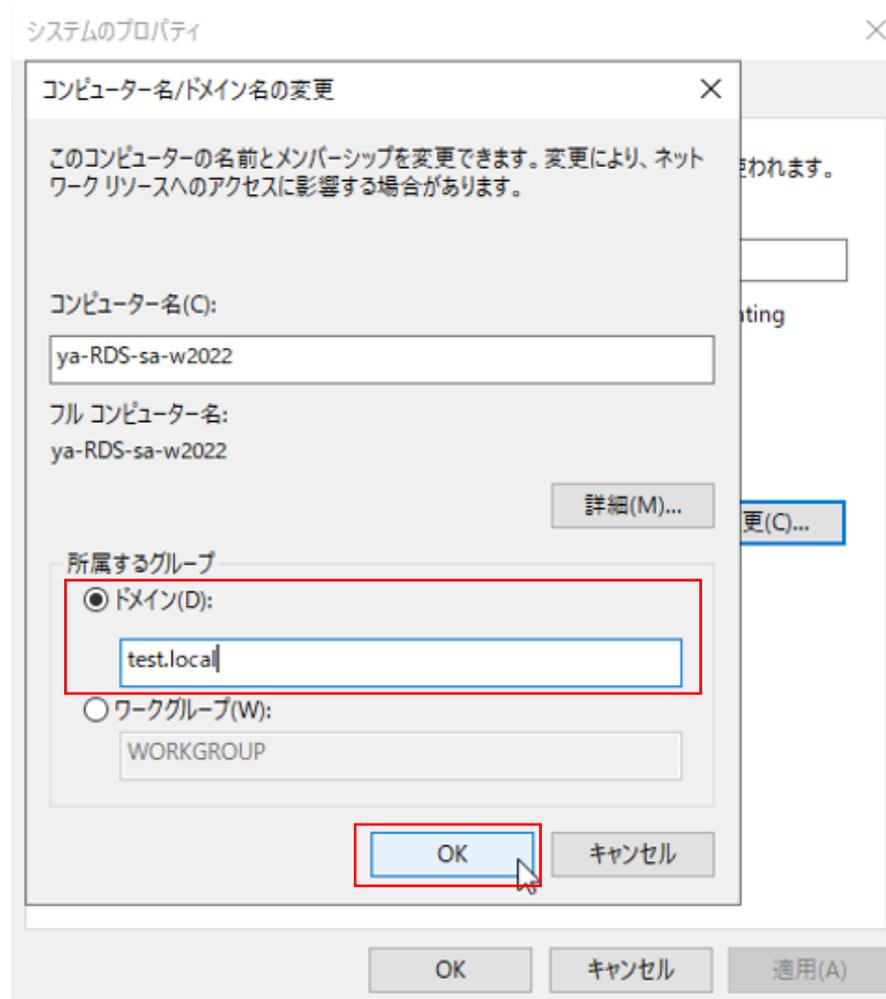
※この操作はライセンスサーバーにて実施します。



■ 3. 移行元のドメインに移行先環境に参加

所属するグループのドメインにチェックを入れて移行元のドメインを入力し、参加します。

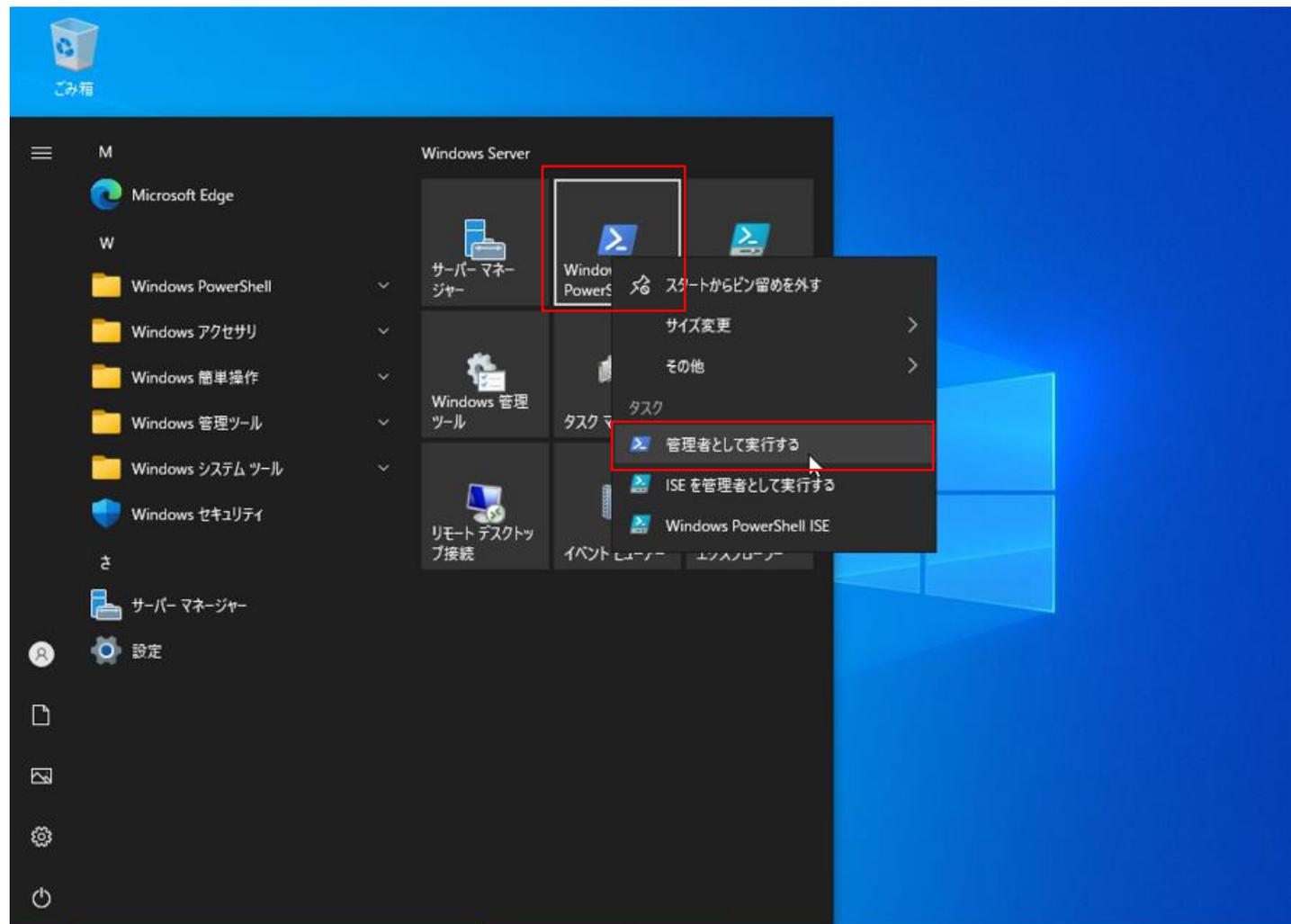
※この操作はライセンスサーバーにて実施します。



■ 4. 移行元から移行先へFSMOの移管

Power Shellを[管理者として実行]を選択します。

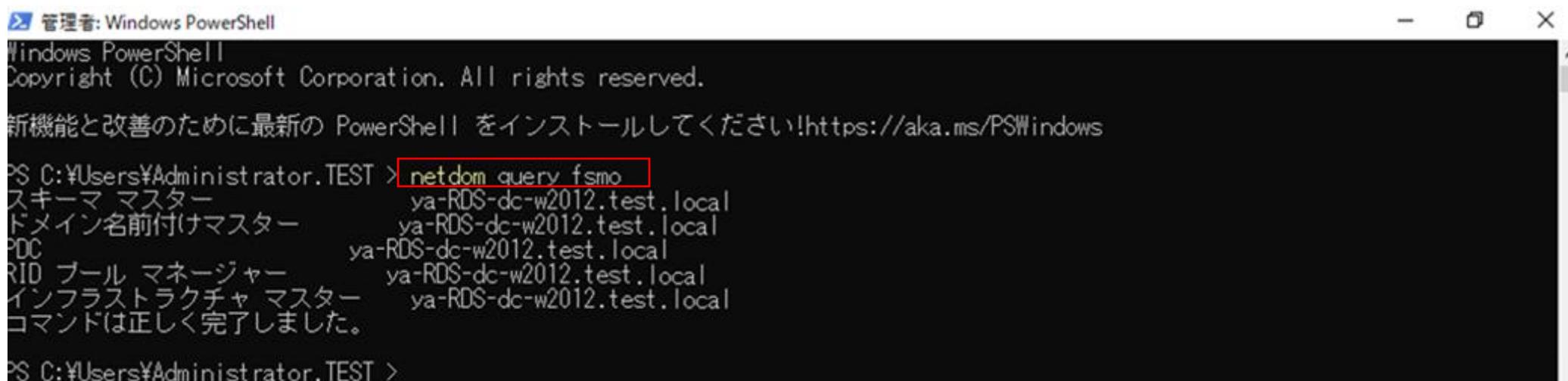
※この操作はドメインコントローラーサーバーにて実施します。



■ 4. 移行元から移行先へFSMOの移管

次のコマンド「netdom query fsmo」を実行し、役割が移行元のドメインコントローラーにあることを確認します。

※この操作はドメインコントローラーサーバーにて実施します。



```
管理: Windows PowerShell
Windows PowerShell
Copyright (C) Microsoft Corporation. All rights reserved.

新機能と改善のために最新の PowerShell をインストールしてください!https://aka.ms/PSWindows

PS C:\Users\Administrator.TEST > netdom query fsmo
スキーマ マスター          ya-RDS-dc-w2012.test.local
ドメイン名前付けマスター  ya-RDS-dc-w2012.test.local
PDC                        ya-RDS-dc-w2012.test.local
RID プール マネージャー   ya-RDS-dc-w2012.test.local
インフラストラクチャ マスター ya-RDS-dc-w2012.test.local
コマンドは正しく完了しました。

PS C:\Users\Administrator.TEST >
```

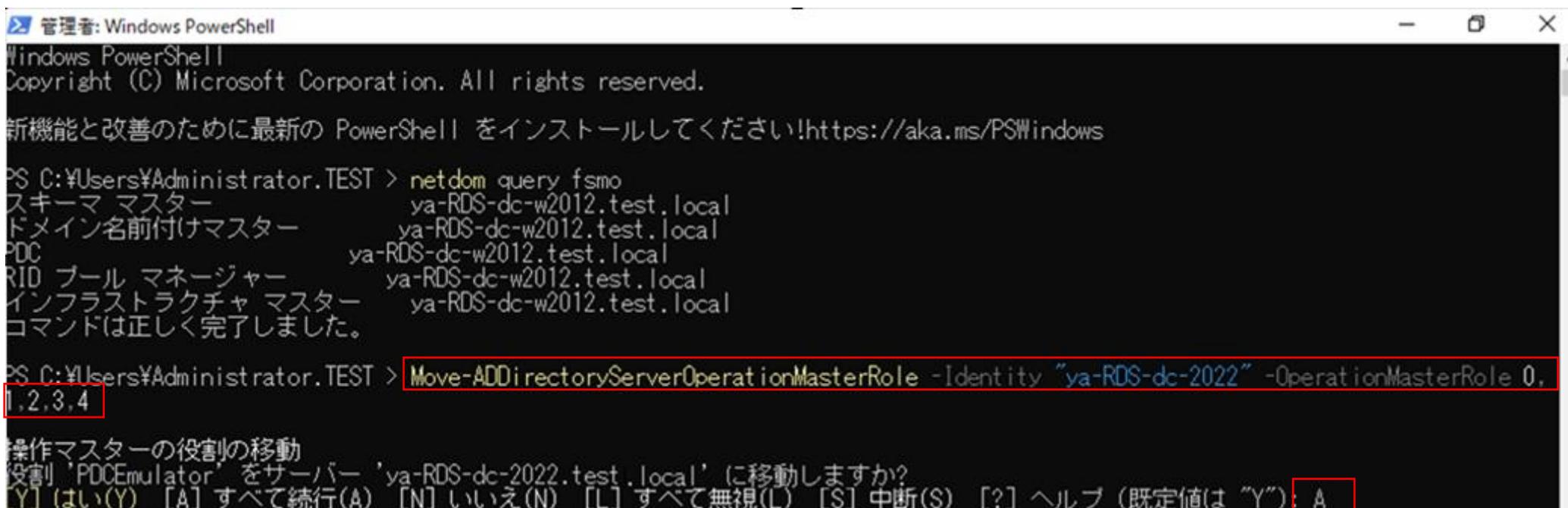
■ 4. 移行元から移行先へFSMOの移管

次のコマンドを実施して役割を移行先のドメインコントローラーに移管します。

「Move-ADDirectoryServerOperationMasterRole -Identity “移行先ドメインサーバー名” -OperationMasterRole 0,1,2,3,4」

質問に対しては「A」と入力し実行します。

※この操作はドメインコントローラーサーバーにて実施します。



```
管理: Windows PowerShell
Windows PowerShell
Copyright (C) Microsoft Corporation. All rights reserved.

新機能と改善のために最新の PowerShell をインストールしてください!https://aka.ms/PSWindows

PS C:\Users\Administrator.TEST > netdom query fsmo
スキーマ マスター          ya-RDS-dc-w2012.test.local
ドメイン名前付けマスター  ya-RDS-dc-w2012.test.local
PDC                        ya-RDS-dc-w2012.test.local
RID プール マネージャー   ya-RDS-dc-w2012.test.local
インフラストラクチャ マスター ya-RDS-dc-w2012.test.local
コマンドは正しく完了しました。

PS C:\Users\Administrator.TEST > Move-ADDirectoryServerOperationMasterRole -Identity "ya-RDS-dc-2022" -OperationMasterRole 0,1,2,3,4
操作マスターの役割の移動
役割 'PDCEmulator' をサーバー 'ya-RDS-dc-2022.test.local' に移動しますか?
[Y] はい(Y) [A] すべて続行(A) [N] いいえ(N) [L] すべて無視(L) [S] 中断(S) [?] ヘルプ (既定値は "Y"): A
```

■ 4. 移行元から移行先へFSMOの移管

再度「netdom query fsmo」を実行し、役割が移行先のドメインコントローラーに移管されたことを確認します。

※この操作はドメインコントローラーサーバーにて実施します。

```
管理者: Windows PowerShell
Windows PowerShell
Copyright (C) Microsoft Corporation. All rights reserved.

新機能と改善のために最新の PowerShell をインストールしてください!https://aka.ms/PSWindows

PS C:\Users\Administrator.TEST > netdom query fsmo
スキーマ マスター ya-RDS-dc-w2012.test.local
ドメイン名前付けマスター ya-RDS-dc-w2012.test.local
PDC ya-RDS-dc-w2012.test.local
RID プール マネージャー ya-RDS-dc-w2012.test.local
インフラストラクチャ マスター ya-RDS-dc-w2012.test.local
コマンドは正しく完了しました。

PS C:\Users\Administrator.TEST > Move-ADDirectoryServerOperationMasterRole -Identity "ya-RDS-dc-2022" -OperationMasterRole 0,1,2,3,4

操作マスターの役割の移動
役割 'PDCEmulator' をサーバー 'ya-RDS-dc-2022.test.local' に移動しますか?
[Y] はい(Y) [A] すべて続行(A) [N] いいえ(N) [L] すべて無視(L) [S] 中断(S) [?] ヘルプ (既定値は "Y"): A
PS C:\Users\Administrator.TEST > netdom query fsmo
スキーマ マスター ya-RDS-dc-2022.test.local
ドメイン名前付けマスター ya-RDS-dc-2022.test1.local
PDC ya-RDS-dc-2022.test.local
RID プール マネージャー ya-RDS-dc-2022.test.local
インフラストラクチャ マスター ya-RDS-dc-2022.test.local
コマンドは正しく完了しました。

PS C:\Users\Administrator.TEST > _
```

■ 5. 移行先のRDSの展開

移行先RDS環境を構築するために以下3つのチュートリアルを参考にご実施ください

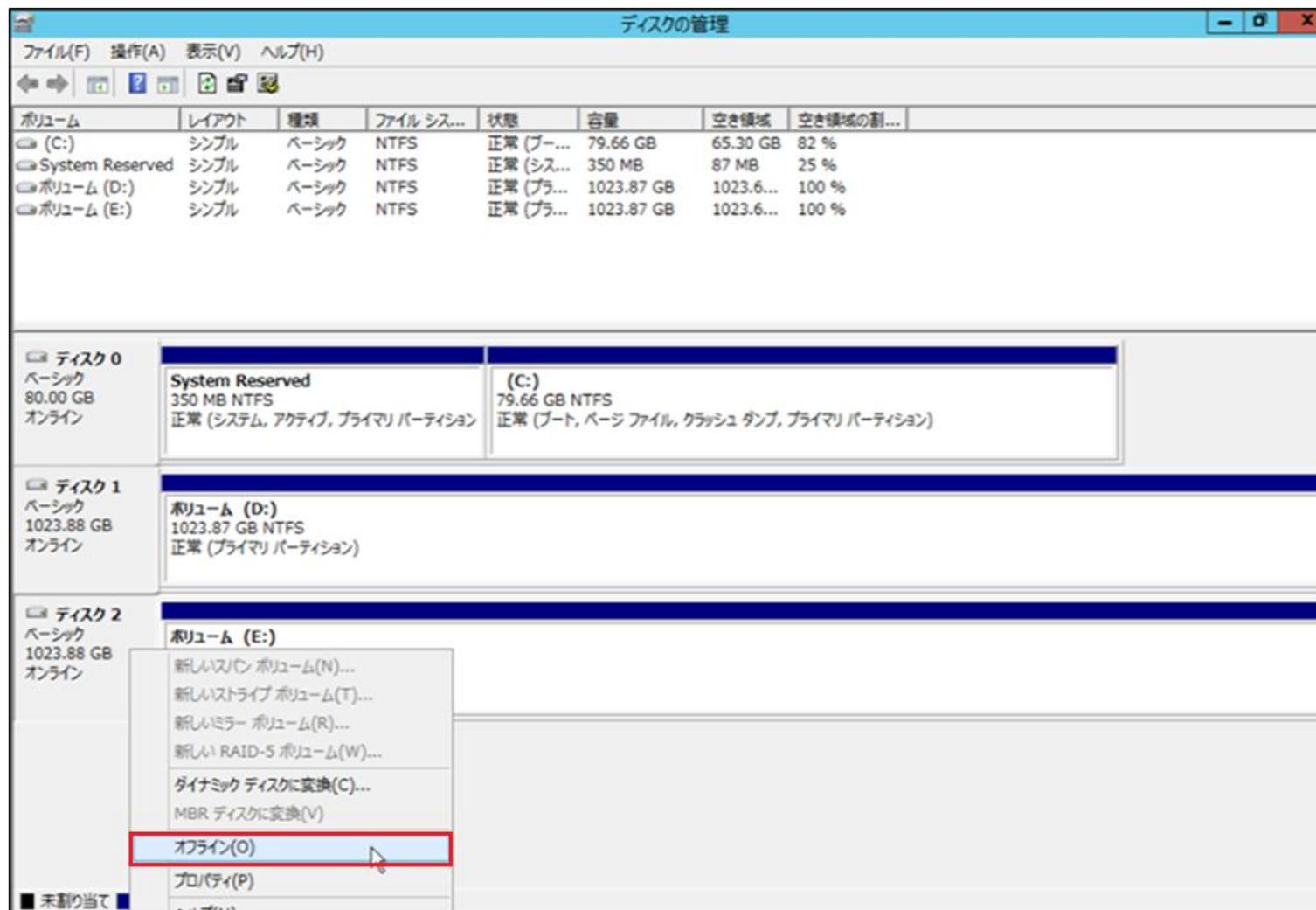
[3. Remote Desktop環境作成手順 - Windows Server Remote Desktop Services SAL チュートリアル | Smart Data Platform Knowledge Center](#)

[3. Remote Desktop環境作成手順 - Windows Server Remote Desktop Services SAL チュートリアル | Smart Data Platform Knowledge Center](#)

[3. Remote Desktop環境作成手順 - Windows Server Remote Desktop Services SAL チュートリアル | Smart Data Platform Knowledge Center](#)

6. 移行元からのユーザーデータの移行

移行元サーバーのコンソール画面を開き、「ディスクの管理」の画面で、バックアップデータ保存用ボリュームのディスクで右クリックで、「オフライン」を押下します。



6. 移行元からのユーザーデータの移行

SDPFポータル画面を開き、「仮想サーバ」→「サーバーインスタンス」→「ボリューム」画面で、バックアップデータ保存用ボリュームを選択し、「接続の管理」を選択します。

※「接続の管理」からボリュームの切断（デタッチ）を行います。下記URL事象が発生する可能性があるため、デタッチ実施の際は、仮想サーバーインスタンスを停止した状態で実施してください。

<https://sdpf.ntt.com/faq/virtual-server-35/>

The screenshot shows the 'ボリューム' (Volumes) management page in the SDPF portal. The left sidebar contains navigation options like '仮想サーバ' (Virtual Server), 'サーバーインスタンス' (Server Instance), and 'ボリューム' (Volume). The main area displays a table of volumes with the following columns: 名前 (Name), 説明 (Description), ゾーングループ (Zone Group), サイズ (Size), 種別 (Type), 接続先 (Attachment), 起動可能 (Startable), ステータス (Status), and アクション (Action). One volume is highlighted in yellow, and its '接続の管理' (Manage Connection) action is selected, opening a dropdown menu with options like 'ボリュームの切断' (Detach Volume) and 'イメージをアップロード' (Upload Image).

名前	説明	ゾーングループ	サイズ	種別	接続先	起動可能	ステータス	アクション
	-	zone1-group	100GB	-		はい	利用可能	ボリュームの編集
	-	zone1-group	80GB	Type-A		はい	reserved	ボリュームの編集
	-	zone1-group	80GB	Type-B		はい	利用可能	ボリュームの編集
	-	zone1-group	1024GB	Type-B		はい	利用可能	ボリュームの編集
	-	zone1-group	1024GB	Type-B	の /dev/sdi に接続中	いいえ	使用中	ボリュームの編集
	-	zone1-group	1024GB	Type-B	の /dev/sdi に接続中	いいえ	使用中	接続の管理
	-	zone1-group	1024GB	Type-B	の /dev/sdi に接続中	いいえ	使用中	ボリュームの切断
	-	zone1-group	1024GB	Type-B	の /dev/sdi に接続中	いいえ	使用中	イメージをアップロード
	-	zone1-group	1024GB	Type-B	の /dev/sdi に接続中	いいえ	使用中	ボリューム種別の変更
	-	zone1-group	1024GB	Type-B	の /dev/sdi に接続中	いいえ	使用中	ボリュームの削除

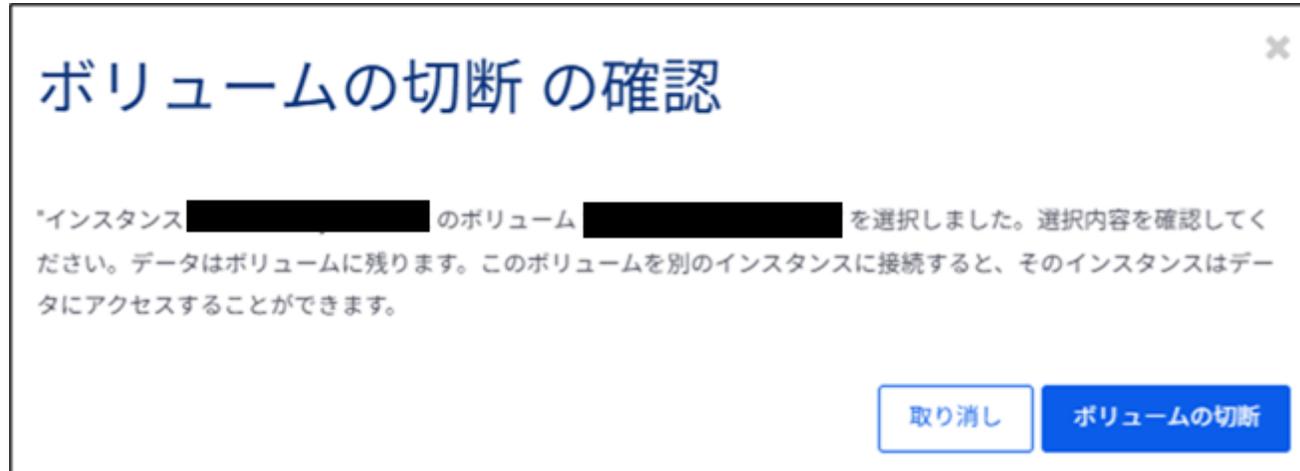
6. 移行元からのユーザーデータの移行

「ボリュームの接続の管理」画面で、「ボリュームの切断」を押下します。



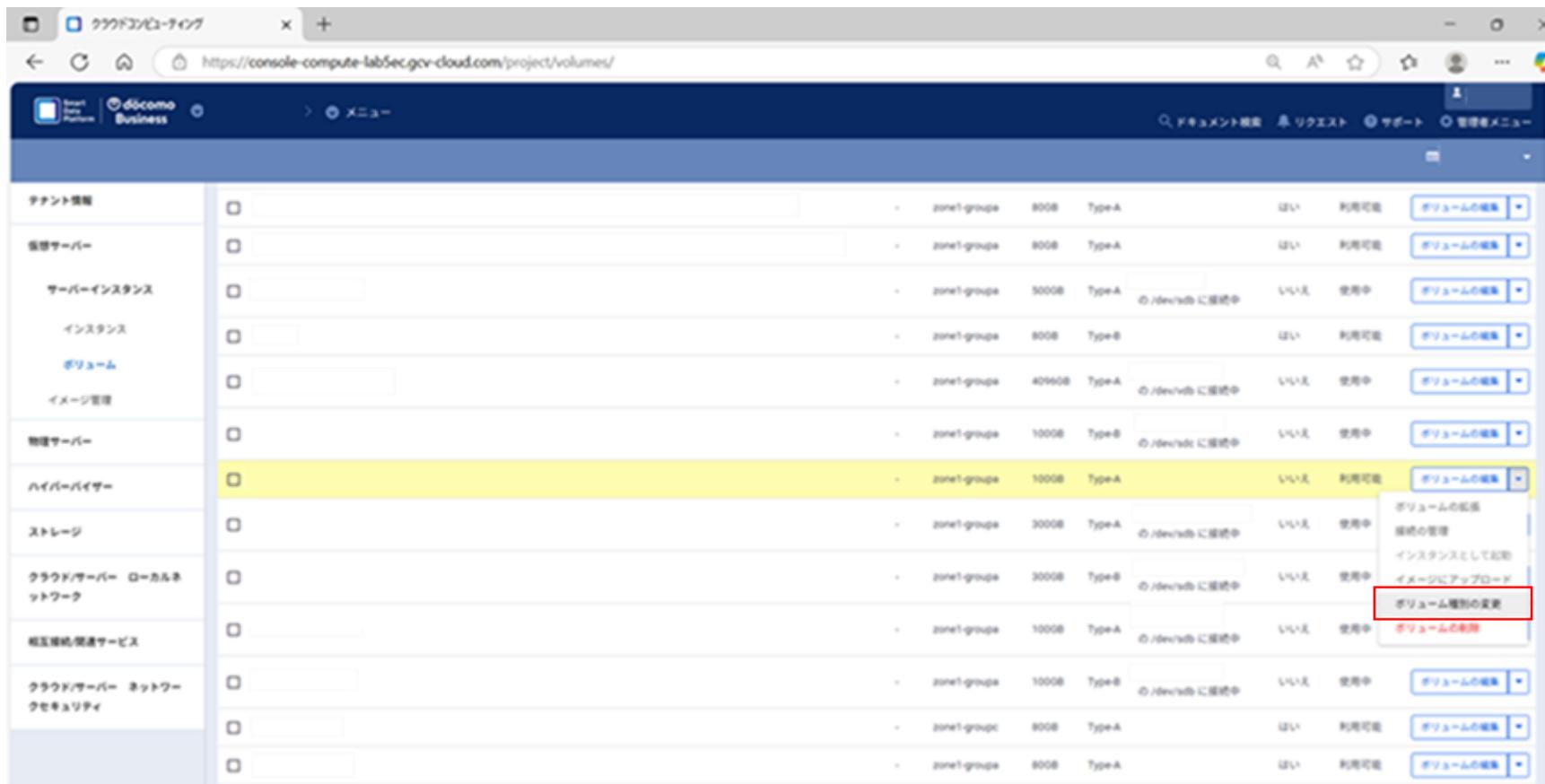
6. 移行元からのユーザーデータの移行

「ボリュームの切断の確認」画面で、「ボリュームの切断」を押下します。



6. 移行元からのユーザーデータの移行

先ほど作成したバックアップデータ保存用ボリュームを選択し、アクションリストから「ボリューム種別の変更」を選択します。



The screenshot shows the NTT Docomo Business console interface. The left sidebar contains navigation options such as 'テナント情報', '仮想サーバー', 'サーバーインスタンス', 'ボリューム', and 'イメージ管理'. The main area displays a table of volumes with columns for name, zone, size, type, status, and actions. One volume is highlighted in yellow, and its dropdown menu is open, showing options like 'ボリュームの拡張', 'ボリュームの削除', 'ボリューム種別の変更', and 'ボリュームの利用'. The 'ボリューム種別の変更' option is highlighted with a red box.

名前	ゾーン	サイズ	タイプ	ステータス	アクション
zone1-group	zone1-group	800B	Type-A	はい 利用可能	ボリュームの拡張
zone1-group	zone1-group	800B	Type-A	はい 利用可能	ボリュームの拡張
zone1-group	zone1-group	5000B	Type-A	の /dev/sdb に接続中 いいえ 使用中	ボリュームの拡張
zone1-group	zone1-group	800B	Type-B	はい 利用可能	ボリュームの拡張
zone1-group	zone1-group	40960B	Type-A	の /dev/sdb に接続中 いいえ 使用中	ボリュームの拡張
zone1-group	zone1-group	1000B	Type-B	の /dev/sdb に接続中 いいえ 使用中	ボリュームの拡張
zone1-group	zone1-group	1000B	Type-A	はい 利用可能	ボリュームの拡張
zone1-group	zone1-group	3000B	Type-A	の /dev/sdb に接続中 いいえ 使用中	ボリュームの拡張
zone1-group	zone1-group	3000B	Type-B	の /dev/sdb に接続中 いいえ 使用中	ボリュームの拡張
zone1-group	zone1-group	1000B	Type-A	の /dev/sdb に接続中 いいえ 使用中	ボリュームの拡張
zone1-group	zone1-group	1000B	Type-B	の /dev/sdb に接続中 いいえ 使用中	ボリュームの拡張
zone1-group	zone1-group	800B	Type-A	はい 利用可能	ボリュームの拡張
zone1-group	zone1-group	800B	Type-A	はい 利用可能	ボリュームの拡張

6. 移行元からのユーザーデータの移行

ボリューム種別がType-Bになっていることを確認し、「ボリューム種別の変更」を選択します。

ボリューム種別の変更 ✕

ボリューム種別

Type-B ▼

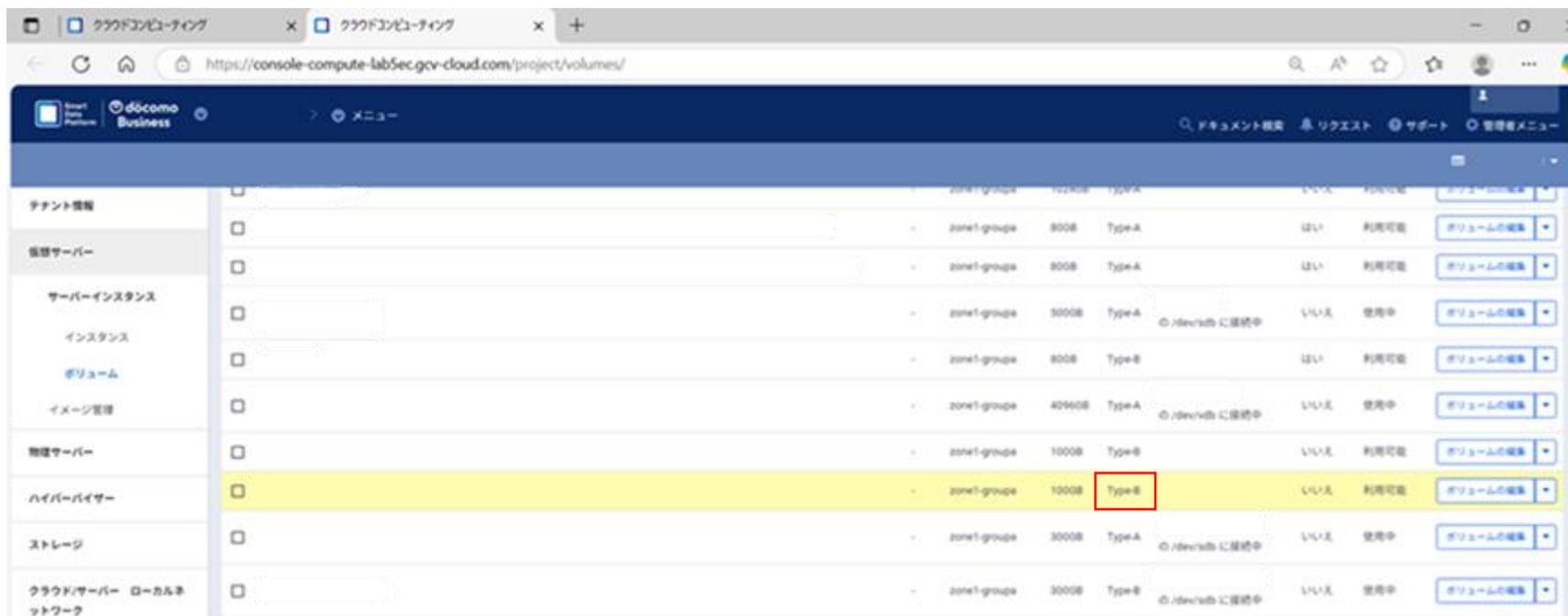
ドライランモードを有効にする

取り消し

ボリューム種別の変更

6. 移行元からのユーザーデータの移行

バックアップデータ保存用ボリュームのタイプが“Type-B”になっていることを確認します。



テナント情報	ゾーン	容量	タイプ	接続状況	ステータス	操作	
	zone1-group	1024GB	Type-A	いいえ	利用可能	ボリュームの編集	
	zone1-group	800GB	Type-A	はい	利用可能	ボリュームの編集	
	zone1-group	800GB	Type-A	はい	利用可能	ボリュームの編集	
	zone1-group	3000GB	Type-A	の /dev/sdb に接続中	いいえ	使用中	ボリュームの編集
	zone1-group	800GB	Type-B	はい	利用可能	ボリュームの編集	
	zone1-group	4096GB	Type-A	の /dev/sdb に接続中	いいえ	使用中	ボリュームの編集
	zone1-group	1000GB	Type-B	いいえ	利用可能	ボリュームの編集	
	zone1-group	1000GB	Type-B	いいえ	利用可能	ボリュームの編集	
	zone1-group	3000GB	Type-A	の /dev/sdb に接続中	いいえ	使用中	ボリュームの編集
	zone1-group	3000GB	Type-B	の /dev/sdb に接続中	いいえ	使用中	ボリュームの編集

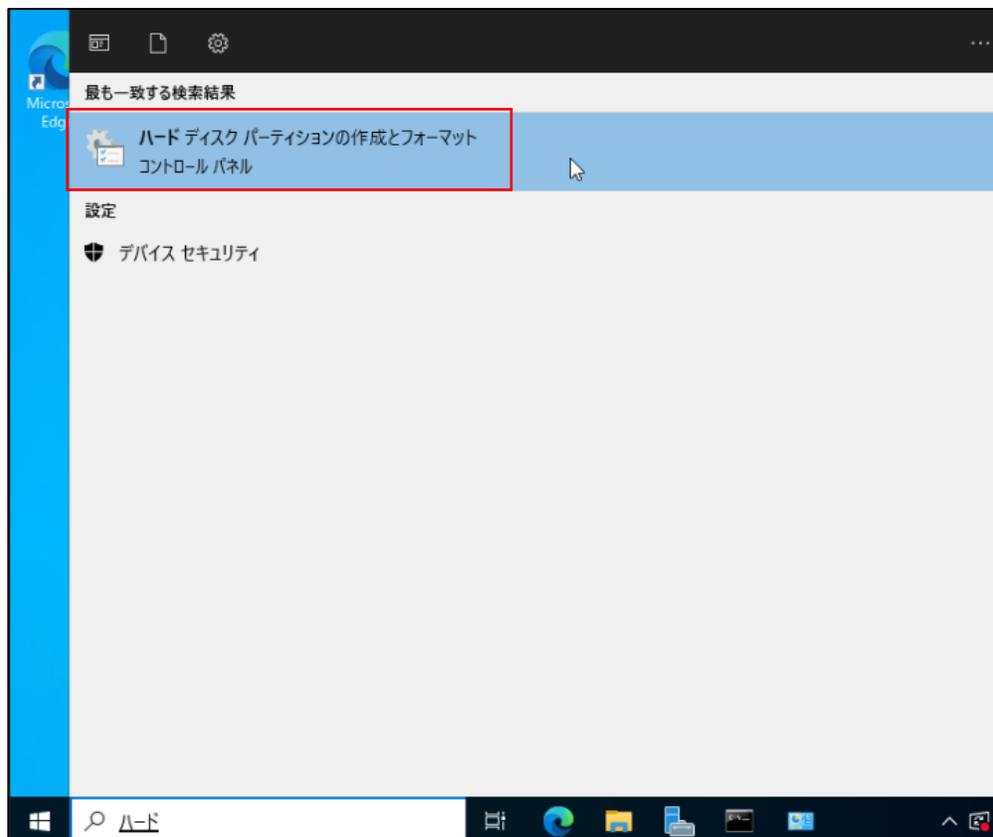
6. 移行元からのユーザーデータの移行

次に、バックアップデータ保存用ボリュームを移行先サーバーに接続します。
以下リンクの「4.1.2インスタンスへのデータボリュームのアタッチ」を参考に実施します。

[4.1.データボリュームの新規作成方法 - サーバーインスタンス チュートリアル | Smart Data Platform Knowledge Center](#)

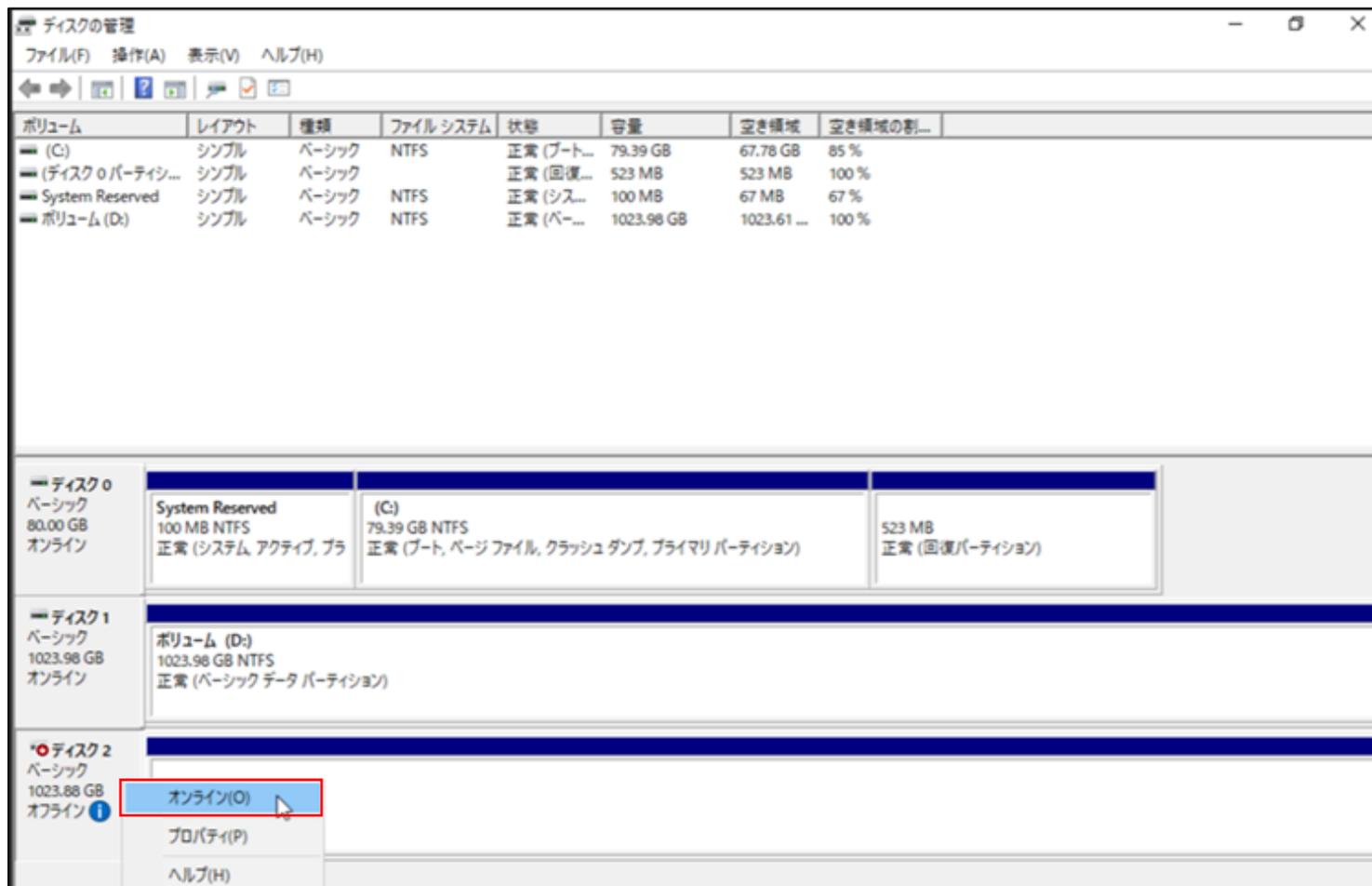
6. 移行元からのユーザーデータの移行

移行先サーバーにログインして、「検索ボックス」から「ハード ディスク パーティションの作成とフォーマット」を検索し、結果の一覧で、「ハード ディスク パーティションの作成とフォーマット」を開きます。



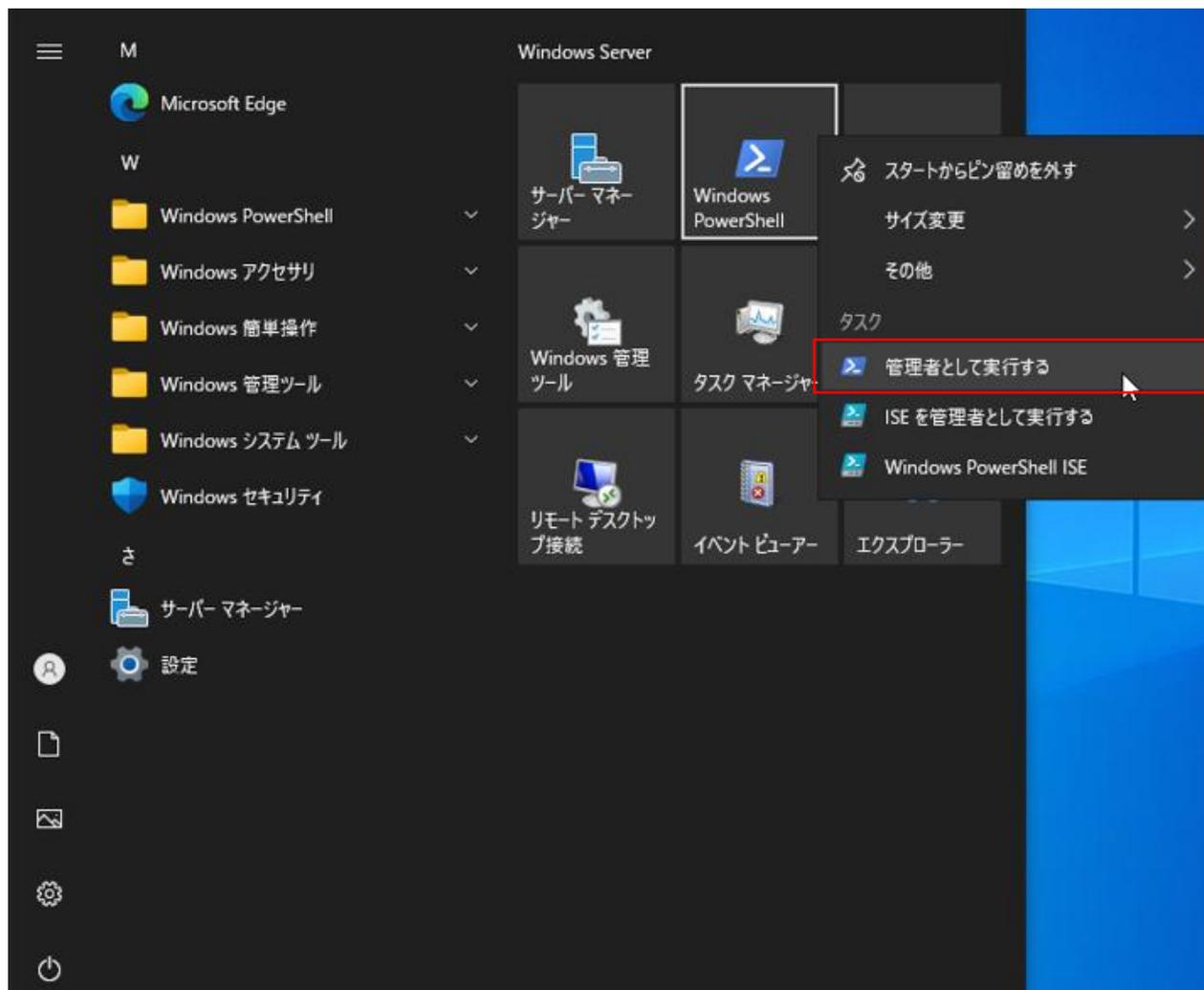
6. 移行元からのユーザーデータの移行

バックアップデータ保存用データボリューム上で右クリックし、「オンライン」を押下します。



6. 移行元からのユーザーデータの移行

移行先サーバーで、**スタートボタンをクリックし、表示されたメニュー（またはタイル）から「Windows PowerShell」を右クリックして、「管理者として実行」を選択します。**



6. 移行元からのユーザーデータの移行

「このアプリがデバイスに変更を加えることを許可しますか？」と表示された場合、「はい」を選択します。



6. 移行元からのユーザーデータの移行

起動した「Windows PowerShell」で、以下のコマンドを実行し、バックアップデータを作成します。

robocopy バックアップデータ保存用ストレージ 移行先サーバー “対象ファイル” /COPYALL /XJ /R:数字 /W:数字

```

PS C:\Users\Administrator.YA-RDS-SH-W2022> robocopy D:\ C:\Users\Test_User04\Desktop test_0919.txt /COPYALL /XJ /R:3 /W:5

-----
ROBOCOPY      ::      Windows の堅牢性の高いファイル コピー
-----

開始: 2025年9月24日 16:40:35
コピー元 : D:\
コピー先 : C:\Users\Test_User04\Desktop\

ファイル: test_0919.txt
オプション: /COPYALL /XJ /R:3 /W:5

-----
100%      新しいファイル      1      D:\
                                13      test_0919.txt
-----

ディレクトリ:   合計      コピー済み      スキップ      不一致      失敗      Extras
ファイル:      1      1      0      0      0      0
バイト:      13      13      0      0      0      0
時刻:      0:00:00      0:00:00      0:00:00      0:00:00
終了: 2025年9月24日 16:40:35

PS C:\Users\Administrator.YA-RDS-SH-W2022>

```

/COPY: コピーフラグ

コピーフラグ

/R: 数字

/W: 数字

ファイルにコピーする情報を指定します。

ALL=ファイルのデータ本体、属性、タイムスタンプ、アクセス権、所有者情報、監査情報

ファイルコピー失敗時、(数字)回まで再試行(Retry)します。

再試行する際に(数字)秒待機(Wait)します。

6. 移行元からのユーザーデータの移行

以下のコマンドで、データが正しくコピーされたかを確認します。仕様上ファイル数の数字の列と合計などの項目名の行の表記が少しずれてしまいますが、失敗の行に数字がなければデータの移行は完了です。

robocopy バックアップデータ保存用ストレージ 移行先サーバー “対象ファイル” /COPYALL /XJ /L /NP

```

PS C:\Users\Administrator\YA-RDS-SH-W2022> robocopy D:\Users\Administrator\YA-RDS-SH-W2022\ test_0919.txt /COPYALL /XJ /L /NP

-----
ROBOCOPY      ::      Windows の堅牢性の高いファイル コピー
-----

開始: 2025年9月24日 16:42:22
コピー元 : D:\
コピー先  : C:\Users\Administrator\YA-RDS-SH-W2022\
ファイル: test_0919.txt
オプション: /L /COPYALL /NP /XJ /R:1000000 /W:30

-----

更新済み      1      D:\      13      test_0919.txt

-----

合計      コピー済み      スキップ      不一致      失敗      Extras
ディレクトリ:      1      0      1      0      0
ファイル:      1      1      0      0      0
バイト:      13      13      0      0      0
時刻:      0:00:00      0:00:00      0:00:00      0:00:00
終了: 2025年9月24日 16:42:22

PS C:\Users\Administrator\YA-RDS-SH-W2022>

```

/COPY: コピーフラグ

コピーフラグ

/XJ

/L

/NP

ファイルにコピーする情報を指定します。

ALL=ファイルのデータ本体、属性、タイムスタンプ、アクセス権、所有者情報、監査情報

無限ループを防ぐため、ジャンクションポイントを除外します。

差分があるかを確認するだけのテストモードです。

結果のサマリーを見やすくするために進捗表示を省略します。

■ 7.旧環境の削除

新環境へのデータ移行と、**アプリケーションの正常な稼働をご確認いただいた後**、以降の手順にて旧環境を削除します。

■ 7.旧環境の削除

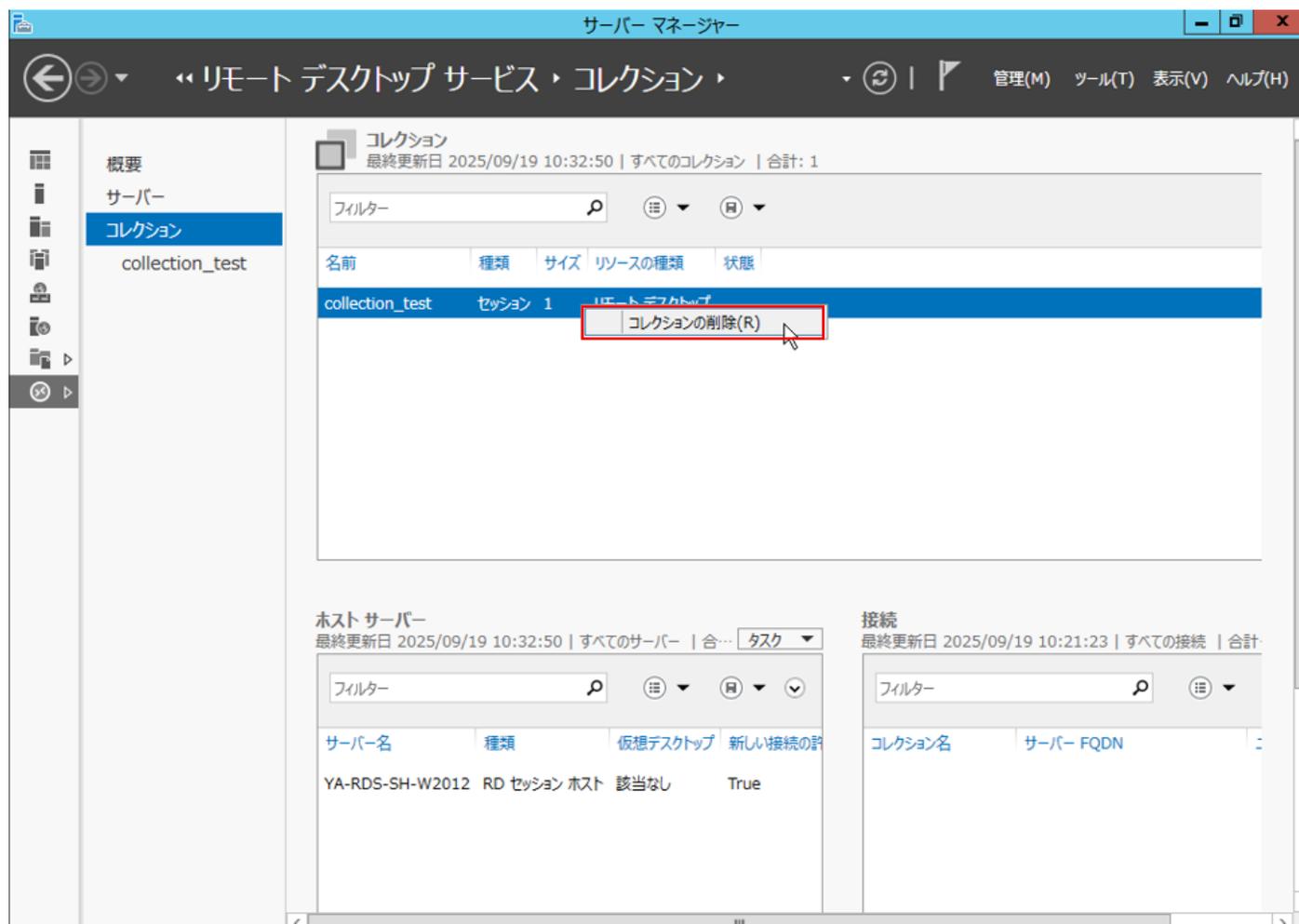
移行元サーバーのサーバーマネージャーからリモートデスクトップサービスを開きます。

※この操作はドメインコントローラーサーバーにて実施します。



■ 7.旧環境の削除

コレクションから削除するコレクションを選択し、右クリックからコレクションの削除を実施します。
※この操作はドメインコントローラサーバーにて実施します。



■ 7.旧環境の削除

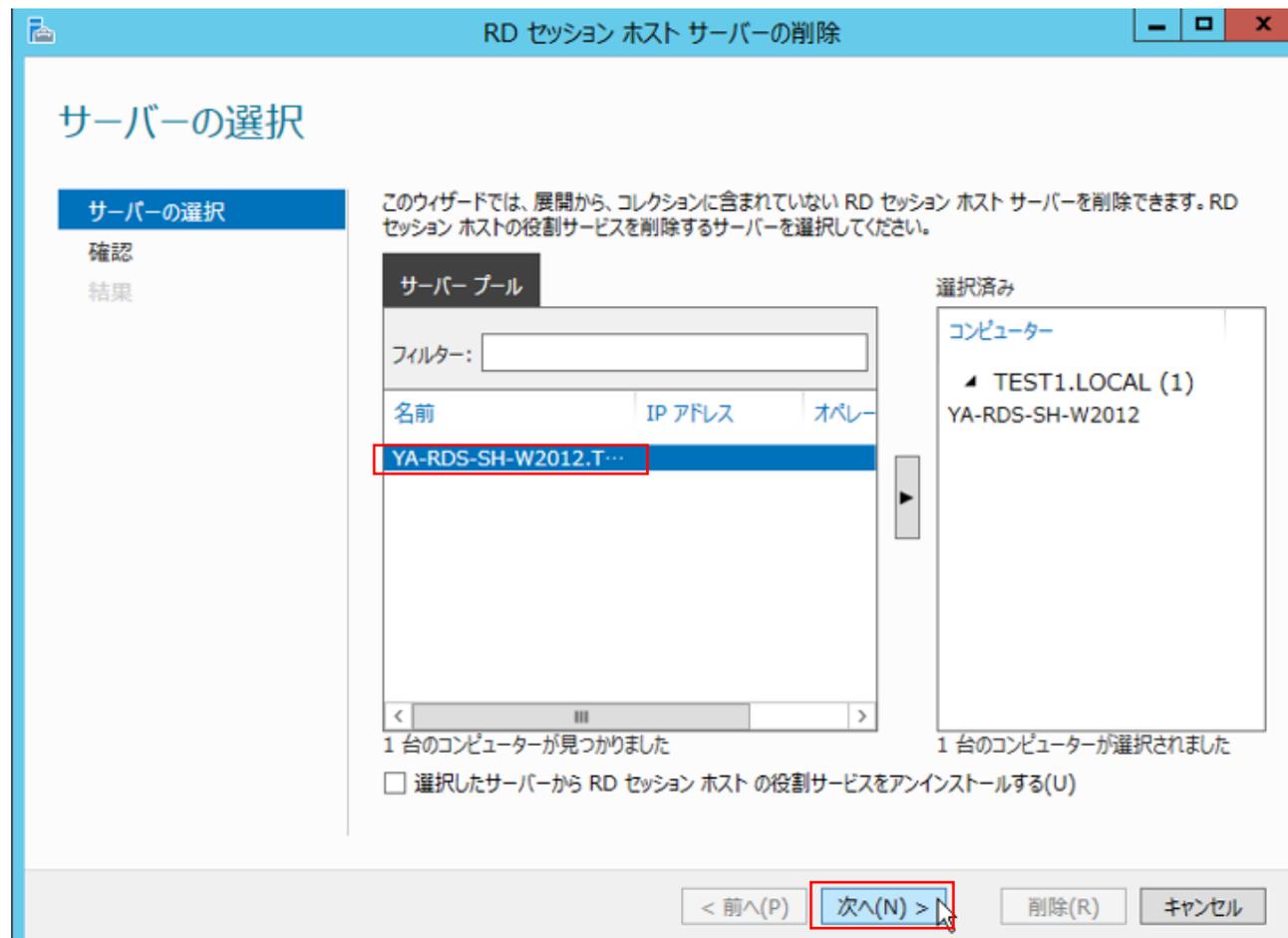
概要からRD セッションホストを右クリックし、[RD セッションホストサーバーの削除]を選択します。
※この操作はドメインコントローラーサーバーにて実施します。



■ 7.旧環境の削除

対象のセッションホストサーバーを選択し、[次へ]をクリックします。

※この操作はドメインコントローラーサーバーにて実施します。



■ 7.旧環境の削除

警告を確認し、[はい]をクリックします。

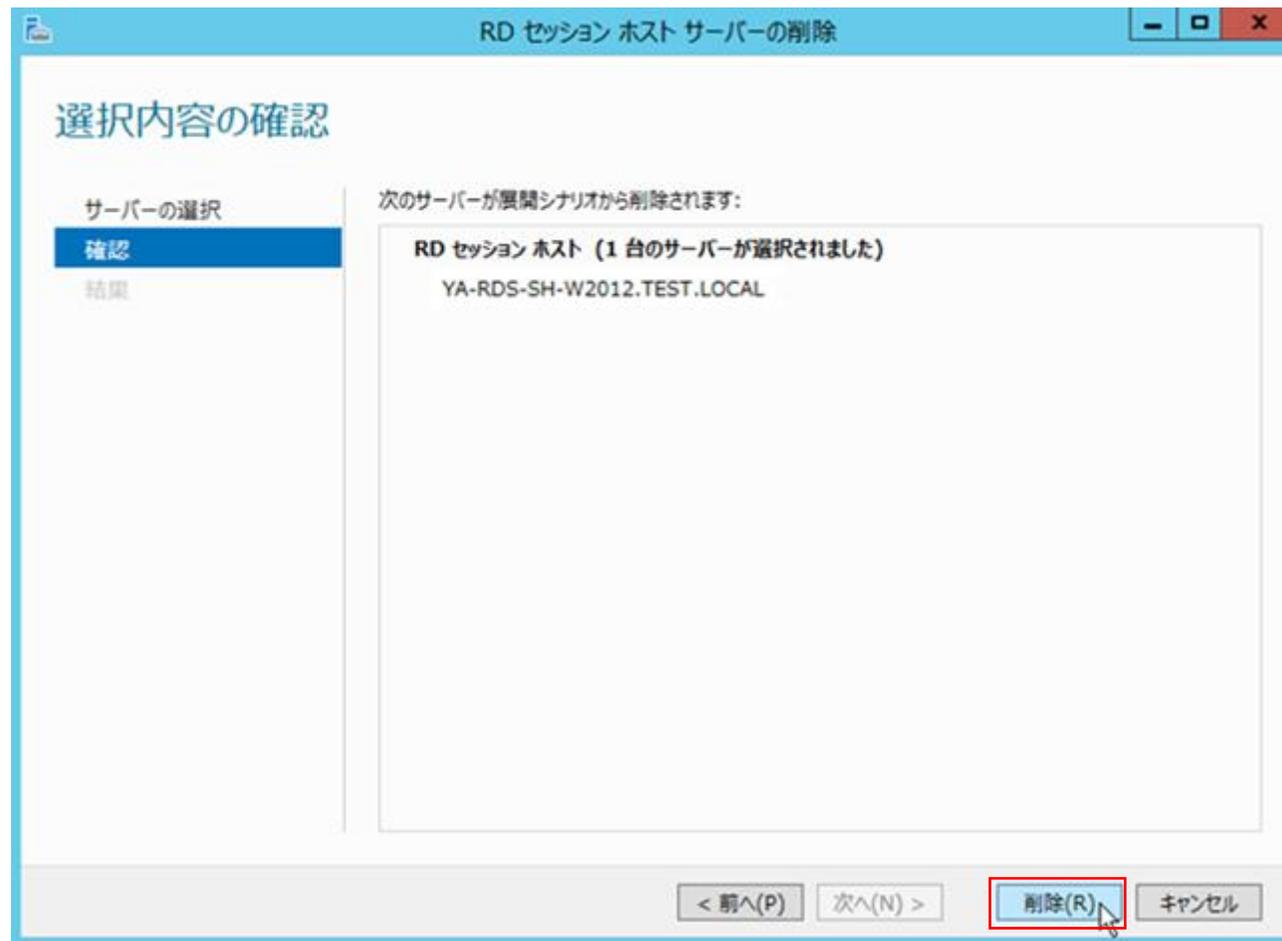
※この操作はドメインコントローラサーバーにて実施します。



■ 7.旧環境の削除

選択内容を確認し、[削除]をクリックします。

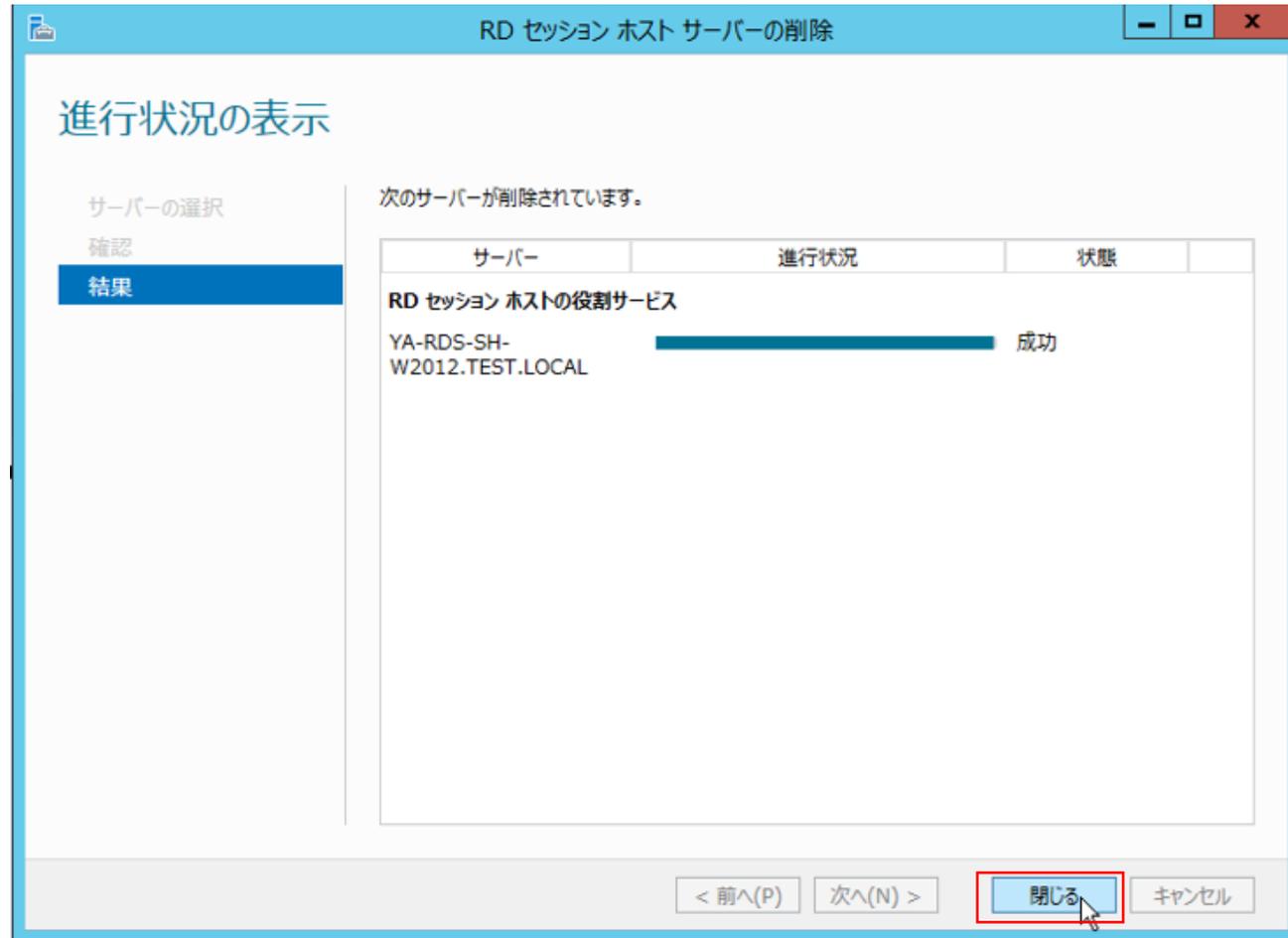
※この操作はドメインコントローラサーバーにて実施します。



■ 7.旧環境の削除

削除されたことを確認し、[閉じる]をクリックします。

※この操作はドメインコントローラーサーバーにて実施します。



■ 7.旧環境の削除

概要からRDライセンスを右クリックし、[RD ライセンスサーバーの削除]をクリックします。

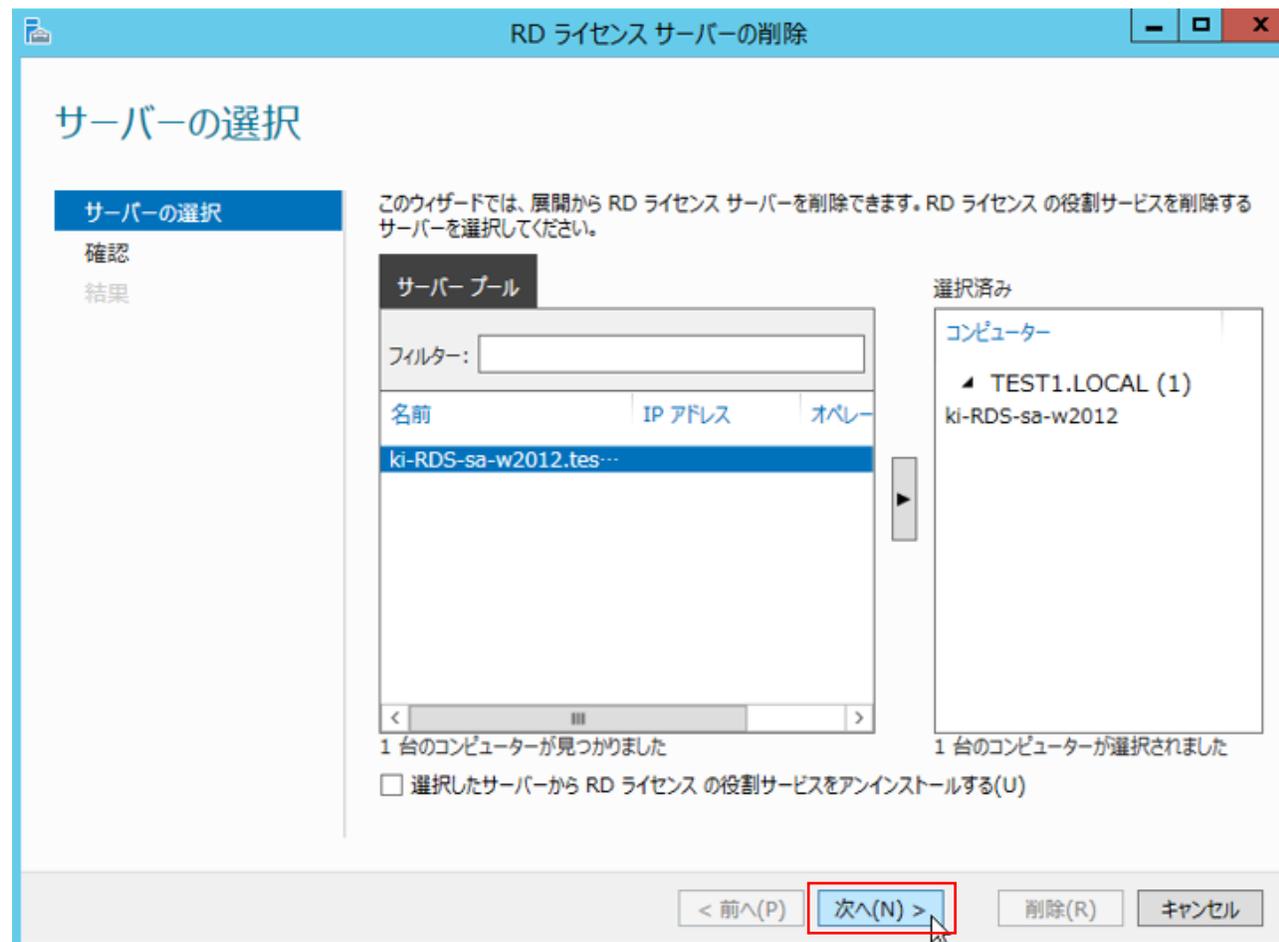
※この操作はドメインコントローラーサーバーにて実施します。



■ 7.旧環境の削除

対象のライセンスサーバーを選択し、[次へ]をクリックします。

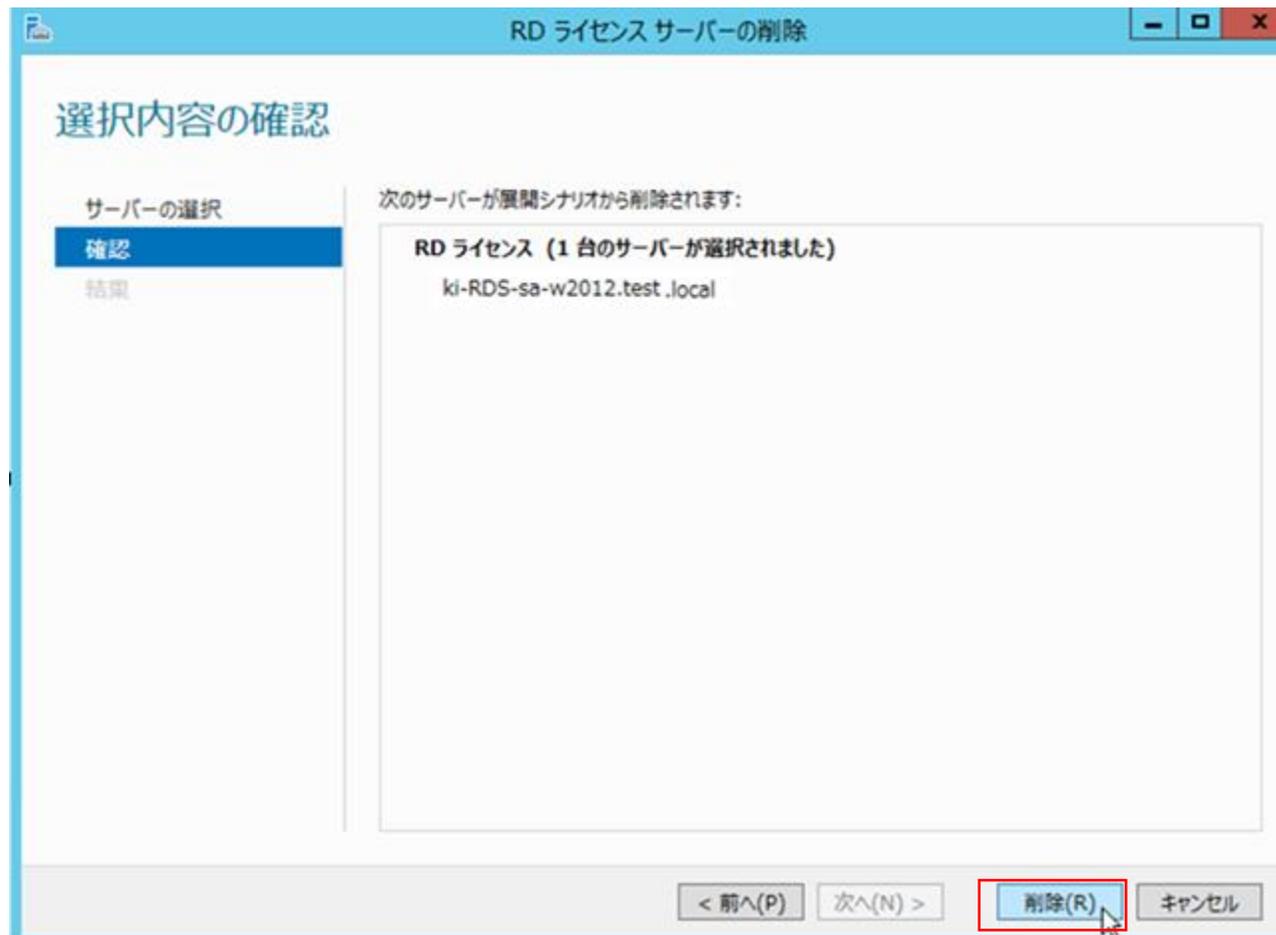
※この操作はドメインコントローラーサーバーにて実施します。



■ 7.旧環境の削除

選択内容を確認し、[削除]をクリックします。

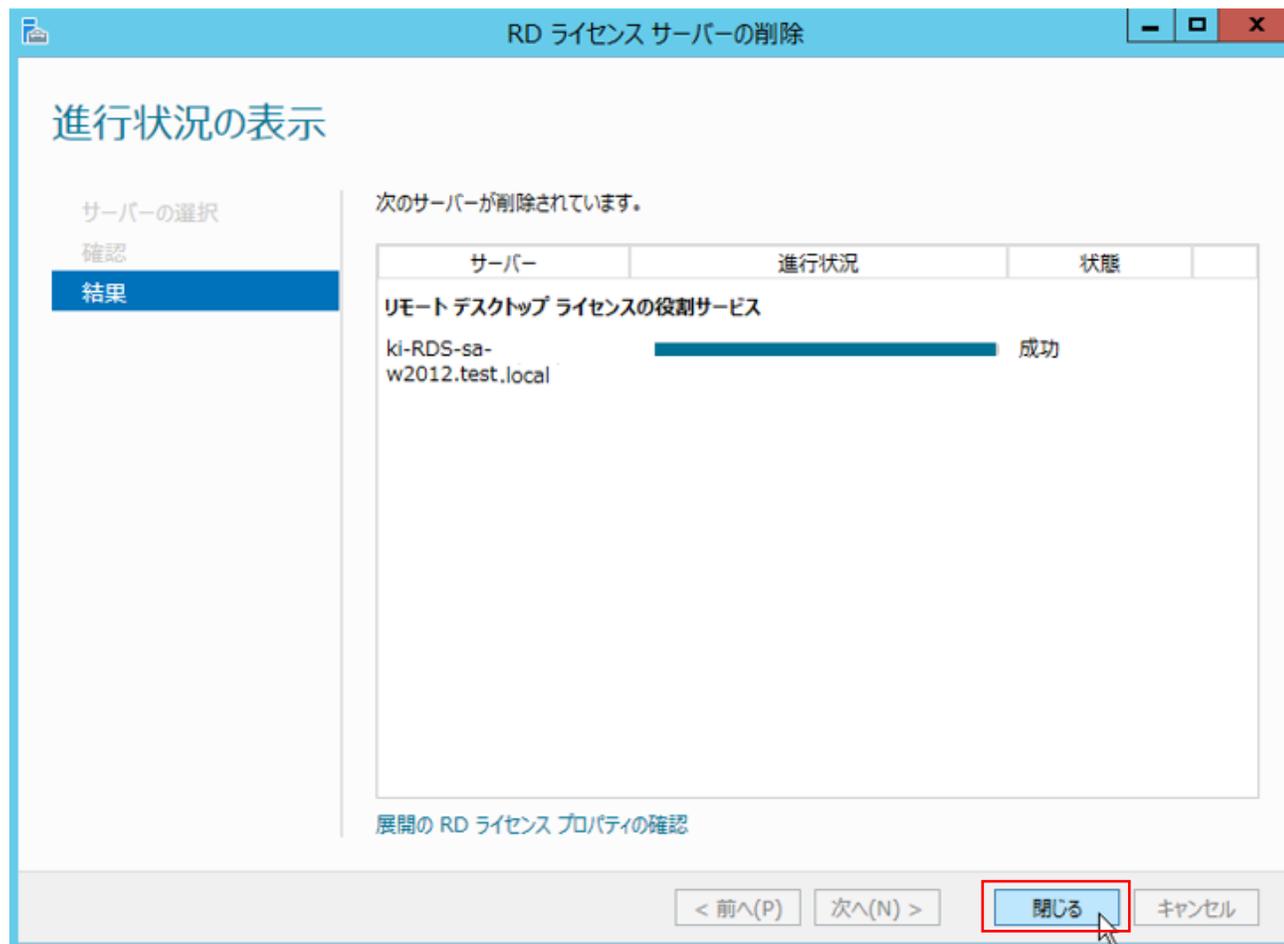
※この操作はドメインコントローラサーバーにて実施します。



■ 7.旧環境の削除

削除されたことを確認し、[閉じる]をクリックします。

※この操作はドメインコントローラーサーバーにて実施します。



■ 7.旧環境の削除

移行元サーバーのサーバーマネージャーのローカルサーバーからドメインをクリックします。

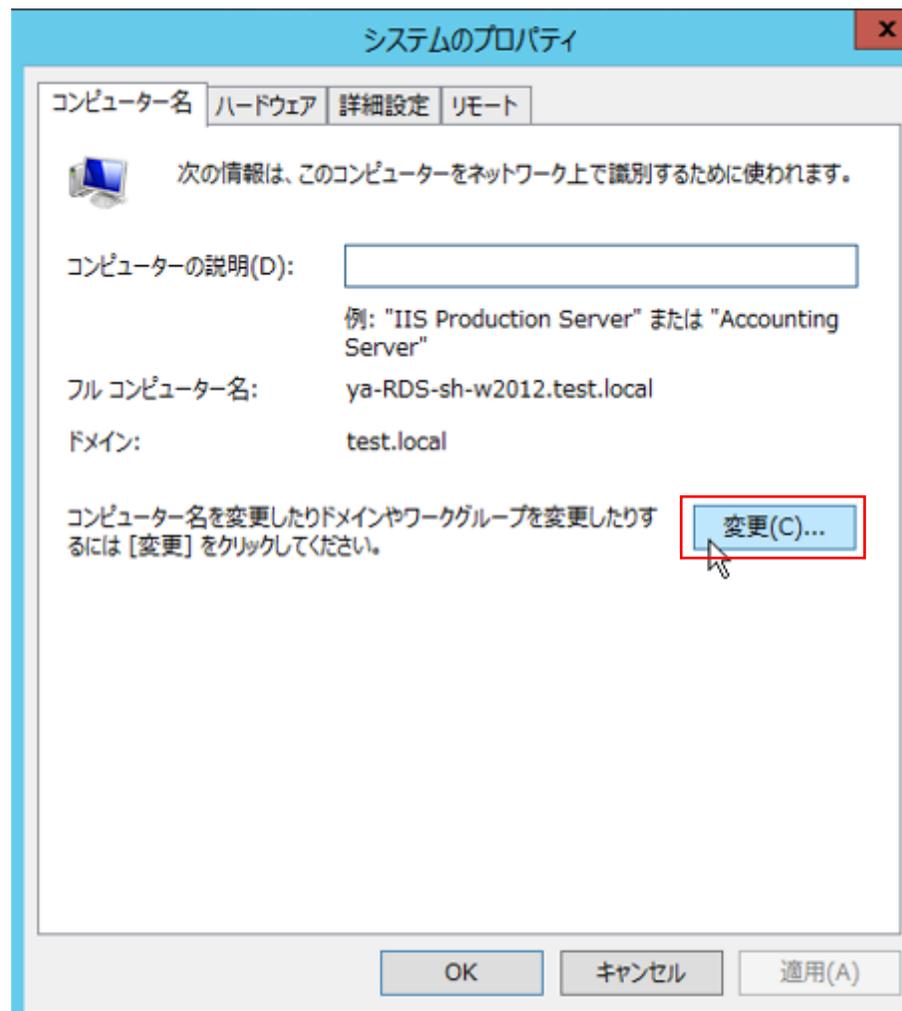
※この操作はセッションホストサーバーにて実施します。



■ 7.旧環境の削除

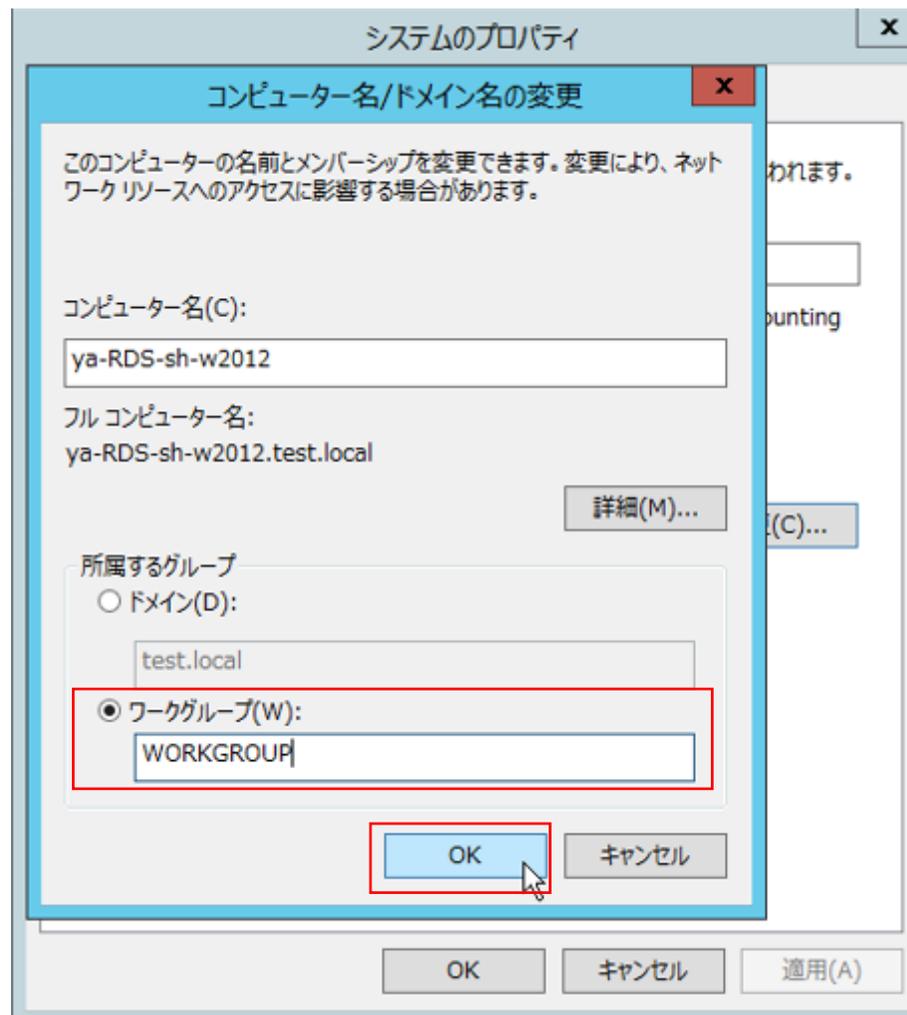
システムのプロパティのコンピューター名タブの[変更]をクリックします。

※この操作はセッションホストサーバーにて実施します。



■ 7.旧環境の削除

所属するグループのワークグループにチェックを入れて適当な名前を入力し、ドメインから離脱します。
※この操作はセッションホストサーバーにて実施します。



■ 7.旧環境の削除

移行元サーバーのサーバーマネージャーのローカルサーバーからドメインをクリックします。

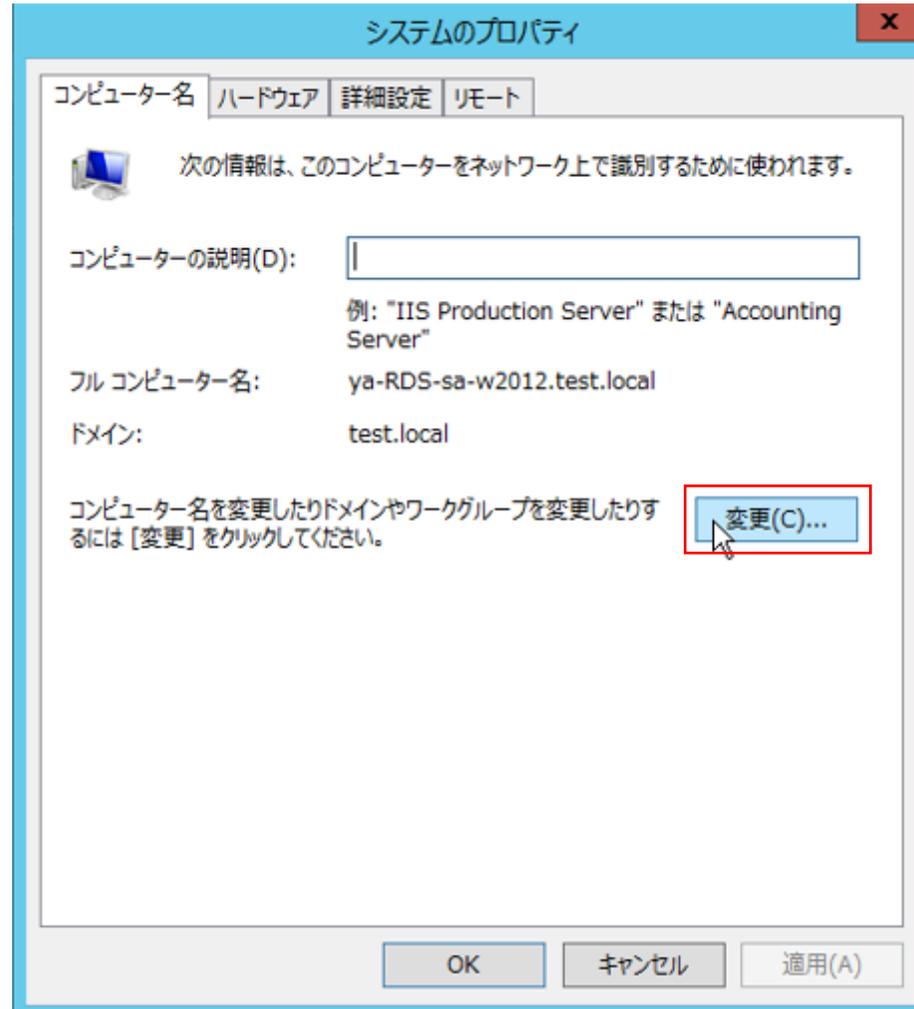
※この操作はライセンスサーバーにて実施します。



■ 7.旧環境の削除

システムのプロパティのコンピューター名タブの[変更]をクリックします。

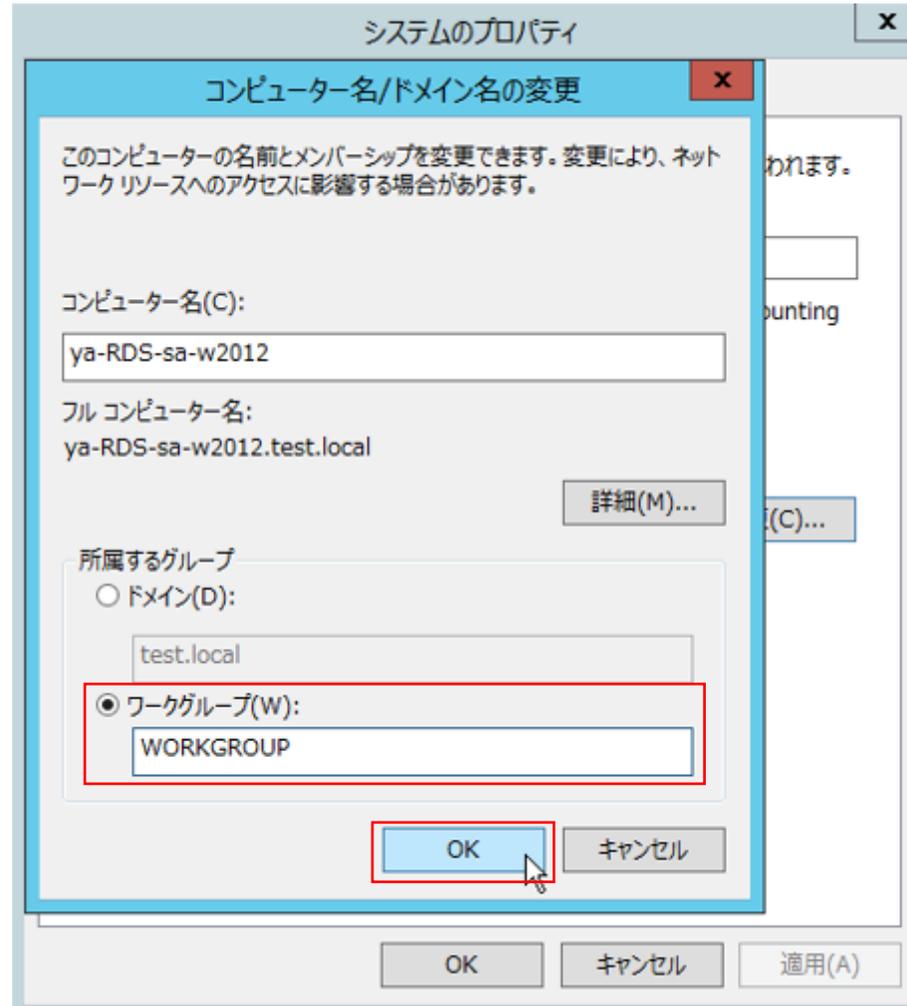
※この操作はライセンスサーバーにて実施します。



■ 7.旧環境の削除

所属するグループのワークグループにチェックを入れて適当な名前を入力し、ドメインから離脱します。

※この操作はライセンスサーバーにて実施します。



■ 7.旧環境の削除

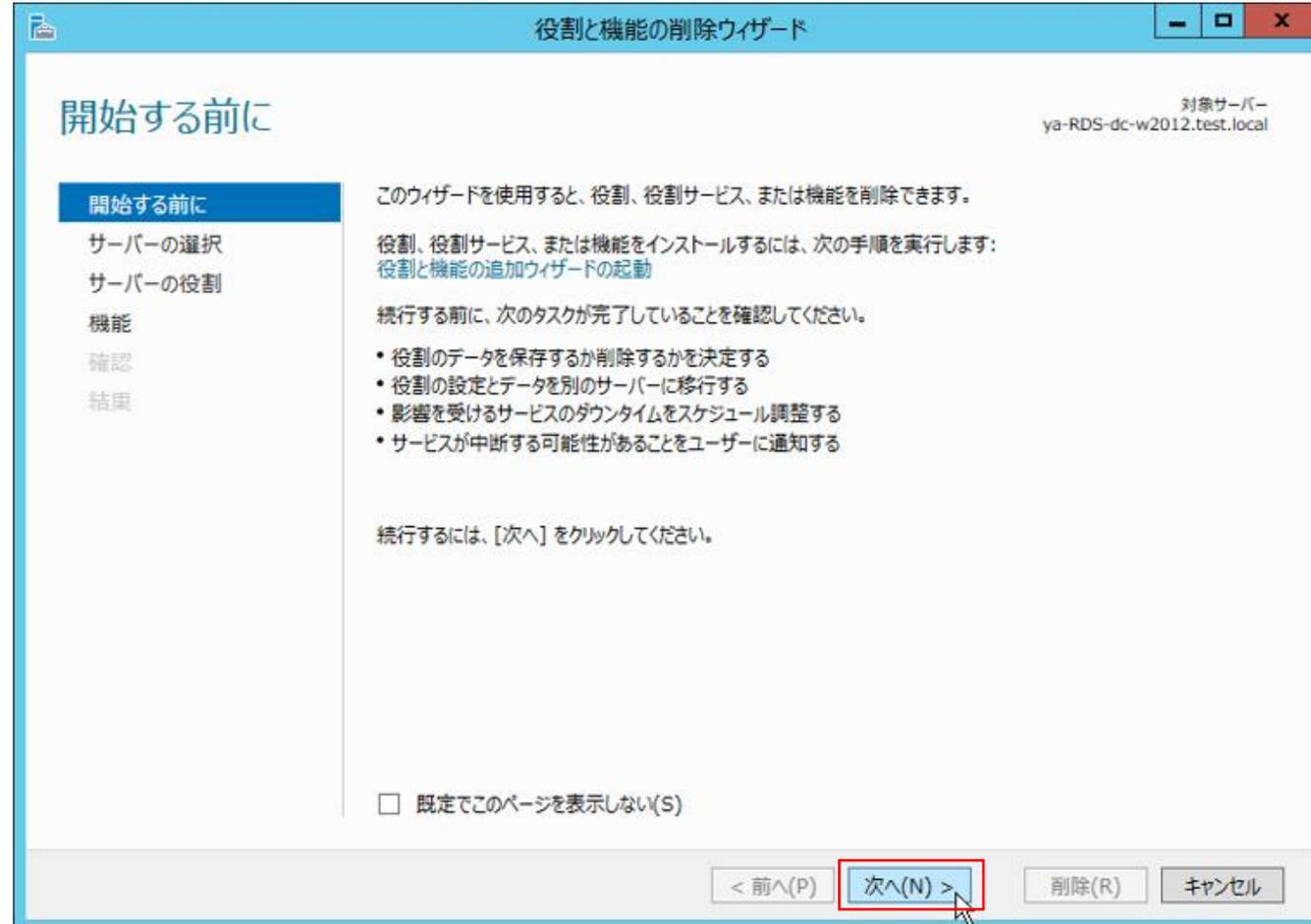
移行元サーバーのサーバーマネージャーの管理から[役割と機能の削除]を選択します。
※この操作はドメインコントローラーサーバーにて実施します。



■ 7.旧環境の削除

削除ウィザードに従って、[次へ]をクリックします。

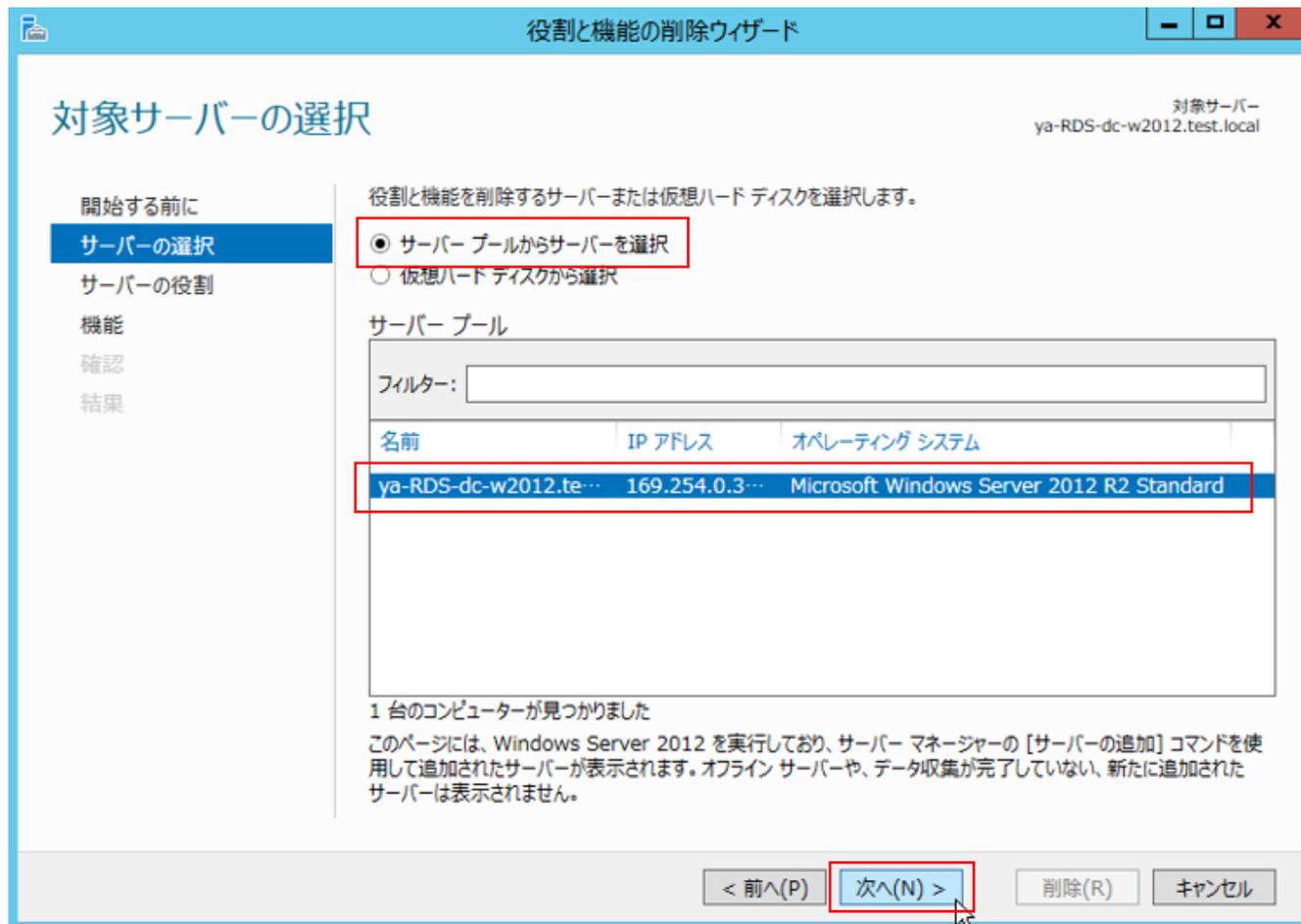
※この操作はドメインコントローラサーバーにて実施します。



■ 7.旧環境の削除

サーバープールからサーバーを選択にチェックを入れ、対象のサーバーを選択して[次へ]をクリックします。

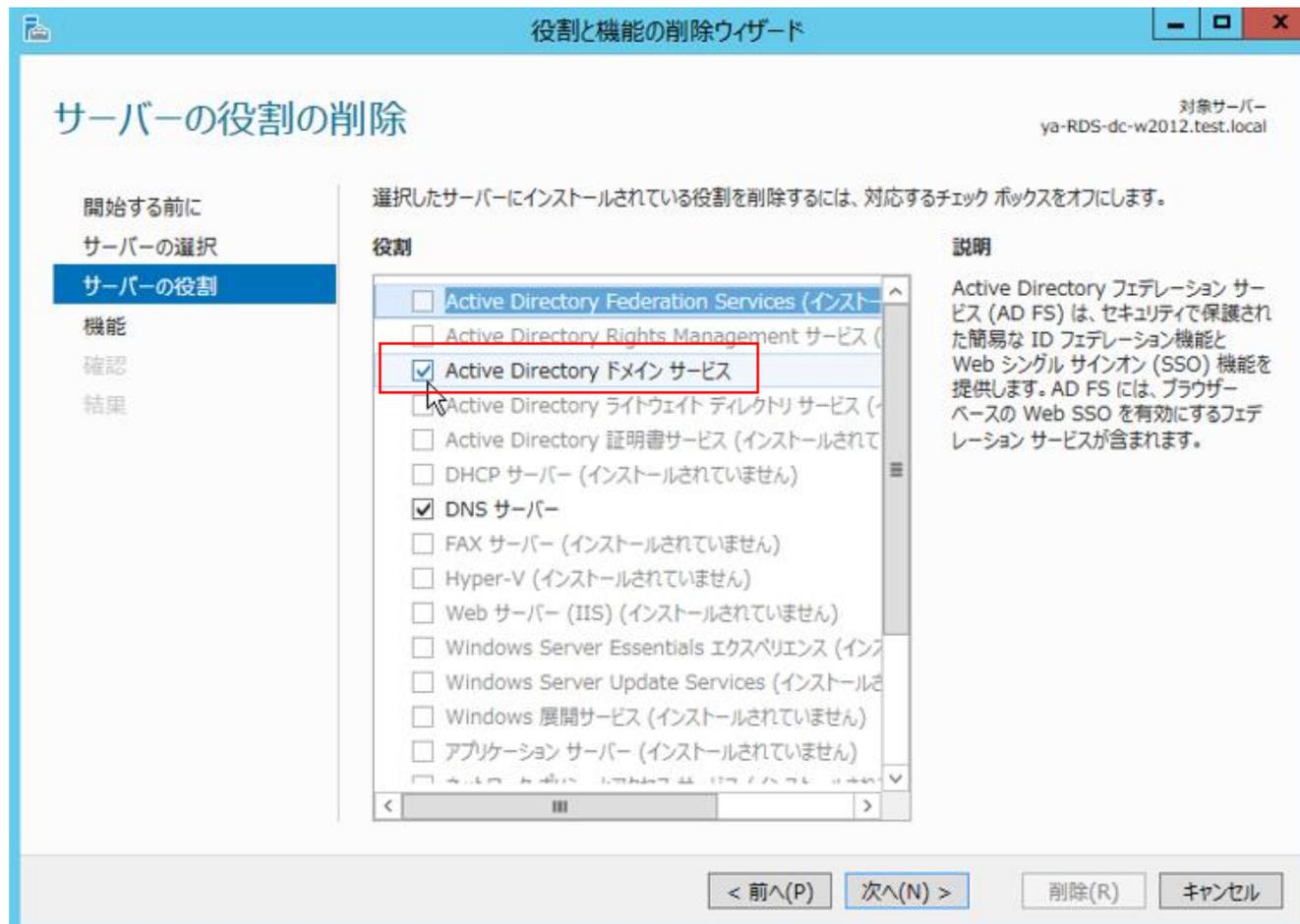
※この操作はドメインコントローラーサーバーにて実施します。



■ 7.旧環境の削除

Active Directory ドメインサービスのチェックを外します。

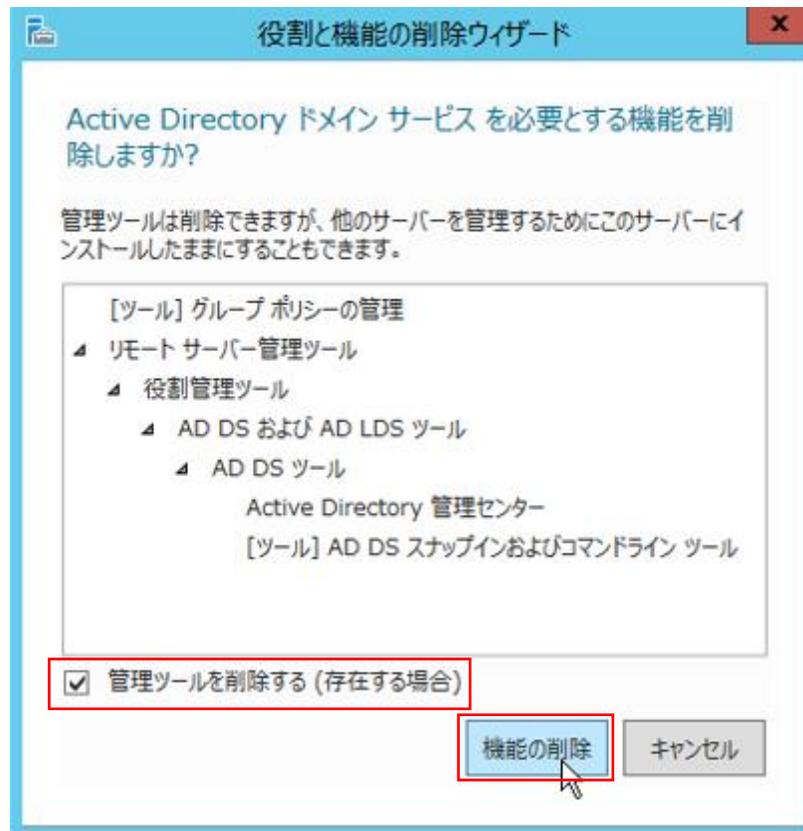
※この操作はドメインコントローラーサーバーにて実施します。



■ 7.旧環境の削除

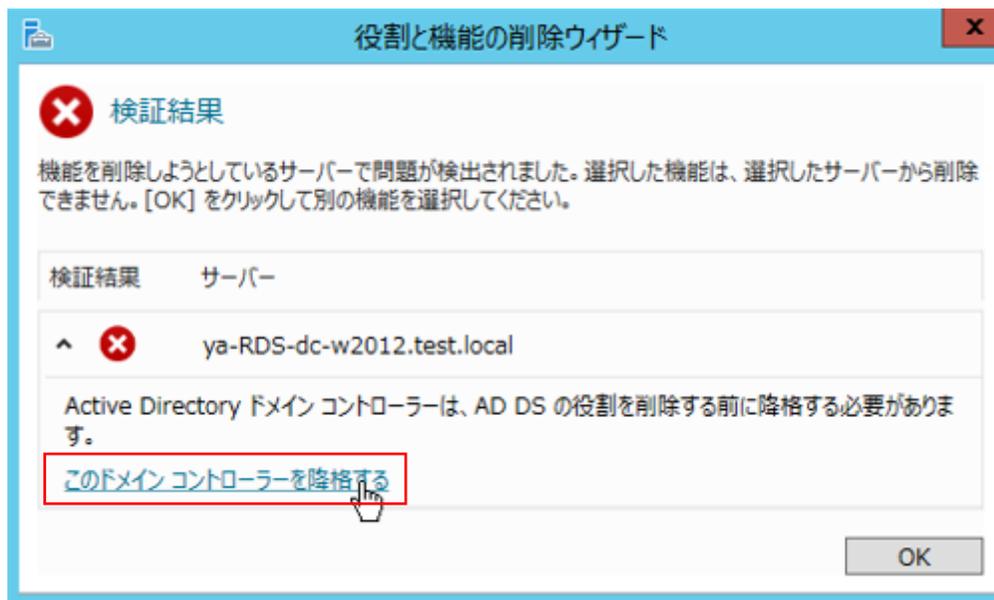
チェックを外そうとすると確認画面が表示されるので、[管理ツールを削除する（存在する場合）]にチェックを入れ、[機能の削除]をクリックします。

※この操作はドメインコントローラーサーバーにて実施します。



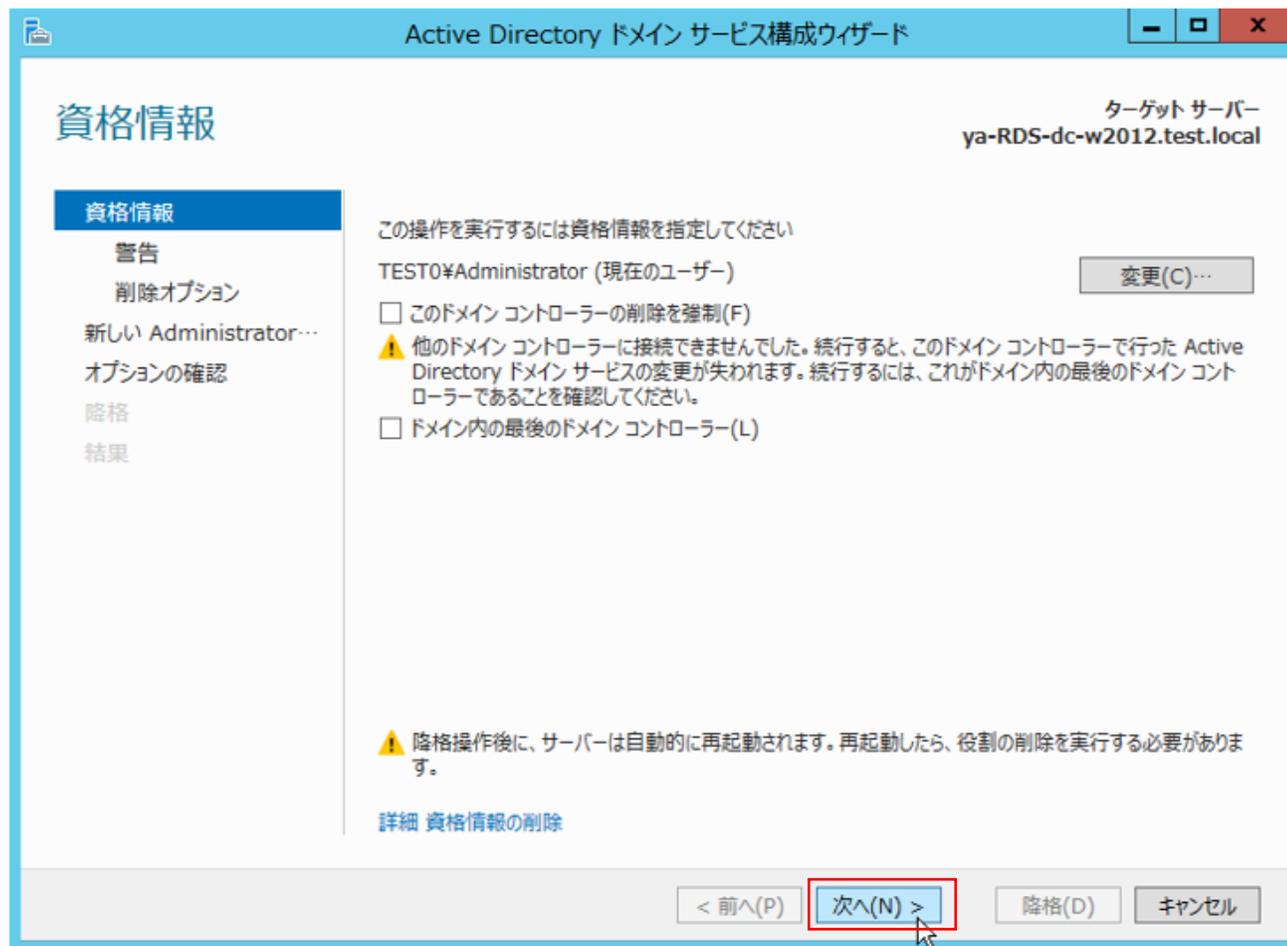
■ 7.旧環境の削除

先にドメインコントローラーを降格させる必要があるので、[このドメインコントローラーを降格する]をクリックします。
※この操作はドメインコントローラーサーバーにて実施します。



■ 7.旧環境の削除

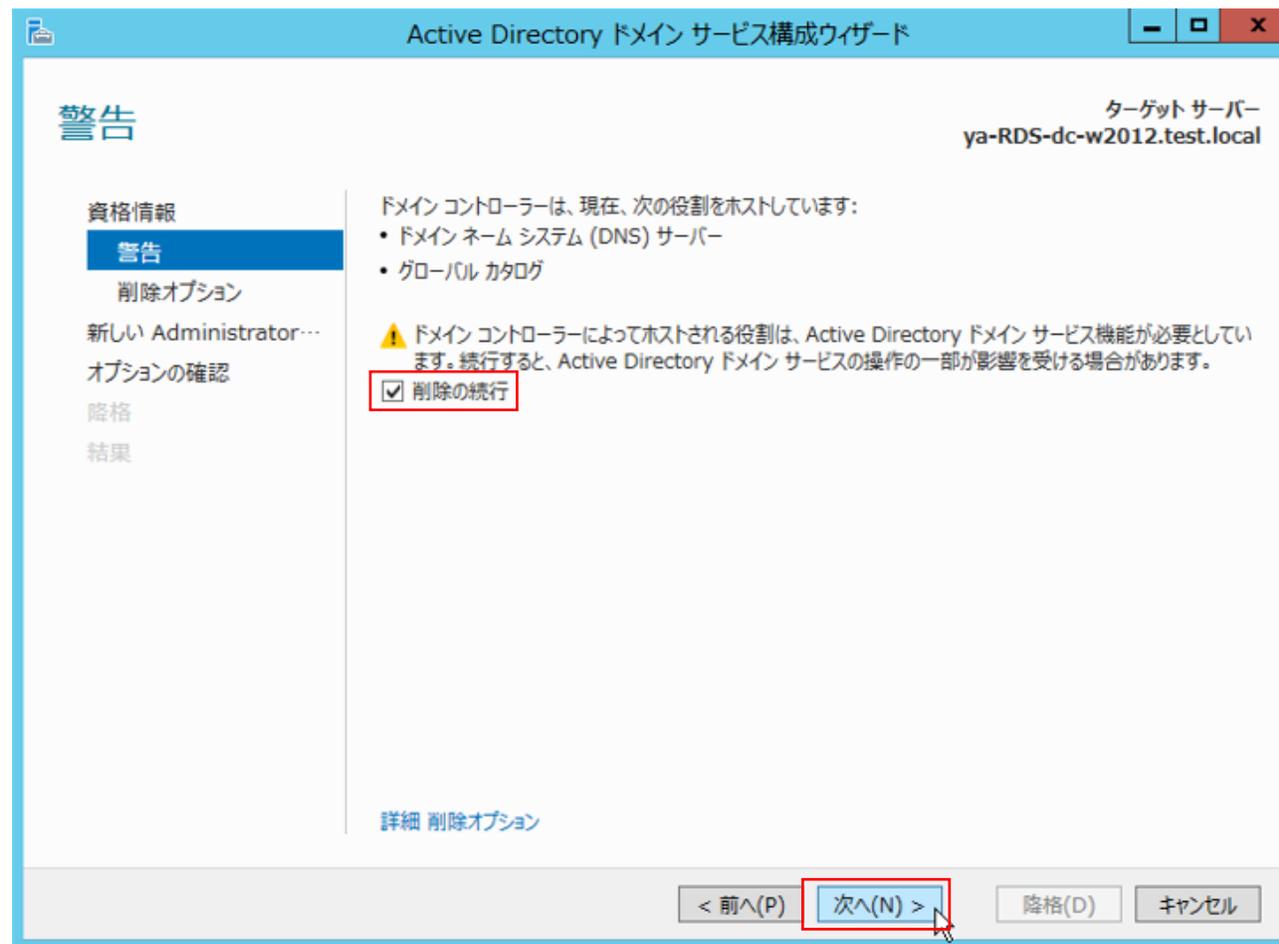
新環境のドメインコントローラーが残っているので、何もチェックを入れずに[次へ]をクリックします。
※この操作はドメインコントローラーサーバーにて実施します。



■ 7.旧環境の削除

警告内容を確認して、[削除の続行]にチェックを入れ、[次へ]をクリックします。

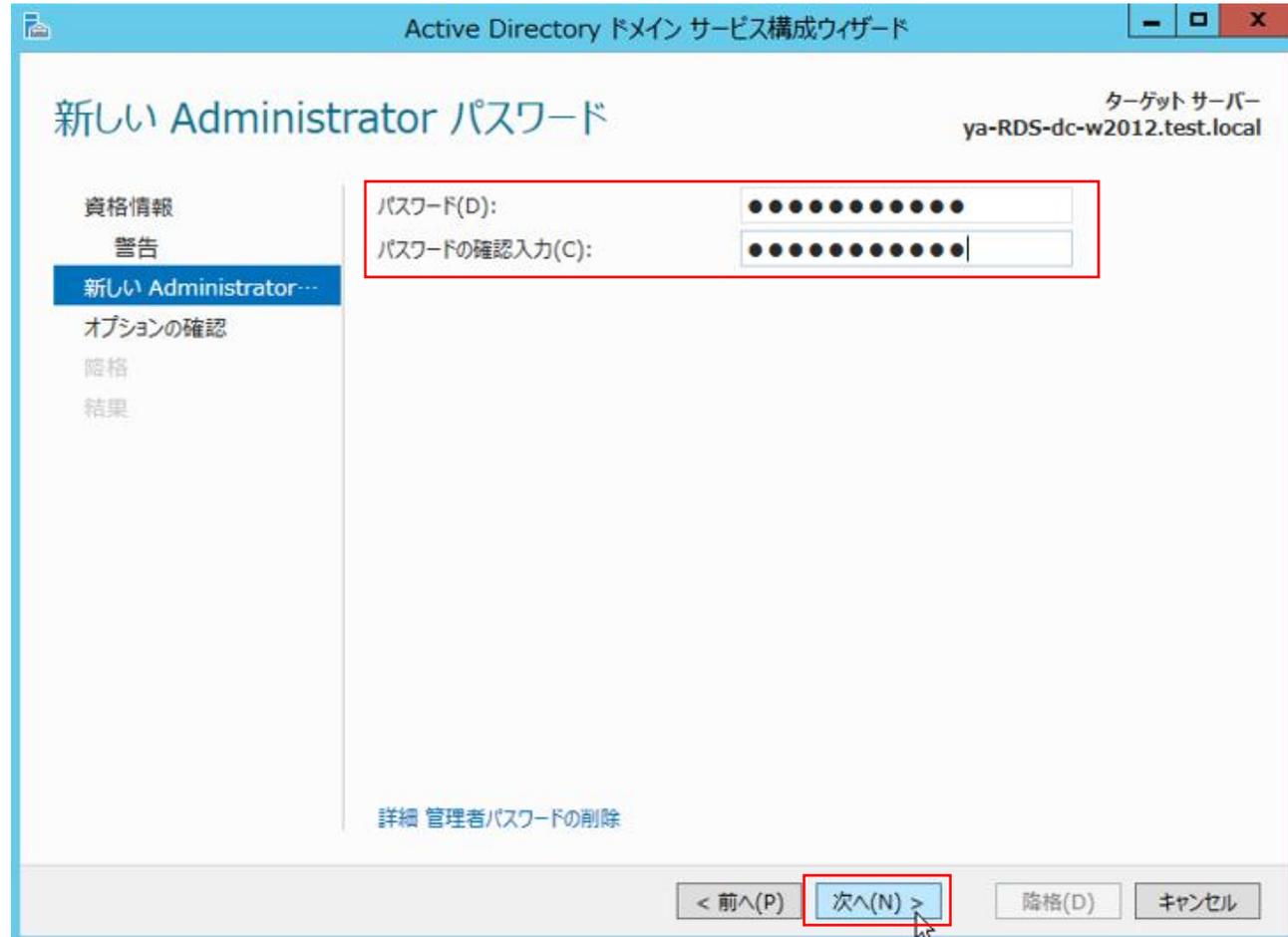
※この操作はドメインコントローラーサーバーにて実施します。



■ 7.旧環境の削除

パスワードの設定を要求されるので、任意のパスワードを入力して[次へ]をクリックします。

※この操作はドメインコントローラーサーバーにて実施します。



Active Directory ドメイン サービス構成ウィザード

新しい Administrator パスワード

ターゲット サーバー
ya-RDS-dc-w2012.test.local

資格情報

警告

新しい Administrator...

オプションの確認

階格

結果

パスワード(D):

パスワードの確認入力(C):

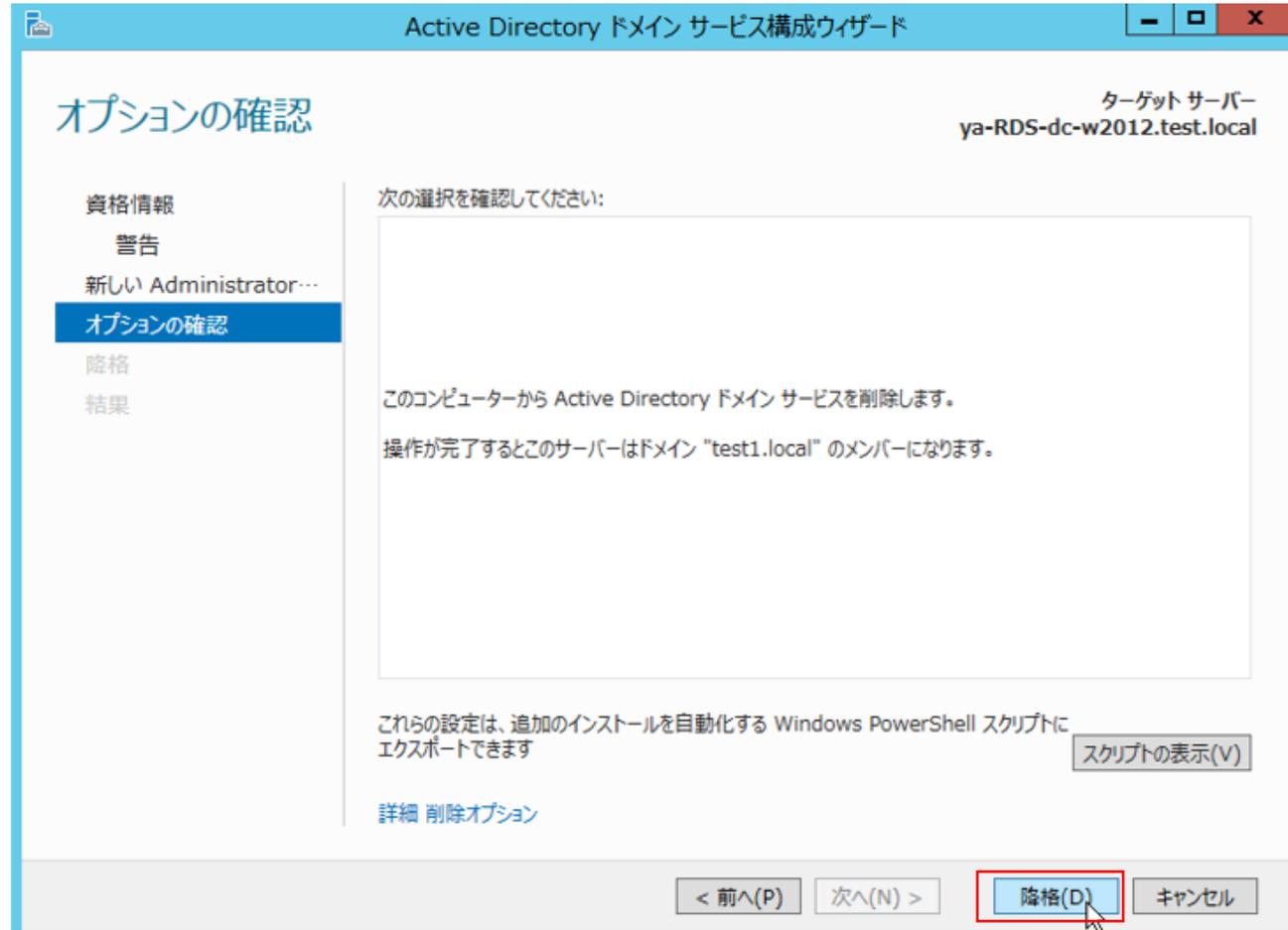
詳細 管理者パスワードの削除

< 前へ(P) **次へ(N) >** 階格(D) キャンセル

■ 7.旧環境の削除

表示されている内容を確認して[降格]をクリックします。

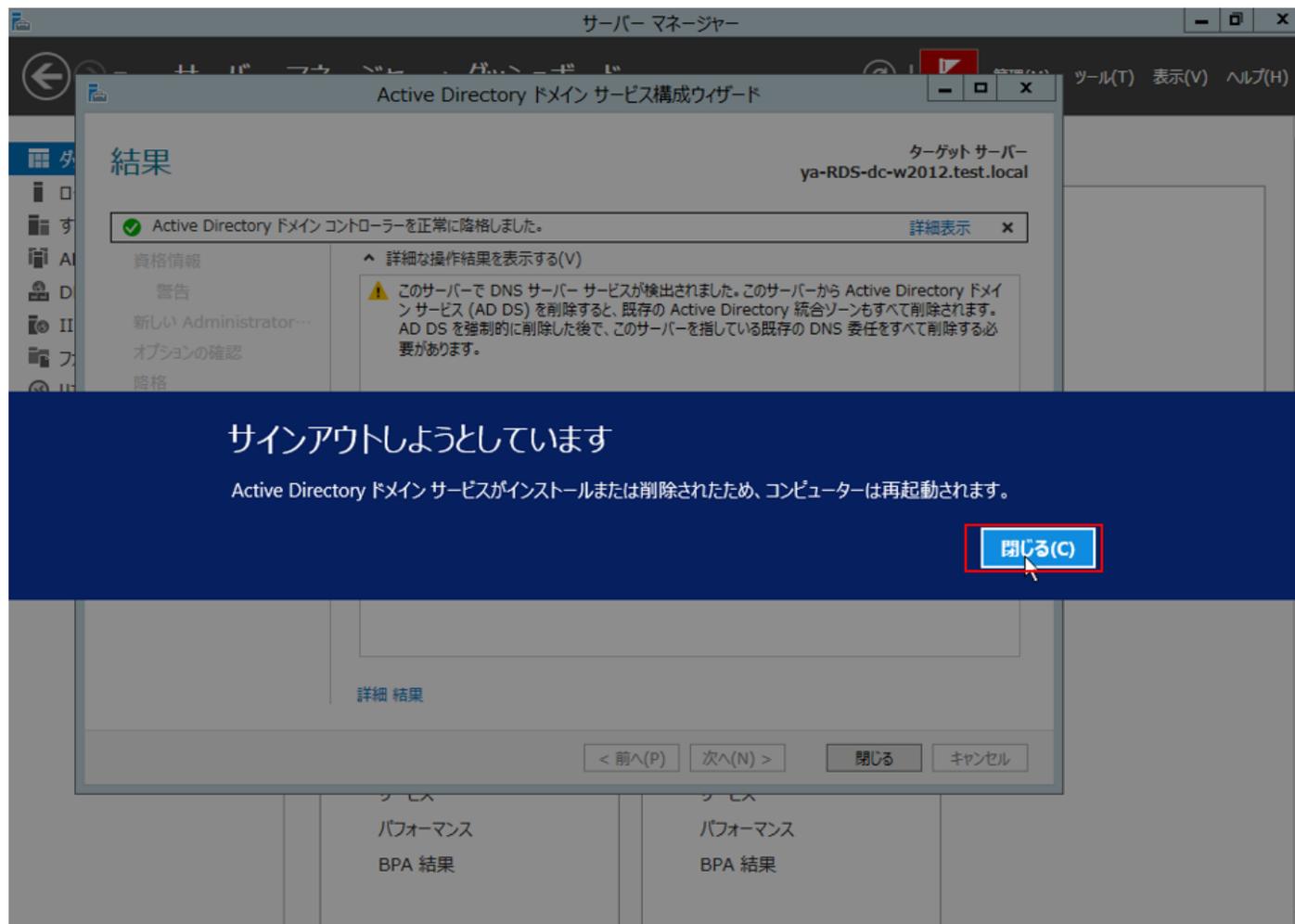
※この操作はドメインコントローラーサーバーにて実施します。



■ 7.旧環境の削除

Active Directory ドメインコントローラーの降格が完了するとサインアウトされます。

※この操作はドメインコントローラーサーバーにて実施します。



■ 7.旧環境の削除

移行先ドメインコントローラーサーバーの参照先DNS設定を変更します。

移行元ドメインコントローラーサーバー ⇒ 移行先ドメインコントローラーサーバー

※この操作はドメインコントローラーサーバーにて実施します。

■ 7.旧環境の削除

移行先ドメインコントローラーサーバーを再起動します。

※この操作はドメインコントローラーサーバーにて実施します。

■ 7.旧環境の削除

移行先ドメインコントローラーサーバーにて、以下の内容を確認します。

- ・ サーバーマネージャーでリモートデスクトップサービスが見えること
- ・ エラーが出ていないこと

※この操作はドメインコントローラーサーバーにて実施します。

■ 7.旧環境の削除

上記手順完了後、不要になった移行元のサーバーを削除します。

削除方法は以下を参照ください。

[インスタンスの削除](#)

[ボリュームの削除方法](#)

1.1.7 仮想サーバーインスタンス新環境移行（Windows Server+RDS SAL）データ移行手順

- APIを利用した移行作業内容および詳細
 - APIを利用した手順について、現時点での準備はございません。

■ 切り戻し方法

- 「手順7. 旧環境の削除」前であれば、移行元環境が残っているため、切り戻しが可能です。
- 「手順7. 旧環境の削除」後の切り戻しはできません。
- 必要に応じて、以下手順を参考にサーバーインスタンスのスナップショット作成やバックアップの取得をご検討ください。

[2.6. インスタンスのスナップショットを作成する - サーバーインスタンス チュートリアル](#)

[5.2. ボリュームをイメージ管理へアップロードする - サーバーインスタンス チュートリアル](#)

[4. Arcserve UDP 10.0を用いたSmart Data Platform でのバックアップリストア運用例](#)

■ 手順通り進まない場合の対処方法

- エラー等が発生した場合や手順に関する不明点がございましたら、チケットシステムよりチケット起票いただきお問い合わせください。

※チケット起票手順につきましては、「[SDPFクラウド/サーバー関連チケット起票方法](#)」をご参照ください。
お問い合わせ内容によって下記区分をご選択ください。

Incident Submission	:	故障・不具合に関するお問い合わせ
General Inquiry	:	設備更改のガイドラインおよび手順書に関するお問い合わせ